

通し番号	用語	読み	英語	説明文
1	ISDN	あいすでいえぬ	ISDN	統合サービスデジタル網(Integrated Services Digital Network)を表わす略号で、電話とデータ通信等のデジタル通信を統合して一つの回線に対応可能としたシステム。64kビット/秒の情報チャンネルを基本として構成され、インターネット接続用等として、情報チャンネル2本からなる基本サービスが普及しはじめている。
2	IC型センサ	あいしーがたせんさ	IC sensor	感光素子の密度を上げて小型化した固体撮像素子のことをいう。縮小光学系を利用して、原稿の縮小撮影をしながら画像・文字の濃淡を読みとる。通常はCCDを利用したラインセンサで原稿を走査する。MOS構造を持つ感光素子を利用したセンサもある。
3	ICCプロファイル	あいしいしいぶろふあいる	ICC Profile	民間の標準化団体ICC(International Color Consortium)が提唱するCMS(Color Management System)の為のフォーマット。スキャナ、プリンタ、ディスプレイの色再現特性を記述するフォーマットで、この情報をシステム間で交換することにより、出力機器の色再現をコントロールするしくみを提供する。
4	アウトラインフォント	あうとらいんふおんと	outline font	文字をデジタル化する方式の1種で、文字を直線、曲線などの組み合わせによる輪郭線で表したものの(直線、曲線の各始点と終点の座標で表現)。ビットマップによるデータより少ないデータで画像処理(拡大、縮小、加工)が行える。
5	アゾ顔料	あそがんりょう	azo pigment	一般的な構造はアゾ基(-N=N-)をもち、その片側に芳香核、他方には芳香核あるいは不飽和共役置換基を有する合成色素。アゾ基の数によりモノアゾ、ジスアゾなどに分類する。可視域全部に吸収を示し、有機感光体の電荷発生材料として利用される。
6	厚膜ヘッド	あつまくへつど	thick film thermal head	厚膜プロセスで形成されたサーマルヘッド。発熱体、電極を印刷と焼成により形成したサーマルヘッド。薄膜ヘッドに比べ高耐久性だが発熱体の形成精度で劣る。
7	圧力定着	あつりょくていちゃく	pressure fixing	用紙上のトナー画像を、圧力をかけたローラ間を通過させることにより、用紙に固着する方式。圧力は20～40Kg/cm。トナーは圧力が加わると粘度低下を起こす材料で構成される。
8	圧力転写	あつりょくてんしゃ	pressure transfer	感光体等の記録ドラム上に現像されたトナーに記録紙を重ね、加圧ローラで加圧してトナーを記録紙の繊維におしつぶすし、すり込むことで転写する方法。この時の圧力を利用して定着を兼ねることができる。しかし、トナーの定着性が弱く再加熱が必要な場合もある。
9	アナログ光学系	あなるぐこうがくけい	analogue optical system	原稿像をミラー・レンズ等の光学素子により直接感光体上に投影する光学系をいう。light lensともいう。
10	アナログ複写機	あなるぐふくしゃき	analogue copying machine	原稿画像をレンズ系を通して、感光体上に走査結像させて潜像を形成し、次いで電子写真プロセス等の画像形成手段により可視化し複写画像を得る装置。
11	アピアランスマッチング	あぴあらんすまっちゃんぐ	appearance matching	電子データをプリンタで出力する場合、同じ電子データであっても、線の太り細りや周波数特性は採用された技術や方式によって異なることが多く、プリンタ間の見た目の違いを補正する技術をいう。
12	アブレーション	あぶれーしょん	ablation	高照度レーザなどの照射により、瞬時に材料の温度を上昇させ、熱分解、ガス化を引き起こし、照射部を除去する現象を指す。画像形成層の除去あるいは転写により、それぞれネガ像・ポジ像が得られる。
13	網かけスキャナ	あみかけすきゃな	direct scanner	(参照：ダイレクトスキャナ)
14	網点階調再現	あみてんかいちようさいげん	halftone reproduction	画像の濃淡を、点の大きさを変えて表現する方法の一つ。印刷では主として規則的に配列された点群(網点：形状は、四角、丸、楕円など)で実現する。このほかにランダムな構造の砂目網点、FMスクリーンや線の太さを変えて濃淡を表現する万線というのがある。
15	網点除去	あみてんじょきよ	mesh elimination (ME)	入力画像が網点構造を持つ場合、出力機器の網点成分と干渉しモアレが発生する。これを回避するため原画像の網点成分を除去すること。
16	アモルファスシリコン	あもるふあすしりこん	a morphous silicon	(参照：非晶質シリコン)

17	アモルファスセレン	あもるふあすせれん	a morphous selenium	(参照：非晶質セレン)
18	RET	あるいーてい	resolution enhancement technology(RET)	(参照：疑似高解像度)
19	RCペーパー	あるしーペーぱ	resin coated paper	酸化チタン微粉末などの顔料を含む薄いポリエチレン膜で原紙の両面を被覆した耐水性紙支持体。この支持体を用いた写真印画紙では、支持体が処理剤や水を吸収しないので、水洗乾燥が短時間で済むため迅速処理が可能。RCペーパーはコダック社の商品名。
20	暗減衰	あんげんすい	dark decay	帯電された感光体の表面電位が、暗所においても注入キャリア、熱励起キャリア等により減衰していくこと。
21	アンシャープマスク	あんしゃーぶますく	unsharp mask	印刷製版用のスキャナ等で使用されるエッジ強調処理。画像読み取り用の開口と同軸のそれより広い開口の2つを用意し、広い開口で読み取った値を極性を反転して係数を掛け、読み取り開口の値に足し合わせるにより画素値変化の大きな部分を強調する方法。
22	暗順応	あんじゅんのう	dark adaptation	(参照：明順応)
23	暗電流	あんでんりゅう	dark current	光導電体等を暗中に保持した時、熱的に発生したキャリアにより電圧印加下で流れる電流。電子写真感光体では、表面電位の暗減衰などに寄与する。
24	暗放電	あんほうでん	dark discharge	帯電されている感光体が暗中で放電する現象を言う。これとは別に、光を発しない放電現象をさして言うことがある。
25	ELアレイ	いーえるあれい	electroluminescence array	EL(エレクトロルミネッセンス)素子をアレイ状光源として用いた高解像度記録用光書き込みデバイス。EL素子は、電極・絶縁層(Y2O3)・発光層(ZnS:Mn)・絶縁層(Y2O3)・電極で構成され、交流電圧印加により中心波長590nmの黄橙色に発光し、高輝度で指向性がよい。
26	イーサネット	いーさねっと	Ethernet	現在、最も利用されているLAN(Local Area Network)の方式名。同軸ケーブル等の媒体を各端末で共有し、発信する端末は、媒体の空き状況を検出して放送的にデータを送出し、受信側は自分のアドレスに対応したデータのみを受け取る方式である。より線を用いた10BASE-Tや、それを高速化した100BASE-T等に進化している。
27	EPM法	いーびーえむほう	electro print marking process (EPM)	電子写真罫書法とも呼ばれる。主として造船工業等で大型鋼板上に電子写真的に切断し取付線、註記を罫書くため利用される。光導電粉体法によるものが現用されている。登録商標。
28	イオノグラフィー	いおのぐらふいー	ionography	静電記録方式の一種。気中放電により発生させたイオンを制御電極により制御して記録媒体に照射することにより静電潜像を絶縁性記録媒体上に形成し、これをトナーで現像することにより可視像を得る。気中放電をACあるいはDCで行う種々の方式がある。他に、X線による気体や液体のイオン化を利用する画像形成方法を意味することもある。(参照：イオンフロー記録)
29	イオン	いおん	ion	原子、分子から電子を奪った状態がプラスイオン、原子、分子に電子を付着させた状態がマイナスイオン。空気中のコロナ放電で発生されるイオンのうちプラスイオンはプロトンの水和物、マイナスイオンは炭酸イオンが主である。
30	イオン化	いおんか	ionization	分子や原子から電子を奪ったり、付着させたりすること。微視的には、電子、光が原子や分子と衝突することにより、イオン化がなされる。記録技術関連では、コロナ放電、絶縁層を介した電極間の放電などでイオン化がなされる。
31	イオンフロー記録	いおんふるーきろく	ion flow printing	放電によるイオン流を制御して記録媒体上に照射することによって潜像を形成し、これをトナー現像して記録画を得る記録方式。イオン源としてAC放電を用いるもの、DC放電を用いるもの等種々の方式をまとめて指すが、狭義にはコロトロンを用いたDCコロナ放電をイオン源として利用するものを特にさして使用されることもある。イオンプロジェクション法、イオンモジュレーション記録とほぼ同様。
32	イオンプロジェクション法	いおんぷろじえくしょんほう	ion projection process	放電によるイオン流を制御して記録媒体上に照射し潜像を形成し、これをトナー現像して記録画を得る記録方式を指し、「イオンフロー記録」とほぼ同義に用いられる。放電源としてAC放電を用い、単極性の極性イオンのみを取り出して記録媒体に照射するタイプの記録方式をさして狭義に用いることもある。(参照：イオンフロー記録)

33	イオンモジュレーション記録	いおんもじゅれーしょんきろく	ion modulation printing	(参照：イオンフロー記録)
34	イオン流束	いおんりゅうそく	ion flux	ある有限の断面積を持ったイオンの流れ。イオンフロー記録方式におけるイオン流の細い束をさして用いられることが多い。
35	石垣構造	いしがきこうぞう	stone-wall structure	熔融型熱転写インクリポンのインク層の構造の一種。カーボンブラック粒子が多量に充填されているとき強い凝集力であたかも石垣のような構造ができてその粒子間隙に低融点ワックス等からなる熱溶融性インクが保持されている。多数回印字が可能。
36	一重項酸素酸化	いちじゅうこうさんそさんか	singlet oxygen oxidation	光吸収もしくはエネルギー移動で励起一重項状態となった酸素による酸化。染料の光褪色の原因の一つ。
37	一成分現像法	いちせいぶんげんぞうほう	monocomponent development, single component development	キャリアを必要としない現像方式。トナーを帯電させる方法は潜像電荷によって電荷を誘起させる方法(導電性トナー)、あらかじめ特定極性に帯電させる方法(絶縁性トナー)に分類される。トナーには、粒子中に磁性粉を含有する磁性トナーと、非磁性トナーとがある。
38	一浴現像定着処理	いちよくげんぞうていちゃくしゅり	monobath processing	現像液に定着剤を適量加えて、写真感光材料の現像と定着を同時に行う単一処理液による処理。現像と定着を同時に行うので処理時間の短縮がはかれる。
39	移動度	いどうど	mobility	電荷をもった粒子の動き易さを表す。速度V/電界Eの比例定数として移動度 $\mu$ が $\mu=V/E$ と定義されている。空気中では、イオンが空気分子と約10-7mおきに衝突するために、イオンは電界Eに比例した速度Vで運動する。0, 1気圧では、プラスイオンは、 $\mu=1.8m^2/Vs$ 、マイナスイオンは $\mu=2.5m^2/Vs$ である。また、感光体中でも電子、ホールの動きやすさは移動度で表され、その大きさは大きな幅がある。
40	イメージスキャナ	いめーじすきゃな	image scanner	図形・写真などの画像イメージを光電変換を利用して読み込み、コンピュータに入力する装置をいう。画像をCCDなどのイメージセンサで走査して、画像の濃淡を光の強弱に変換し、更にそれをデジタル信号に置き換えてメモリに取り込む。
41	イメージセッタ	いめーじせった	image setter	写真、文字、イラストなどのデジタルデータをビットマップデータで受け取ってフィルムや紙の感光材料に記録する出力装置。一般的にはデジタルデータをビットマップに展開するRIPとレコーダを組み合わせたシステムの総称。
42	イメージセンサ	いめーじせんさ	image sensor	走査と受光器の両機能を具備し、走査しながら光電変換を行う素子。charge coupled device(CCD)や photo diode array(PDA)などがあり、原稿像の読み取りには1700~10000画素を直線状または千鳥状に配列したものが用いられる。(参照：電荷結合素子)
43	イレース法	いれーずほう	erase process	静電像転写法の一つ。誘電体フィルムへの転写の際に、フィルム背面から交流コロナに晒しながら感光体からフィルムを剥がす方法をいう。転写の際の異常転写による像乱れが抑えられる。
44	イレースランプ	いれーずらんぷ	e erase lamp	感光体に光照射して残存電荷を消去するランプ。メモリー現象を防止するため、クリーニングを容易にするため、などに用いられる。(参照：消去ランプ)
45	色温度	いろおんど	color temperature	完全黒体の色度と一致する光源の色度の表示で、その完全黒体の絶対温度で表わす。単位はK(ケルビン)を用いる。試料放射の色度が黒体放射軌跡上にないときには相関色温度を用いる。
46	色感覚	いろかんかく	color sensation, color perception, chromatic vision	放射または光により刺激されたとき、明暗または色に対する視器官の応答性のこと。(参照：色知覚)
47	色空間	いろくうかん	color space	すべての色を3種の互いに独立な成分で表示する3次元空間。
48	色空間圧縮	いろくうかんあっしゅく	color space compression	入力色空間で表現された広い色空間を狭い実記録空間範囲に圧縮すること。

49	色再現	いろさいげん	color reproduction	元の色を再現すること。カラー複写機では、原稿の色をY、M、C、K 4色のトナーで再現すること。
50	色収差補正	いろしゅうさほせい	correction of chromatic aberration	レンズの波長による像点のズレを色収差という。ガラスやプラスチックの屈折率は波長に応じて変化(分散)するため、レンズに白色光を入射させると結像位置が波長によってズレるつまり色収差が発生する。分散と焦点距離の異なるレンズを組み合わせて色収差を所望の許容量以下にすることを色収差補正という。レンズの色収差には2種類あり、光軸方向の結像位置ズレを軸上色収差といい、光軸垂直方向の結像位置ズレを倍率色収差という。
51	色修正	いろしゅうせい	color correction	原稿に忠実な色再現を行うために画像データの劣化や誤差部分を補正すること。自分の好みの色へ変更することも言う。
52	色順応	いろじゅんのう	color adaptation	環境を照明する光が色着いていた場合には、錐状体の種類(L、M、S)により異なった感度調整をして昼光での色の見え方を維持しようとする。たとえば、赤色光の下では、L錐状体が感度低下させる。
53	色ずれ	いろずれ	out of color registration	カラー画像における各色(CMYBk)間の画素位置ずれを意味する。電子写真の場合、主走査方向では露光デバイスによる書込み位置変動に起因するものと、感光体や転写ベルトの寄りや蛇行運動が原因となる。副走査方向では感光体や転写部材の速度変動などに因る。(参照:主走査)
54	色知覚	いろちかく	color perception, chromatic vision	対象の色を知る機能。色光からは、明暗に関する印象と色に関する印象を人間は受ける。通常、はこれらを広く含めて色の知覚と言う。狭義には明暗の印象を除いて用いる。色光の性質は3刺激値によって規定されるが、実際に知覚される色は、観察条件により影響を受ける。
55	色分解	いろぶんかい	color separation	カラーの原画像を3色に分離する処理をいう。カラーフィルタやダイクロミックプリズムなどを用いてRGBまたはCMYの3原色に分解することが多い。分離された各像は濃淡の情報を持つ。
56	色変換	いろへんかん	color conversion	表現の異なる色情報へ変換することを色変換という。カラー複写機では、原稿をカラーキャプチャーで読み取った赤、緑、青データをプリント用のイエロー、マゼンタ、シアン、ブラックデータへ変換する。色変換技術にはマスキング演算法、メモリマップ法、補間法などある。
57	インクカートリッジ	いんくかーとりじ	ink cartridge	インクを収納する容器。インクジェットプリンタのキャリッジ上でプリントヘッドと直接つながっているタイプとチューブなどのインク供給管を通してプリントヘッドにインクを供給するタイプがある。インクタンクと呼ぶ場合もある。
58	インクジェット捺染(なっせん)	いんくじえつとなっせん	inkjet textile printing	インクジェット方式を利用した捺染法。従来の捺染法と比較して生産速度の面では劣るが、デジタル化に対応し、無版で布に印刷でき、多品種少量生産、納期短縮などのメリットがある。
59	インクジェットはがき	いんくじえつとはがき	inkjet post card	インクジェット記録適性を有するはがきで、はがき裏面にインク受容層がコーティングされていて、発色性に優れ、写真などの印刷が可能。
60	インクジェット普通紙	いんくじえつとふつうし	inkjet plain paper	インクジェット記録適性を有する普通紙。通常、電子写真用普通紙にインクの記録適性を付与したもので、インクの定着性、滲みの制御、耐水性向上などの性能が考慮され設計されている。ノンコートタイプと極微量の表面コーティングがほどこされているタイプのものがある。
61	インクジェット方式	いんくじえつとほうしき	inkjet printing system	記録液を細いオリフィスから微少な液滴として吐出させ、これを画像信号で制御しながら記録紙上に付着させて記録する方式。情報のある場合のみ液滴を発生させるオンデマンド方式と、連続的に液滴を発生させ、情報に応じて吐出方向を変化させて記録するコンティニューアス方式に大別される。
62	インクジェット用OHPフィルム	いんくじえつとようOHPふるむ	inkjet transparency film	透明性基材の片面または両面に透明なインク受容層が形成されたOHP用シート。インク受容層の主成分としては水溶性樹脂系と無機顔料系に大別される。透明性基材としてはポリエチレンテレフタレートフィルムが多用される。
63	インク室	いんくしつ	ink chamber	インクジェットプリントヘッド内において、各ノズルへインクを分流するためのインク溜り。
64	インク受容層	いんくじゅようそう	ink absorbing layer	インクジェット記録用媒体において、インクを吸収し、染料、顔料などの色材を定着させるために基材上に形成されるコーティング層。主成分は水溶性樹脂系と無機顔料系に大別される。

65	インク層	いんくそう	ink layer	熱転写記録材料の着色剤層。カーボンブラックや有機顔料等の色材とワックスおよびポリマーを主成分とする熱溶解性の着色材料をPETフィルム等の支持体上に塗布して設ける。一般的に0.5から4ミクロン程度の厚みで100前後で溶解する染料熱転写シートの染料層を呼ぶこともある。
66	インク定着時間	いんくていちゃくじかん	drying time	インクが記録紙上で吸収され見かけ上乾燥するまでに要する時間
67	インクミスト方式	いんくみすとほうしき	ink mist printing system	一度に画面幅をカバーするインクの霧を発生させ、記録紙との間に設けたアレイ状のオリフィスを画像信号により静電的にスイッチングしてインクの霧の通過を制御する事により記録する方式。
68	インク溶媒	いんくようばい	ink solvent	インクジェット用インクにおいて、染料、顔料などの色材を溶解または分散する溶媒。また、安定した液滴を形成するための液媒体。水溶性、非水溶性の両方の有機溶剤が使われる。
69	インクリフィル	いんくりふいる	ink refilling	インク液滴が吐出後、新しいインクがインク室からオリフィス部分に供給されること。
70	IN-SITU	いんさいちゅー	in-situ	その場所の意から、画像信号に応答する場所に色材が形成され固定される方式を意味する。銀塩写真、ダイレクトサーマルなどがこの方式にあたる。また意味が転じて重合トナーなど一つの反応釜でトナーを製作することを指す場合がある。
71	印字/消去特性	いんじ/しょうきよとくせい	printing/erasing characteristic	記録動作および消去動作に対する印字および消去に対応したリライタブルマーキング材料の特性をいう。一般に、記録動作あるいは消去動作にともない記録媒体に印加されるエネルギーと画像濃度の関係で評価される。
72	印字品質	いんじひんしつ	text quality, character quality	文字等を紙へ記録する際の画像品質。文字等の記録では、濃度が2値的に変化するので、品質を決定する要因も、印字濃度、線幅の再現性、線のなめらかさ、ノイズの有無等となる。
73	インスタントカラー写真	いんすたんとからーしゃしん	instant color photography	露光後きわめて短時間に仕上がりと写真の得られるカラー写真作成法。カメラ内で処理できる色素拡散転写方式が一般的。感光層内に一様に存在する色素が、露光と処理により露光量に逆対応して放出されて受像層に転写され画像を形成する。剥離型と単シート型がある。
74	インターネット	いんたーねっと	Internet	自律的に運営されている地域ネット、バックボーンおよび多数のローカルネットを共通のTCP/IPというプロトコルで接続した世界的なコンピュータ間通信のネットワーク。1969年に米国で作られたARPANETをベースとしている。この上でサービスされているWWWや、電子メールで有名である。
75	インパクトドットマトリクスプリンタ	いんぱくとどつとまとりくすぶりんた	impact dot matrix printer	着色剤を含んだリボン状部材と用紙を重ね、マトリクス状に配置されたピンを画像情報に従って駆動し、機械的衝撃力により着色剤を転移させる方式。
76	インプレッション現象法	いんぷれっしょんげんぞうほう	i mpression development	帯電したトナー層を形成させて、静電潜像面に加圧接触させて現像する方法。
77	インラインセンサ	いんらいんせんさ	inline sensor	(参照：マルチチップ型センサ)
78	WYSIWYG (ウィジウィグ)	ういじういぐ	WYSIWYG	What You See Is What You Get の略で「ウィジウィグ」と読む。モニタに表示された通りのイメージが出力されるという意味で使用される。従来、レイアウトしか表示できなかったが、技術進歩により文字の書体までモニタに表示できるようになった。
79	ウィナースペクトル	ういなーすべくとる	Wiener spectrum	ランダムパターンの自己相関関数を有限領域でフーリエ変換した2乗値の集合平均である。電子写真の画像がトナーの粒子で形成されていることから、トナー画像および下地の粒状性評価に用いられている。
80	ウェーバー・フェヒナーの法則	うえーばー・ふえひなーのほうそく	Weber-Fechner's law	ある刺激Bを与えておいて刺激量 Bだけ変化させて、その変化を感じるための最小閾値(弁別閾)を測定すると、 $B/B_0 = \text{一定}$ と近似できる。これをウエーバーの法則という。また、Bに対する感覚は、 $S = k \log(B/B_0)$ $= k \log(B/B_0)$ $k$ : 定数, $B_0$ : $= 0$ に対応する基準値すなわち、感覚は刺激の対数に比例する。これをフェヒナーの法則という。また、これら両者をあわせてウエーバー・フェヒナーの法則という。

81	ウエーブレット符号化	うゑーぶれつとぶごうか	wavelet coding	多重解像度表現を実現する(双)直交フィルタバンクによる変換符号化を基本とする方式。各変換係数に信号の空間・周波数領域での局所的性質が反映されることを利用することで高いレート歪特性が得られるのが特徴。
82	ウェブクリーニング	うゑぶくりーにんぐ	web cleaning	ロール状の紙、布等を感光体に圧接し、巻き取り移動させながら感光体上の残存トナーを除去する方法。
83	ウォームアップタイム	うゑーむあつぷたいむ	warm-up time	電源スイッチを入れてからプリント動作が可能になるまでの時間。電子写真方式では熱定着器が所定の温度に達するまでの時間により定まる場合が多い。
84	ウォラストンプリズム	うゑらすとんぶりずむ	Wollaston prism	複屈折を利用し、直交する偏光面を持つ2つの光線に分離するためのプリズム。方解石、水晶などの1軸性結晶を結合したものよりなる。
85	内型カラーフィルム	うちがたからーぶいるむ	coupler-in-emulsion type color film	写真乳剤層内にカプラーが内蔵されている形式のカラーフィルム。外型カラー写真に比べ現像処理が簡単な特徴がある。現用の一般カラー感光材料の殆どは内型カラー方式である。
86	海島構造(うみしまこうぞう)	うみしまこうぞう	sea-island structure	固体の物質が大きく見て2種類からなっており、比較的連続的に見える方(海にたとえる)の中に不連続的に他の一方(島にたとえる)が混在している状態の構造。合成樹脂を多く含む相とパラフィンを多く含む相からなる熱熔融インクリポンは多数回印字が可能。
87	エアベアリング	えあべありんぐ	air bearing	空気軸受け。20,000～40,000RPM程度的高速ポリゴンスキャナモータの軸受けとして使用される。
88	エアロゾル現像法	えあろぞる(げんぞうほう)	aerosol development	気体を分散媒とし、固体または液体の微粒子が懸濁している分散系をエアロゾルという。空気中に懸濁させたトナー粒子で静電潜像を可視化する方法をエアロゾル現像法と言う。
89	APS	えーぷーえす	Advanced Photo System	フィルムメーカーとカメラメーカーが共同開発した24mm写真フィルムシステム。1996年に発表。カメラへの装填、現像処理時の取り扱いを簡便化。支持体の裏面に透明磁性体が塗布され、撮影、プリント条件などを記録する事が出来る。
90	液晶シャッタープリンタ	えきしょうしゃったーぶりんた	liquid crystal shutter printer	光源と感光体間に配置された液晶シャッターアレイを、画像信号によりシャッター毎に独立的に開閉して露光を行い、感光体上に静電潜像を形成し電子写真プロセスにより可視像とするプリンタ。液晶材料としてネマチック液晶や強誘電性スメクチック液晶が用いられる。
91	液晶シャッターアレイ	えきしょうしゃったあれい	liquid crystal shutter array	液晶分子への電界の印加あるいは除去により液晶分子の配列変化を起こさせることにより、光の透過や遮断を行う素子を液晶シャッターという。液晶シャッターを1次元配列し、光源に蛍光灯、結像素子に収束型ファイバーレンズアレイを用いてユニット化したものが光書き込みヘッドとして使用されている。
92	液体現像剤	えきたいげんぞうざい	liquid developer	誘電性液体中にトナー粒子を懸濁したもの。電気泳動現像法で用いる。一般にカーボンブラックのような顔料に帯電性と定着性を付与する樹脂を吸着させ、誘電性液体に分散させて作る。
93	液体現像法	えきたいげんぞうほう	liquid development	誘電性液体中にトナー粒子を懸濁させた液体現像剤を用い、静電潜像によって作られる電場でトナー粒子を泳動させ可視像を作る電子写真現像方式。電気泳動現像法ともいう。トナー粒径が小さいので高品位な画像が得られる。
94	液体スプレー現像法	えきたいすぶれーげんぞうほう	liquid spray development	帯電した液滴を感光体と近接した現像電極間に導入すると静電像の電荷密度に比例した液滴が付着、現像される。霧吹きからインキまたは色素溶液を噴霧すると静電誘導で液滴が帯電する。定着の不要な現像法である。
95	液体トナー	えきたいとなー	liquid toner	液体現像剤と同じ。誘電性液体中に分散されたトナーの意味。(参照:液体現像剤)
96	液滴	えきてき	ink droplet	粒子化したインキ。その体積・飛翔速度はノズル構造及び駆動条件などによって決定される。高画質化のため、更なる小液滴化・高精度化が求められている。
97	SRF	えすあーるえふ	soft roll fuser (SRF)	熱ローラ方式の一種。ローラ表面を耐熱性弾性材料の薄層で被覆し、定着の際にトナーを包み込むように加熱する。光沢が均一で拡がりの少ない定着像が得られる。

98	sRGB	えすあーるじーびー	sRGB	インターネットやパソコン用プリンタ等で使用することを狙いに標準の色空間として提案されているRGB空間。RGBの色度はITUがHDTV用に定めた値を採用し、値は現存のディスプレイに合うように修正されている。観察条件も規定している。現在、ISO、IEC等で規格化の検討が進んでいる。
99	SLA	えすえるえー	selfoc lens array	屈折率分布型レンズを多数配列して、各レンズによる正立等倍像を重ね合わせて全体で1個の連続像を形成する光学系の商品名。両端が平坦なラジアル型GRIN (Gradient Index) レンズを用いている。(参照: レンズアレイ)
100	X線フィルム	えっくすせんふいるむ	X-ray film	X線による放射線撮影用に設計されたフィルム。直接撮影用及び間接撮影用に大別される。直接撮影用は感度とコントラストを増すため、通常フィルムベースの両側に写真乳剤が塗布される。
101	エッジ強調	えっじきょうちよう	edge enhancement	画像の輪郭部の濃度勾配を急峻にし、画像をシャープにする処理。もとの画像からその2次微分を引くこと(ラプリアンフィルタ)やアンシャープマスクにより行なうことができる。(参照: アンシャープマスク)
102	エッジ効果	えっじこうか	edge effect	面積の広い画像の周辺部で濃度が高く、中央部が低く現像されること。現像電極を近接して配置することにより、濃度差を少なくすることができる。電子写真感光体上に形成される静電潜像の境界部分では強い電界(縁電界という)が生じ、現像されやすく、一方広い面積の中ほどの潜像部においては電界が弱く、現像され難いために起こる。
103	エッジスムージング	えっじすむーじんぐ	edge smoothing	文字等の斜め線を解像度の低いプリンタやディスプレイ等で再現するとギザギザとなる場合がある。これを中間の階調の画素や細分化した画素を追加したり置き換えたりして滑らかに見える様にすること。
104	NFP	えぬえふびー	near field pattern	レーザー共振器の発光端面近傍での光強度分布であり、近視野像ともいう。半導体レーザーでは、へき開面上の光強度分布に相当する。
105	NPプロセス	えぬびーぶるせす	NP process	絶縁層を表面層に有する感光体に、一次帯電、画像露光と同時の除電、全面露光を与え、絶縁層上に静電潜像をキャリアの注入および移動によって形成する方法。キヤノンによって開発された。
106	FMスクリーニング	えふえむすくりーにんぐ	frequency modulation screening	従来の印刷では網点の大小により階調を表現していた(Amplitude Modulation(AM) Screening)。本方式では、一定領域内の微細な点の分布を変化させ、その数の合計により階調を表現する。階調が滑らか、モアレの発生なし、などの利点はあるが、品質管理などの問題も残る。
107	f レンズ	えふしーたれんず	f lens	レーザー走査に用いるレンズで、回転多面鏡等で角度走査されたビームを結像面上で等速走査させる機能がある。像高をY、レンズの焦点距離をf、レンズへの入射角度をとすると、 $Y=f \cdot \tan$ で表されることから命名されている。通常のカメラレンズは $Y=f \cdot \tan$ の関係式で定義される。
108	FFP	えふていーびー	far field pattern	レーザー共振器の発光端面から充分離れた位置での光強度分布であり、遠視野像ともいう。半導体レーザーでは、へき開面から発振されたレーザー光が広がりがながら伝播する様子を示す。
109	エマルジョンインク [印刷]	えまるじょんいんき	emulsion ink	油性のインクを水中に乳化分散して作製した印刷用インクのこと。主として謄写版印刷、グラビア印刷に用い、セット速度が速く、印刷面がマットになることが特徴とされる。火災の危険が少なく、臭気が少ない利点がある。
110	エマルジョンインク [インクジェット]	えまるじょんいんく	emulsion ink	エマルジョンを含有するインクジェット用インク。エマルジョンとは一般にある液体の小滴がそれとは相溶しない液体中に分散した状態をいう。着色エマルジョン、無色のエマルジョンと色材との組合せ等のケースがある。印刷部の耐摩擦性に優れる。
111	MR	えむあーる	modified READ (MR)	ファクシミリ用の冗長度抑圧符号化の一種で、日本から提案したREADを改良した方式である。ITU-T T.4(MR)とITU-T T.6(MMR)で規定されている。画素の色(白又は黒)の変化位置を前ラインと比較して符号化することで、副走査方向の相関性を利用して高い圧縮率を得ている。MRでは途中にMHラインを入れることで伝送時のエラーの波及を防止している。
112	MH	えむえいち	modified Huffman (MH)	ITU-T T.4 で規定されているG3 ファクシミリの基本冗長度抑圧符号化方式。白と黒画素の連続長をランレングス符号化するが、簡易化の為、代表的なファクシミリ画像に対して最適化した固定のハフマンテーブルを用いることからこの名称が付けられた。(参照: ハフマン符号化)
113	MMR	えむえむあーる	modified modified READ (MMR)	(参照: MR)

114	MTF	えむていーえふ	modulation transfer function (MTF)	光学系を一つの伝達系とみなしたとき、その光学系の性能を表わす指標の一つ。空間周波数ごとに正弦波状の入力像に対する出力像のコントラスト比で定義する。
115	MHEG (エムヘグ)	えむへぐ	MHEG	マルチメディアハイパーメディアタイトルを制作するためのシナリオ記述符号化方式の国際標準(ISO/IEC 13522シリーズ)。該標準作成機関(ISO/IEC JTC 1/SC29/WG12: Multimedia Hypermedia Information Coding Experts Group)の略称に由来する。
116	MPEG (エムベグ)	えむべぐ	MPEG	動画、オーディオ音声及び全体システムの符号化国際標準。ビットレート、解像度、機能などが相違するMPEG1、MPEG2、MPEG4という3シリーズが順に策定されている。標準作成機関(ISO/IEC JTC 1/SC29/WG11: Moving Picture Experts Group)の略称に由来する。
117	エリアイメージセンサ	えりあいめーじせんさ	area image sensor	(参照：リニアイメージセンサ)
118	LEDアレイ	えるいーでいーあれい	light emitting diode array	複数個の微小LED(発光ダイオードアレイ)を1次元配列したアレイ状光源。SLAなどのアレイ状結像素子と組み合わせて、光書き込みヘッドとして使用される。高密度記録用として1200dpiのものもある。
119	エルグラフィ	えるぐらふいー	elgraphy	ドライブプロセスで画像の入出力ができる技術。透明電極層、光導電層、中間層、メモリ性を有する液晶層から構成され、電圧が印加された状態で、光導電層に光像が照射されると、光電流が流れ、液晶層に光像が保存される。
120	エルコグラフィ	えるこぐらふいー	elcography	バッチベーション処理したスチールドラムに水溶性インキを塗布し、ピン電極とドラム間に電圧を印加し、ドラム表面の鉄イオンを放出させることによりインク中のアクリル酸を凝集させ画像を形成し、紙に加圧転写して記録を行うもので、カラーで30cm/秒の記録速度が得られている。
121	エレクトロクロミズム	えれくとろくろみずむ	electrochromism	電気化学反応により色が可逆的に変化する現象。有機ではメチルピオロゲン、無機では酸化タングステン薄膜などがあり、部分的に還元することで濃青色の画像が得られ、酸化により消色する。
122	エレクトロファックス	えれくとろふあつくす	electrofax	電子写真法の一つで、感光体として酸化亜鉛粉末を合成樹脂バインダーに分散、紙に塗布した酸化亜鉛紙が利用され、感光体上に直接画像を形成する。一般名化しているがRCA社の登録商標である。
123	遠隔診断サービス	えんかくしんだんさーびす	remote interactive communication service	複写機やプリンタの状態を通信回線を使用して離れた場所で把握し、この情報に基づいて複写機・プリンタを維持管理すること。
124	円筒走査	えんとうそうさ	cylindrical scanning	(参照：ドラムスキャナ)
125	エントロピー符号化	えんとろびーふごうか	entropy coding	画像データ等の符号化処理において、各種変換処理等を行った後のデータに、符号を割り当てる部分をいう。平均の符号長は、そのデータについて測定されるエントロピー(平均情報量)以下にできないので、このエントロピーにできるだけ近い効率で符号を割り当てるという意味でこの様に呼ばれる。
126	オイルレス定着	おいるれすていちゃく	oilless fusing	離型オイルを供給することなくトナーを熱ローラ定着すること。トナーにポリプロピレンやポリエチレンワックスを分散させ、定着時の加熱によりワックス成分をトナー表面にブリードさせることで、離型効果を得る。
127	押圧	おうあつ	pressing force, head pressure	感熱媒体にサーマルヘッドを押し当てる力。印字感度、サーマルヘッドの対摩擦層の摩擦度、インクシートの搬送シワなどに影響を与える。
128	応答周波数	おうとうしゅうはすう	maximum ink ejecting frequency	インクジェットにおいては、インクがノズルから正常に吐出を繰り返すことのできる最高周波数。ノズル、インク室の構造及びインクの物性によって決定される。
129	凹版印刷	おうはんいんさつ	intaglio printing	画像部が非画像部(版面)よりもへこんだ版(凹版)を用い、凹部にインクを満たして印刷する方式。直刻版、写真食刻版による印刷、グラビア印刷などがこれに属する。
130	オートバイアス法	おーとばいあすほう	auto bias method	電子写真における現像バイアス制御法の一つ。主に湿式現像に用いられ、地肌部電位検出用の電極を現像開始部に設け、画像先端部の最低電位を検出し地肌部バイアスを算出して、自己バイアス値に加えることで地肌汚れを防ぐ。



131	オートマスクング	おーとますきんぐ	automasking	減色法カラー写真用の重層型カラーネガ感光材料においてカラードカプラーを用いて好ましくない分光吸収成分を補正すること。
132	オーバーライト記録	おーばーらいと きろく	overwrite printing method	リライタブルマーキングにおいて、画像を書き換える際に消去動作と記録動作を単独に行わず、同時に両動作を混在して行い画像を書き換える記録手法。サーマルヘッド書き換えでは記録画点あるいは消去画点に対応する各々の発熱体を選択的に記録エネルギーあるいは消去エネルギーで駆動する。
133	大判インクジェットプリンタ	おおばんいんく じえつとぶりんた	wideformat inkjet printer	サイン、ディスプレイ市場向けのインクジェットプリンタ及びCAD向けのインクジェットプロッタなどの総称で、大型のインクタンクを有しA0判などの大判インクジェット記録用紙に出力する。
134	OPC	おーびーしー	organic photo conductor	(参照：有機光導電体)
135	オープン定着	おーぶんでい ちゃく	oven fusing (fixing)	面状ヒータやリボンヒータからの赤外線輻射熱や対流熱により用紙上のトナーを熔融固着させる方法。
136	押圧転写定着法	おしあつてん しゃていちゃく ほう	adhesive transfer and fixing process	感光体上に現像されたトナー像を接着性をもつ樹脂ベルトに押し当てて転写し、次いで、熱ローラにより用紙に転写定着する方法。
137	オフセット印刷	おふせつといん さつ	offset printing	オフセット平版印刷の略称。平版印刷では版材にインクがつく(親油性)画線部とインクがつかない(親水性)非画線部を作成し、版面に水とインクを交互に与えて印刷する。オフセット印刷は版上のインクをゴムブランケットに転移し、それを紙に転写する方式。その元の印刷版をオフセットマスタという。
138	オフセット現象	おふせつとげん しょう	toner offset	熱ローラによる定着時、トナー画像の一部が熱ローラに付着し取り去られる現象。(参照：コールドオフセット、ホットオフセット)
139	オフセットマスタ	おふせつとます た	offset master	(参照：オフセット印刷)
140	オリフィス	おりふいす	orifice	インクジェットプリントヘッドの吐出口。形状、寸法に高い精度が要求される。
141	オリフィスプレート	おりふいすぶ れーと	orifice plate	記録ヘッドのオリフィスを形成する平板状の部品。通常、30～90μm程度の厚みを持ち、SUS、プラスチックシートなどが用いられる。
142	折り曲げ性	おりまげせい	crease performance	折り曲げた際の画像のくずれ具合をいう。画像としての着色材料の強度および定着(付着)強度を表す尺度。
143	音響光学変調器	おんきょうこう がくへんちょう	acousto-optic modulator	物質に超音波を印加することで屈折率の変化を誘起し、光が回折を受ける現象を利用した光デバイス。特に、固定された超音波周波数の振幅変調により、物質内に発生する屈折率の疎密波が回折格子として働き、光の強度変調をもたらす光変調器。
144	Onsager (オンサーガー) モデル	おんさーがーも でる	Onsager model	光励起によって発生した電子-正孔対が分子内再結合をのがれて熱的に解離する確率は、キャリア対の距離と外部電圧の角度によって決まるとしたモデル。
145	オンデマンド印刷	おんでまんどい んさつ	on-demand printing	必要な時に必要な情報を必要な数量だけ印刷するという印刷のこと。パソコンやプリンタなどのデジタル技術の発達により、簡単な構成の印刷物の場合、製版機器・印刷機を使用しなくても比較的容易に小部数の印刷物が安価に得られるようになってきた。
146	オンデマンド型インクジェット	おんでまんどが た	drop on demand inkjet system	画像形成に必要なインクのみを画像情報に応じて吐出させ、記録媒体上に記録を行うインクジェット記録方式。ビジネス用またはパーソナルプリンターでは主流の方式である。
147	オンデマンド加熱	おんでまんどか ねつ	heating on demand	媒体を加熱するときのみ加熱手段を発熱させる媒体加熱制御手法。それが可能な加熱手段をいう場合もある。

148	オンデマンド消去	おんでまんど しょうきょ	erasing on demand	リライトブルマーキングにおいて、画像を消去するときのみ必要なエネルギーを消去手段に発生させる消去動作制御手法。それが可能な消去手段をいう場合もある。
通し番号	用語	読み	英語	説明文
149	加圧現象法	かあつげんぞう ほう	impression development	(参照：インプレッション現象法)
150	加圧ローラ	かあつろーら	pressure roller	定着ローラの対になるローラ。通常、耐熱弾性ゴムで被覆される。カラー電子写真の場合には、定着ローラ側を耐熱弾性ゴム、加圧ローラを剛体とし、用紙が自己剥離するよう構成することもある。(参照：定着ローラ)
151	カートリッジ	かーとりっじ	cartridge	電子写真装置においては、画像形成ユニットを一体化し交換容易としたものを指す。ユニットの構成は多種あるが感光体・現像機・クリーナからなるものが多い。環境保全の面から使用済みカートリッジを回収してリサイクルされている。
152	カーニング	かーにんぐ	kerning	文字と文字の間を一定ではなく、バランスよく組む機能のこと。和文写植組版でいう「つめ組」の意味に似ているが、本来は欧文イタリック体の文字の一部を隣の文字に食い込むようにして字間のバランスを取る意味で使用されていた。
153	カール	かーる	curling	用紙のそりをいう。機械的外力(巻きぐせ、しごき)および水分の脱吸湿による表裏の伸縮差で起る。熱ローラ定着時にはトナーの熱収縮が加わり、その程度が大きくなる。
154	カールソンプロセス	かーるそんぶろ せす	Carlson process	高絶縁性光導電材料を感光体とし、暗所で表面を帯電、次いで露光し、光像に対応して形成された電荷像(静電潜像)に着色粉体(トナー)を選択的に付着させ可視化する写真法。電子写真法の最も基礎的なもので発明者の名に由来。
155	開口効率	かいこうこうり つ	aperture efficiency, vignetting factor	写真レンズなどで、光軸上の像点に結像する光束と軸外点に結像する光束の割合をいう。海外では開口効率よりも、ケラレ量を意味する口径食(ビグネッティング)を用いるのが一般である。
156	解像度	かいぞうど	resolution	ファクシミリ、プリンタ、TVなどでどの程度細かく画像を表現できるかを表すもの。プリンターでは、単位長当りの描画ドット数で表し、慣用的に単位長としてインチを用い、dpi(dots/inch)と呼称する。レンズ、感光材料では解像力を用いる。
157	階層符号化	かいそうふうご うか	progressive coding	最初に解像度、レベル数、周波数帯域などが不十分な全体画像を送り、徐々に付加情報を送信し、最終的に最大品質の画像が受信側で再生される符号化方式。最終品質の画像が走査順に送られてくる通常の符号化方式を順次符号化、あるいは逐次符号化という。
158	解像力	かいぞうりょく	resolving power, resolution	結像素子の光学性能を表す。2点または2線が分離して見える限界の幅の逆数をいう。1mmあたりに含まれる等間隔の白黒1組の縞本数で表現する(line pairs/mm, 本/mm)。
159	階調再現	かいちょうさい げん	tone reproduction	印刷機やプリンタ、ディスプレイ等の画像出力装置において、階調(画像の明るさや色の变化)を原画あるいは入力データに対してどの様に再現するかを示す特性。画像再現、カラー再現の基礎となる。調子再現。
160	階調補正	かいちょうほせ い	tone correction	画像入力装置や出力装置等の階調再現特性を補正して、トータルなシステムとして希望の再現特性を得ること。
161	回転多面鏡	かいてんためん きょう	polygon mirror	(参照：ポリゴンミラー)
162	回転フィルタ方式	かいてんふいる たほうしき	color filter switching method	原稿像の色分解を行う際に、光源と受光素子(または感光体)の間に赤・青・緑(RGB)に分割された回転フィルタを挿入し、順次切り替えることにより色分解する方式。単色と共通な光学系が利用できるが、1ラインの読み取りに3回の走査が必要になる。
163	外部エネルギー履歴	がいぶえねるぎ りれき	external energy hysteresis	記録画像、消去画像を特定の温度、湿度条件下もしくは光などに暴露した履歴。リライトブルマーキングでは、この履歴によってリライトブル特性が変化することがある。

164	回復系	かいふくけい	head recovering system	ノズル内の気泡や目詰まり，表面の濡れなどの吐出を妨げる要因を除去するためにプリンタに設けた機構．例えば，ノズル内のインクを吸引して除去する機構や，表面のインクを拭き取る機構など．
165	界面障壁	かいめんしょうへき	i nterface barrier	二物質の接触界面に生じる電位障壁．界面電位．（参照：接触電位）
166	界面剥離	かいめんはくり	interfacial peeling	溶融熱転写インク層が層内でちぎれることなく隣接層から剥離する現象．
167	化学変化型サーマルリライタブルマーキング	かがくへんかがたりらいたぶるまーきんぐ	chemical change type rewritable marking	化学反応を利用したサーマルリライタブルマーキングの総称．具体例としては，ロイコ染料と可逆顕色剤の化学反応を利用したロイコ染料型リライタブルマーキングがある．
168	書き換えインターバル履歴	かきかえいんたーばるりれき	rewrite interval hysteresis	リライタブルマーキングの画像記録から消去迄のあるいは画像消去から記録迄の経過時間の履歴．リライタブルマーキングではこの履歴によって特性が変化することがある．一般に経過時間と記録特性あるいは消去特性の関係で評価される．
169	可逆顕色剤	かぎやくけんしょくざい	reversible developer	ロイコ染料とともに用いられ，発色および消色の機能を持った材料．リライタブルマーキング材料として用いられる．顕減色剤，長鎖アルキル顕色剤などがある．
170	可逆性感熱記録媒体	かぎやくせいかんねつきろくばいたい	reversible thermal recording medium	サーマルリライタブルマーキングに用いられる媒体．（参照：サーマルリライタブルマーキング）
171	架橋性	かきょうせい	cross linkage	橋掛けともいわれる．ゴム製造プロセスにおける加硫のように，線状高分子中のいくつかの特定の原子間に化学結合を形成すること．一分子内でも分子間でもよい．
172	拡散係数	かくさんけいすう	d iffusion coefficient	単位の濃度勾配があるとき，単位時間に単位断面積を通して拡散していく物質の量．
173	核沸騰	かくふっとう	nucleation boiling	液体を加熱して沸点に達したときに起こる沸騰現象．液体内部でランダムに気泡核が発生・成長する．発生した気泡の内圧は1気圧であるため自発的に消泡しない．サーマル(バブル)ジェット方式ではノズル内に核沸騰の気泡が発生すると吐出の妨げになる．
174	画質	がしつ	image quality	画像のトータルな品質．人間が見て良い悪いを判断する心理的な評価と，解像度，MTF，階調再現性，ノイズ量等の物理的な量で評価する方法がある．
175	加色法カラー写真	かしょくほうからーしゃしん	additive color process	赤，緑，青の三原色の画像を混合して作るカラー写真作成法．赤，緑，青のフィルタを使用して撮影した三枚の白黒フィルム（ネガ）からポジを作り，各ポジに撮影時のフィルタを付け，三者を重ね合わせて白色光で投影してカラー画像を得る方法などがある．
176	カスケード現像	かすけーどげんぞう	c ascade development	キャリアピースの表面にトナーを付着させた現像剤を，静電潜像を形成した感光体表面に振り掛けるようにして流し可視化する方法．
177	カセット	かせっと	cassette	プリンタや複写機において，シート状の用紙を収納し，着脱が可能であり，本体と連動して給紙ができるように構成された箱．
178	画素	がそ	picture element , pixel	2次元的な画像を構成する最小の単位で，通常はデジタル画像に対して定められる．画素密度（pixel density）は単位長さ（mm，inch等）当たりの画素数で表す．
179	画像構造	がぞうこうぞう	image structure	各種画像記録方式により作製された画像に特徴的な，微視的空間構造を意味する．
180	画像処理	がぞうしより	image processing	画質の改善や領域抽出等の目的で，画像に対して数値演算処理を行うこと．通常は計算機等でデジタル処理を行う場合を言う．

181	画像流れ	がぞうながれ	image deletion	画像がぼやけたりこすれたように流れる現象をいう。感光体表面に放電生成物の水溶性など導電性を有する異物が付着し、潜像電荷が潜像面方向に流れるために発生する。(参照:放電生成物)
182	画像ノイズ	がぞうのいず	image noise	画像データ上や出力画像上に出現するノイズ。写真などで見られるランダムな粒状性ノイズや、画像符号化等で発生する周期的な構造を有するブロックノイズ等がある。
183	画像濃度	がぞうのうど	image density	画像の中で測定された光学濃度のこと。
184	画像の粒子性	がぞうのりゅうしせい	graininess	写真や電子写真記録等で作成した画像では、そのままでも、あるいは拡大すると粒状性のノイズが見られることがある。このノイズの程度を言う。
185	画像評価	がぞうひょうか	image evaluation	画像の善し悪しを評価することで、その評価基準を定めることが重要である。通常は、複数の被験者に複数の画像を提示して、相対的善し悪しを判定させた後に、統計処理を行なって主観評価値を求める、いわゆる官能検査によって評価を行なうが、その評価基準が何であるかを知る為、主観評価値と画像の物理量との関係を求める実験も多く行われている。
186	画像品質	がぞうひんしつ	image quality	(参照:画質)
187	画像フォーマット	がぞうふぉーまっと	image format	画像を蓄積したり転送を行う際に使用される一定の手続きに従った画像の記述方法。画像を再現する際に必要な画像の大きさ、解像度、符号化方法等のパラメータと画像データそのものが含まれる。
188	活性化エネルギー	かっせいかえねるぎー	activation energy	原系から遷移状態を経て生成系に移る過程における、遷移状態と原系の状態とのエネルギー差に相当する。この過程が進行するためには、系が活性化エネルギー以上のエネルギーを持つことが必要である。
189	滑性層	かっせいそう	slipping layer	インクリボンの裏面に形成され、サーマルヘッドとの熱融着を防止し、円滑なプリント走行性を付与させる層。一般に耐熱性樹脂と滑剤からなる。
190	カット紙	かっとし	cut paper	規格寸法に裁断された用紙。裁断には巻取りを平判に裁断してから小判に断裁する方法と、巻取りから直接裁断するロータリ断裁がある。印刷ではプリント後に化粧裁ちするために大きめのノビサイズが用いられる。
191	桂川プロセス	かつらがわぶるせす	Katsuragawa process	導電性支持体、光導電層、誘電体層よりなる三層構成感光体を用い、直流コロナ帯電、逆極性直流コロナ帯電同時露光、全面露光の3工程により主に分極を利用して静電潜像を形成する。桂川電機(株)により開発された。KIPプロセスともいう。
192	荷電制御型インクジェット	かでんせいぎょがた	continuous inkjet system	インクを連続的に噴射させ粒子化した後、粒子に与える荷電量を制御し、さらに一定電界を通過偏向させることで記録粒子と非記録粒子にわけて記録を行うインクジェット記録方式。
193	可読性	かどくせい	readability	プリントされた内容が見やすく読みやすいこと。画像のコントラストが適切で、ノイズが少なく、かつ用紙との視覚的な均質感があること。
194	カバリングパワー	かばりんくばわー	covering power	画像銀の光を遮る能力で、銀画像の拡散濃度Dを単位面積当たりの銀量Mで除した値D/Mで表し、その単位はdm <sup>2</sup> /gである。被覆力とも呼んでいる。この逆数が測光当量である。
195	加筆性	かひつせい	writeability	ハードコピーへの一般筆記具による書込み易さをいう。事務文書として作成されたハードコピーは、更に情報が書き加えられて新たな原稿となるため重要な特性となる。
196	カプセルインク	かぶせるいんく	capsuled ink	樹脂粒子中に染料、顔料などの色材を内包するカプセルを含有するインク。耐水性、耐光性などの耐久性が向上する。

197	カプセルトナー	かぶせるとなー	capsule toner	カプセル状のトナー。低温定着の目的には内核を低融点の樹脂、外殻を固い樹脂で形成しトナーとしての耐久性を維持しつつ定着温度を低下させる。圧力定着用トナーにも用いられる。
198	カプラー	かぶら	color coupler, color former, dye-forming coupler	p-フェニレンジアミン系発色現像主薬の酸化生成物と反応して、色素を生成する化合物。水溶性カプラーと、耐拡散性のカプラーがあり、前者は発色現像液に添加し、後者は感光材料に添加する。マスク効果や現像抑制など種々の機能を持つカプラーもある。
199	かぶり	かぶり	fog	電子写真では現像操作によって本来白抜けとなるべき非画像部にトナーが付着して濃度が高くなる現象を、また銀塩写真では感光材料の非画像部が現像されて濃度が高くなる現象をいう。その濃度増加分をかぶり濃度という。銀塩写真におけるかぶりの原因には、感光材料の製造過程・保存過程・現像時の異常、あるいは取り扱い中の機械的影響などある。
200	かぶり濃度	かぶりのうど	fog density	現像操作により、本来白抜けとなるべき地肌部分が黒くなる現象をカブリという。その黒化濃度をかぶり濃度という。
201	可変長符号化	かへんちょうぶごうか	variable codeword length coding	変換処理等を行った後のデータに符号を割り当てる部分で、割り当てる符号の長さを可変にして符号化効率の向上を図った方式。符号を割り当てるデータの単位長さが可変の場合もある。MH符号のベースとなるハフマン符号はこの一例である。(参照：ハフマン符号)
202	加法混色	かほうこんしょく	additive color mixture	赤、緑、青の光を加算してさまざまな色を再現する方法を加法混色という。加法混色には、色光を重ねて行う同時加法混色や、カラーテレビのように各種色点をモザイク状に敷き詰める併置加法混色などがある。
203	紙送り機構	かみおくりきこう	paper handling mechanism	複写機やプリンターにおいて、用紙を画像形成プロセスへ導き、用紙通過経路を適切に案内し、機外へ排出するまでの一連の用紙搬送機構をいう。
204	紙詰まり	かみづまり	paper jam	用紙が所定のタイミングで機械内を搬送されないことをいう。原因は数多くあり、用紙の吸湿による変形、作像パラメータの変動などにより、用紙が途中でスリップしたり、引っかかったり、巻き付いたりなどすることに因る。
205	カメラ眼(がん)	かめらがん	camera-type eyes	目の光学系の構成がカメラと似ているのでこのように呼ばれる。脊椎動物と軟体動物の頭足類・腹足類などの目がこのカメラ型である。ヒトを含めて哺乳類の水晶体は両凸型のレンズであるが、魚類や軟体動物の水晶体は球形である。これらの水晶体は中心部の屈折率が最大で周辺部に行くにしたがって放物線的に下がっていく屈折率分布型のレンズになっている。
206	カラーインカラー法	からーいんからーほう	color-in-color process	感光層の逆面にYellow, Magenta, Cyanの昇華性染料を必要面積分、順次塗布し、感光面を露光してトナーを現像した後に、染料層と記録紙を密着し、トナー側から赤外線照射してその輻射熱で染料を順次昇華転写させてカラー画像を得る方法。
207	カラースキャナ	からーすきゃな	color scanner	カラー原稿を電気的あるいは機械的に走査して、R, G, B 3色の色分解信号を光電子管やCCDなどにより電気信号として取り出す装置。印刷分野では、この信号をC, M, Y, K 4色の信号に変換後、色再現、調子再現、鮮鋭度等を調整する画像処理を行い、その信号で露光用レーザー等を変調し、色分解された画像信号を感光材料に記録する機能まで含めたシステムをいう。
208	カラートナー	からーとなー	color toner	色彩画像を作るのに用いるトナー。原色の再現には、イエロ、マゼンタ、シアンの所謂三原色のカラートナーを用いる。
209	カラーマネジメントシステム	からーまねじめんとしすてむ	color management system (CMS)	ネットワーク環境下で画像入出力機器やディスプレイを接続してカラー画像を扱う場合、機器ごとに特性が異なるために機器ごとに色が違ってしまうという問題が起こる。これに対して機器間で色を統一的に管理して相互の色を極力あわせようとする仕組みがCMSである。
210	カラーラインイメージセンサ	からーらいんいめーじせんさ	color line image sensor	カラースキャナに使用されるセンサであり、3色光源を線順次に切り替え1つの白黒センサで読み取るもの、千鳥状に複数のCCDセンサを並べた密着センサの画素上に3色のカラーフィルタをストライプ状に配置したものなどがある。
211	カラーリバーサルフィルム	からーりばーさるふいるむ	color reversal film	撮影した被写体と同様な明暗、色相の画像が、反転現像処理により得られるカラーフィルム。カプラーを現像液に添加した外型感光材料と乳剤に添加した内型感光材料がある。
212	ガラス転移温度	がらすてんいおんど	glass transition temperature	高分子物質を加熱したときガラス状のたかい状態からゴム状に変わる現象をガラス転移といい、その温度をガラス転移温度という。電子写真用乾式トナーの結着材樹脂のガラス転移温度は、トナーの保存安定性、定着性と相関があり、樹脂選定の判断基準として利用される。

213	カルコゲナイド感光体	かるこげないど かんこうたい	c halcogenide photoconductor	6族元素Se, Teを主成分とする光導電性材料の総称。6族元素のみからなるSe, Se-Teと5族6族から構成されるAs-Se, As-Teがある。
214	過冷却物質	かれいきやく ぶっしつ	supercooling material	一次または高次の相転移において、高温側から冷却したときに転移温度を過ぎても転移現象を起こさない物質。たとえば、水や液体状態のパラフィンを冷却していくとき融点を過ぎても固化しないことがある。この現象は振動などの条件に依存する。
215	感圧記録紙	かんあつきるく し	pressure sensitive paper	機械的圧力を加えることによりカプセルが破壊されてハードコピーが得られる記録紙。カプセル内の無色のロイコ染料が酸性物質である顕色剤に吸着、酸化されて発色する。多数枚の同時記録が得られるのが特徴。
216	感光性マイクロカプセル	かんこうせいまい くろかぶせる	p photosensitive micro- capsule	光重合性のモノマーを内包するマイクロカプセル。ロイコ染料等を一緒に入れておき露光後圧力ローラ等で顕色シートと重ね合わせて未重合のカプセルをつぶして発色させ画像を得る。サイカラープロセスに用いられた。
217	感光体スクリーン	かんこうたいす くりーん	p photosensitive screen	微細なメッシュを持つ金属スクリーンの金属細線上に光導電体を塗工したものの。イオンモジュレーション記録においてコロナイオン発生器と誘電体塗工紙の間に置かれてコロナイオン流を制御する。
218	感光中心	かんこうちゆう しん	sensitivity center	ハロゲン化銀乳剤粒子が露光されて生じる電子が捕獲され、また格子間銀イオンをも捕獲して潜像形成に進む活性な部分。感光核と同義に用いられる。
219	乾式現像	かんしきげんぞう	d ry development	トナーと呼ばれる着色した微細粉体を用いて静電潜像を可視化すること。カスケード現像法、磁気ブラシ現像法、一成分現像法などの現像法がある。乾式現像に用いるトナーあるいは現像剤を乾式現像剤、粉体現像剤、粉体トナーなどという。
220	干渉計	かんしょうけい	interferometer	波動の干渉を利用して干渉縞を作り、これを解析して種々の物理量を測定する装置。光波の干渉を利用して距離、光学的表面の精度などを測定するための装置。干渉計は、それを構成する光学素子の配置によって種々の型がある。
221	干渉縞	かんしょうじま	interference fringes	電子写真において、レーザのような干渉性単色光を露光源とした場合、感光体のCGL, CTL, UCL等の層界面や基板表面で反射した光が干渉し、静電潜像に干渉縞が生じること。基板表面に凹凸を付けたり、光吸収層を設けるなどしてその発生を抑える。(参照: モアレ)
222	かん状体	かんじょうたい	rod	視細胞の1種で、網膜上の周辺部に多く存在する。棒状の構造からこの名がある。低照度下で働き、明暗のみ知覚する。
223	間接型熱転写方式	かんせつがたね つてんしゃほう しき	indirect thermal transfer	中間転写媒体に一旦色素を熱転写し、それを再び画像を形成したい物体に転写して画像を形成する方式。専用受像層が必須な昇華熱転写で普通紙に画像を形成したい場合に受像層を含む中間転写媒体に染料を転写して、受像層ごと普通紙に転写する用途が有名。
224	感度	かんど	s ensitivity	写真感光材料の感度、電子写真では入射光量の変化に対する感光体表面電位の変化の割合を言う。一般的には、半減露光量の逆数で示すことが多い。
225	感熱記録紙	かねつきるく し	thermosensitive recording paper	熱エネルギーの印加により直接発色して可視像が得られる記録紙。無色のロイコ染料と酸性物質が熱時反応して発色するロイコ染料発色型がファクシミリ、プリンタ用に広く使われている。他にジアゾ発色型などがある。
226	ガンマ	がんま	g amma	階調再現特性を、横軸を露光量の対数、縦軸を濃度で表した時の曲線の直線部分の傾き。ガンマが高いとコントラストの強い硬調の画像となり、低いとコントラストの弱い軟調な画像となる。
227	顔料インク	がんにょういん く	pigmented ink	色材として顔料を含有するインク。染料インクに比べ耐水性、耐光性に優れるが、さっか性に劣る場合がある。ブラックにはカーボンブラック、カラーには有機顔料が使用されている。
228	記憶色	きおくしよく	memory color	りんごは赤いなど特定の事物に関連して記憶されている色。その事物の色の特徴的な性質が強調されて記憶されている。一般に明るい色はより明るく、暗い色はより暗く、はっきりした色はより鮮やかに記憶される傾向がある。
229	機器従属性空間	ききじゅうぞく いるくうかん	device dependent color space	スキャナのRGBやプリンタのCMYKの様に、その値が決まっても色そのものは特定できず、カラー入出力装置の色再現特性に依存して色が定まる色空間。従って、これらの色空間から、XYZの様な色を特定できる色空間に変換する為には、入出力装置の色再現特性情報(デバイスプロファイル)が必要となる。

230	機器独立色空間	ききどくりついろくうかん	device independent color space	XYZ, CIELAB, CIELUV, NTS CRGBの様に, その値が決まれば色そのものを特定できる色空間. その多くは, 国際照明委員会CIE(Commission International de l'Eclairage)で定められたXYZを基に, それからの変換式で定義されるが, マンセル表色系の様に, XYZとテーブルで関係づけられている色空間も, これに分類することができる.
231	基材	きざい	substrate	(参照: 支持体)
232	疑似解像度	ぎじかいぞうど	resolution enhancement	通常, プリント等で再現可能な解像度は画素密度により制限され, 画素密度が低いと文字の斜め線等がぎざぎざになるが, 多値階調表現や小パルス幅記録等を用いて, 疑似的に解像度を向上させ, なめらかに再現すること.
233	疑似中間調	ぎじちゅうかんちょう	digital halftoning, pseudo continuous tone	白と黒の2色の画素だけを用い, 画素の数や, 画素の集まり具合を制御して階調を表す方法. ディザ法や, 濃度パターン法などがある.
234	疑似輪郭	ぎじりんかく	contour, contouring	階調特性等がある階調で急激に変化するジャンプがあると, なめらかに明るさ等が変化する部分に輪郭の様な線ができることがある. これを疑似輪郭(偽輪郭)と呼んでいる.
235	偽造防止装置	ぎぞうぼうしそうち	anti-counterfeit detection system, bank-note detection system	紙幣等の特徴的パターンが予め電子的に記憶され, 複写しようとした際に, 原稿と記録パターンを照合し紙幣等と認識された場合には, 複写動作を止めるか該当する部分をベタ出力するなどして偽造を防止する装置.
236	機能分離型感光体	きのうぶんりがたかんこうたい	1 layered photoreceptor	感光体の層構成を電荷生成と電荷輸送に機能を分離した積層感光体. 顔料を樹脂中に分散した電荷発生層と電荷輸送材料を樹脂中に固溶した電荷輸送層が積層されている. 光照射により発生した電荷は輸送層に注入され輸送層中を輸送されて光減衰を起こす.
237	逆転写	ぎゃくてんしゃ	reverse transfer	熱転写に最適な温度以上の高温で転写が不十分になる現象. また, 順次カラーインクを重ねる際に, 先に転写した色のインクが後から重ねて転写しようとする色のインクリボンに付着して剥ぎ取られる現象(トラッピング)をいう場合もある.
238	逆転電場法	ぎゃくてんでんばほう	reverse field process	内部分極性感光体や, 絶縁層を有する感光体を利用する電子写真法で, 静電潜像を形成する際露光前帯電と逆極性の露光同時帯電を利用する. これにより背景部と画像部の電場は逆転し, 高い静電コントラストが得られる.
239	客観評価	きゃっかんひょうか	objective evaluation	画像評価は, 官能検査によって主観評価値を求めることが行われるが, 主観評価と相関の高い物理量が求められ, 物理量の測定だけで画像評価を客観的に行うことが可能となる. このような評価を客観評価あるいは物理評価と呼ぶ. どのような物理量を探るかは画像の内容に依存するが, 文字画像では, 線幅, 濃度等が試されている.
240	キャビテーション	きゃびてーしょん	cavitation	内部が真空に近い液体中の微小気泡が消泡する際の衝撃により近傍の物体が破損する現象. パブルジェットでは, 気泡が消泡する際の衝撃がヒーターを破壊するのを防ぐためにヒーター表面に保護膜を設けている.
241	キャリア	きゃりあ	carrier	トナー粒子を静電潜像の近傍まで運ぶためのもの. 同時にトナー粒子の帯電極性と帯電量を制御する役割を担う. 磁気ブラシ法の鉄粉, カスケード現象法のガラスビーズ, 液体現象法の誘電性液体がキャリアである. 感光体では, 電流をはこぶ働きをする荷電粒子, すなわち電子と正孔を指す.
242	キャリア発生層	きゃりあはっせいそう	carrier generation layer	(参照: 電荷発生層)
243	キャリア・ビーズ	きゃりあびーず	carrier beads	カスケード現象法のキャリアとして用いる比較的粗いビーズ状物質. 通常, 樹脂で被覆した30~50メッシュのガラスビーズを使用する. カスケード現象法以外で用いるビーズ状キャリアをいうこともある.
244	キャリア附着	きゃりあふちやく	beads carry over	二成分現象においてキャリアが静電潜像に付着する現象. キャリアは一般にトナーより大きいため転写において白抜け画像となる. キャリアと潜像の静電吸引力が磁気吸引力より大きくなることによる. ビーズキャリアオーバーともいう.
245	キャリア輸送層	きゃりあゆそうそう	carrier transport layer	(参照: 電荷輸送層)

246	給紙	きゆうし	paper feeding	用紙を機械内に送り込むこと。(参照:自動給紙方式,ロール給紙)
247	吸収係数	きゆうしゆうけいすう	absorption coefficient	光線等が物質中を進行するとき,距離を $x$ ,吸収係数を $\mu$ とすれば,入射光強度は $I = I_0 \exp(-\mu x)$ に従って減衰する。
248	吸収スペクトル	きゆうしゆうすべくとる	absorption spectra	連続スペクトルをもつ光が物質を通過するとき,一般に物質に特有の波長領域が吸収されて弱められる。このスペクトルを吸収スペクトルという。
249	給紙ローラ	きゆうしろうら	feed roller	用紙を1枚1枚分離して送り出すためのローラをいう。ローラは用紙に接触してその摩擦力にて送り出すことから,摩擦係数が高くかつ経時変化が少ない材料や形状が選ばれる。
250	強磁性体	きょうじせいたい	ferromagnetic material	弱い外部磁化を加えただけで強い磁化が得られる物質をいう。Fe, Co, Niに代表されるフェロ磁性体はスピンのそろった磁区の集合から成っている。フェライトに代表されるフェリ磁性体は2種類の格子の組み合わせから成る。
251	凝集破壊	ぎょうしゅうはかい	cohesive failure	リボン上に膜状に塗布された熱溶融性インク層が塗布面で剥離することなくインク層内でちぎれる現象。この用語はしばしば層間で剥離する界面破壊または界面剥離に対抗して用いられる。
252	凝集力	ぎょうしゅうりょく	cohesive force	固体または液体において,それを構成している原子,イオンあるいは分子間に働いている引力を総称していう。イオン間に働く静電引力,双極子の力,水素結合,電荷移動力,ファンデルワールス力などが属する。
253	強度変調	きょうどへんちよう	intensity modulation	レーザープリンタ,デジタル複写機などで階調性を有する画像を表現するために,階調数に応じて光源の光強度を変化させる変調方式。
254	曲率分離	きょくりつぶんり	self stripping	感光体や定着ローラなどの曲率を大きくし,付着した用紙を,その剛性のみで感光体等から分離させる方法。
255	キレート反応	きれーとはんのう	chelate reaction	2個以上の配位原子を持つ配位子が環を形成して中心金属と結合する化学反応。この反応を利用して染料熱転写の画像保存性を飛躍的に高めることができる。実用化された系では受容層中に金属錯体を含有させておき,インクフィルム(染料ドナーシート)から移行してきた染料がその受容層中の金属錯体と配位子交換反応を起こして色素-金属イオン錯体を形成する。
256	記録電極	きらくでんきょく	printing electrode	記録を制御する電極の総称で,記録方式によって異なる。静電記録では,多針電極(針電極),イオンフロー記録では,イオン流制御電極,イオンカートリッジをさす。
257	記録ヘッド	きらくへつど	print head	一端がオリフィスでありアクチュエータを内蔵するノズル部と,そのアクチュエータを駆動する電気回路と,ノズル部にインクを供給するインク室とからなるインクジェットの記録機能を担う部分。
258	銀回収	ぎんかいしゅう	silver recovering	銀を含む製品,その使用過程で生じる銀を含む廃液,あるいは使用済みの製品から銀を再使用のために取り出して工業用原料の銀とすること。銀回収は,商業的に行われており,定常的な銀回収の対象は,写真市場である。
259	銀色素漂白法	ぎんしきそひょうはくほう	silver dye bleach process	減色法カラー写真法の一つで,あらかじめ乳剤層中に添加されているアゾ染料が現像銀によって還元漂白され,残存する染料によってカラー画像が形成される写真法。発色現象法の進歩のため,商業的には1980年代に姿を消した。
260	均等知覚色空間	きんとうちかくいるくうかん	uniform color space	空間内の全ての位置,方向について,等しい距離が,等しい色差を近似的に表す色空間。CIELAB(L*a*b*)色空間,CIELUV(L*u*v*)色空間などがある。
261	空間周波数特性	くうかんしゅうはすうとくせい	characteristic of spatial frequency	空間周波数とは,正弦波などの周期的パターンが単位長あたり繰り返される回数をいう。光学系や撮像素子の画像情報の伝達特性は空間周波数に応じて変化する。この特性を空間周波数特性という。
262	空間電荷	くうかんでんか	space charge	真空やガス中,または半導体や絶縁体中に分布する電荷。電子写真用感光体内の空間電荷は,その電荷が形成する電界によって,静電荷像の形成過程に感光層内を流れる電流に大きな影響を与える。



263	空間電荷制限電流	くうかんでんかせいげんでんりゅう	space charge limited current	空間電荷が形成されるとその影響を受けて電流が制限を受ける。電子写真の光減衰曲線において低電圧領域では感光体内部に注入されるキャリア数が増加して空間電荷となり光電流は空間電荷制限電流となる。
264	空間フィルター	くうかんふいるた	spatial filter	一定の空間周波数を強調したり、高周波ノイズを低減する目的で光学系内のフーリ工像面（スペクトル面）に挿入する輪帯板、スリット列およびピンホール。光学的に像強調やノイズ低減を行うためのマスク。
265	空気圧分離	くうきあつぶんり	air puffing, vacuum separation	画像転写後、感光体から用紙を分離する方式の一つ。用紙先端に圧縮空気を噴射して分離する方式と、負圧を用いて用紙を吸引するものに分けられる。
266	空気の絶縁破壊	くうきのぜつえんはかい	air breakdown	空気に作用する電場がある限度以上になると、急速に絶縁性を失って大電流を流すようになる現象。電子写真では感光体と用紙が接近したり、分離したりする際に発生する場合がある。その臨界電圧を空隙破壊電圧という。（参照：パッセン則）
267	空隙電圧	くうげきでんあつ	air gap voltage	（参照：パッセン則）
268	空隙変化	くうげきへんか	void change	高分子/長鎖低分子分散型リライタブルマーキングの光散乱性変化の原理。光散乱（白濁）状態では、長鎖低分子粒子中もしくは長鎖低分子粒子と高分子の界面に空隙が発生し光を散乱する。透明状態では、空隙が消失し光を透過する。
269	クエンチング	くえんちんぐ	quenching	光電流や蛍光発光強度が赤外光照射によって減少する現象。
270	屈折率分布型レンズ	くっせつりつぶんぶがたれんず	gradient index lens	屈折率が一様でない媒質を用いたレンズ。GRINレンズともいう。屈折率分布の種類には、レンズ光軸から距離に応じて屈折率が変化するラジアル型やレンズの厚み方向に屈折率が変化するアキシャル型などがある。ラジアル型GRINレンズの場合、前後の屈折面が平面であっても通常のレンズ機能を持つ。
271	グラビア印刷	ぐらびあいんさつ	gravure printing	グラビア凹版印刷の略称。画線部となる凹部（通常は円筒ドラム表面を彫る）にインクを詰め、非画線部のインクをドクタでかきとった後、印刷する。凹部の深さでインク量を制御し印刷画像の階調を表現する。平板印刷より階調が豊かで高級な画像印刷に適す。
272	クラムシェル構造	くらむしえるこうぞう	clam shell structure	紙詰まりや修理を容易にするために、複写機またはプリンタの片端に回転軸を設け、用紙の通過面を境に上下二分割出来る様にした構造をいう。
273	クリーナ	くリーナ	cleaner	電子写真プロセスの一工程で、転写後感光体上に残存するトナーを除去する装置。ゴムブレードを用いたものが主流であるが、回転ファークラシ、フェルトローラ、ロール紙を用いる方式もある。
274	クリーナレス	くリーなれす	cleaner-less	感光体上に残留する未転写のトナーなどに対する格別なクリーニング機構部を設けずに繰り返し画像形成を行う電子写真や静電記録方式をいう。一般に反転現像法の場合に適用され、現像バイアス電位の設定条件を最適化することで、現像部において現像とクリーニングが同時に行われる。
275	クリーニングブレード	くリーにんぐぶれーど	cleaning blade	電子写真プロセスのクリーニングに用いられる弾性体ブレード。強度の点からウレタンゴムが使用されることが多く、一般には感光体に対してカウンター方向に当接される。金属ブレードの先端部だけにゴムを成型したタイプもある。（参照：ブレードクリーニング）
276	繰り返し耐久性	くりかえしたいきゅうせい	repetition durability	印字/消去の繰り返しによるリライタブルマーキング媒体の記録部と消去部の安定性を示すもの。同じ記録、消去条件下で、一定の画像品質で、記録面に損傷無く、画像を書き換えることのできる回数で表されることが多い。サーマルリライタブルマーキング材料では、一般に印字/消去エネルギー、書き換え環境（温度、湿度）などの影響を受ける。
277	繰り返し履歴	くりかえしりれき	repetition hysteresis	リライタブルマーキングにおいて、画像を書き換えた回数による履歴のこと。書き換え回数が増えると濃度コントラストが低下することがある。一般に書き換え回数と印字/消去特性の関係で評価される。
278	グリッド	ぐりっど	grid	制御格子のこと。電圧を印加し、荷電粒子の通過を制御するために用いられる。電子写真における応用では、コロナ放電器の開口面に取り付けて帯電電位を一定値に収束させるために用いられる。この型の帯電器はスコトロトンと呼ばれる。
279	グレースケール	ぐれーすけーる	grayscale	白から黒まで濃度が連続的、または段階的に変化するように作られた一連の無彩色の色票。印刷の分野では濃度変化を網点の大きさで表すことから、濃度レベルを網点の面積率（黒100%、白0%）で表したものをグレースケールと呼ぶこともある。

280	グレース層	ぐれーずそう	glaze layer	サーマルヘッドの基板上に形成したガラスを主成分とする断熱層。基板全体に形成したタイプを全面グレースと称し、発熱体近傍にのみ形成したタイプを部分グレースと称する。
281	グレーバランス	ぐれーばらんす	gray balance	無彩色灰色のコピーを得るためのY, M, C, 3色材のバランスをいう。通常トナーや印刷インキ等の色材は不要吸収成分があるので等量では灰色とならず調整が必要となる。原稿のグレーの部分をグレーに再現することがカラー再現の基本となる。
282	蛍光体アレイ	けいこうたいあ れい	fluorescent luminous array	3極真空管の原理を用いた平板型の発光素子。蛍光体アレイは、カソードから出た熱電子はグリッドで加速制御され選択的に電圧を印加したアノード電極上に1列に並べた蛍光体ドットに衝突して発光させる。中心波長が505 nmで、結晶素子と組み合わせて光書き込みヘッドとして用いる。
283	結着剤	けっちやくざい	binder	それ自身では成形できない材料を分散させて、ある形にするためのもの。樹脂が多く使われる。トナーの場合はカーボンや着色顔料を、感光体では酸化亜鉛のような光導電性材料を分散させて、最適な形状に作る。
284	ゲラ刷り	げらずり	galley proof	元は活字組版の用語で「ゲラ」に活字を入れて校正機で印刷した「校正刷り」のことであった。最近では、電算写植・電子組版システムなどで行う文字校正用にプリンタなどでプリントアウトしたものを意味する事が多い。
285	減感	げんかん	desensitization	感光材料の感度を低下させること、あるいは感度が低下すること。前者は、感光材料の取り扱いを容易にするためなど、後者は不適切な取り扱い、保管状態、あるいは感光材料の品質不十分などによる。
286	顕減色剤	けんげんしょく ざい	developing/reducing reagent	可逆性顕色剤のうち、分子内に酸性部位と塩基性部位の両方を具備させた化合物で、両性顕減色剤ともいう。ロイコ染料型サーマルリライタブルマーキングにロイコ染料とともに用いられる。
287	原稿台移動方式	げんこうだい いどうほうしき	platen scan method	原稿をプラテンガラス上に載せて移動させ、感光体にスリット露光する方式。光学系の移動を伴わず小型化が可能であることから低価格機に広く採用されている。
288	顕色剤	けんしょくざい	developer	無色のロイコ染料（電子供与性前駆体、発色剤）を発色させるための電子受容性化合物の総称。フェノール誘導体、サリチル酸誘導体、尿素誘導体などが知られている。該反応は染料タイプ感熱紙に利用される。
289	減色法カラー写真	げんしょくほう からーしゃしん	subtractive color process (photography)	被写体の色を、白色光から青、緑、赤の三原色を画像状に減じて作るカラー写真作成法。通常青、緑、赤色感光層からなる感光材料を用い、対応するイエロー、マゼンタ、シアン色素ネガ画像を形成する。ネガ画像から同方法でポジ画像を作成し、被写体の色を再現する方法。発色現象法のカラー写真は、この方法に基づいている。
290	減磁力	げんじりょく	demagnetization force	外部磁界の中に強磁性体をおくと、磁性体が磁化されて、その両端にN, Sの磁極ができる。この磁極のために磁性体の内部には外部磁界と逆向きの磁界、反磁界が生ずる。そのため磁性体の内部の磁界は外部磁界より小さくなる。
291	減衰時間	げんすいじかん	decay time	帯電された感光体の表面電位が減衰する時間。表面電位が1/2に減衰する半減衰時間等が用いられることがある。
292	現像	げんぞう	development	潜像（銀塩写真では現像中心、電子写真では静電荷の分布）を可視化する処理のこと。銀塩写真ではハロゲン化銀の還元、およびそれに付随する化学的な発色反応が中心。電子写真では、静電気力によりトナーを引き付けること、予め設けた表面軟化層の変形を起こすことなどが利用される。
293	現像開始電圧	げんぞうかいし でんあつ	development threshold voltage	電子写真の現像工程で、トナーが感光体に付着開始する電圧。クーロン力、磁気力などに加え、ファンデルワールス力、鏡像力などが影響する。潜像電位を言うのか、バイアス電圧を差し引いて現像領域での正味の電圧を言うのか明確な定義はされていない。
294	現像核	げんぞうかく	development nucleus	現像過程において、銀イオンが還元される場所であり、また生じた銀原子が取り込まれる場所ともなる微小な核で、金属原子や金属塩分子などからなる。通常の写真現像では潜像が、また拡散転写現像ではパラジウム、銀、硫化ニッケルなどが現像核である。
295	現像効果	げんぞうこうり つ	development effect	写真現像過程で、現像反応の生成物が現像が進行している場所の近傍に及ぼす影響の総称。現像の影響が隣接層に及ぼされる重畳効果、画像部周辺に及ぶフリンジ効果、エッジ効果、ボーダー効果、エバーハード(Eberhard)効果などに分けられる。

296	現像剤	げんぞうざい	developer	潜像（銀塩写真では現像中心，電子写真では静電荷の分布）を可視化するための材料の総称。銀塩写真ではハロゲン化銀を銀に還元するための処理材料のこと。これに含まれる還元剤を現像主薬という。電子写真では，液体現像剤と粉体現像剤に大別される。後者には，一成分系，二成分系があり，それぞれ磁性，非磁性とに分類できる。
297	現像主薬	げんぞうしゅやく	developing agent	（参照：現像剤）
298	現像中心	げんぞうちゅうしん	development center	ハロゲン化銀粒子中の現像が開始される点。露光によって作られた現像中心が潜像であり，化学的，熱的作用によって生じた現像中心がかぶり核（かぶり中心ともいう）である。ハロゲン化銀粒子中の現像核ということもできる。
299	現像電界	げんぞうでんかい	development field	静電潜像担持体上の静電荷によって形成される電界。通常，現像部においては，静電潜像担持体に対向する現像電極（development electrode）を設け，担持体内部にかかっている電場を外部の空間にかかるとする。現像は静電潜像近傍の空間における電界で行われる。現像電極に印加する電位で現像電界の強度を変え，画質の調整が可能である。現像電場ともいう。
300	現像バイアス	げんぞうばいあす	developing bias	現像剤を用いて静電潜像を可視化する際に，静電潜像担持体と現像装置（現像電極）との間に加える電圧。これによって画像特性を調節することができる。
301	現像ローラ	げんぞうろーら	development roller	現像剤を保持して現像すべき静電潜像まで搬送するためのローラ。磁気ブラシ現像法の場合，非磁性の導電性円筒の内部に磁石ローラを内蔵している。非磁性現像の場合は導電性のゴムローラや導電性樹脂チューブが用いられる。現像ローラは現像電極の役割もする。
302	減法混色	げんぼうこんしょく	subtractive color mixture	色フィルタまたはその他の吸収媒質の重ね合わせによって別の色を再現する方法。カラー複写機や印刷などで用いられており，Y，M，C，Kのトナーやインキの付ける量を変えることで，さまざまな色が再現できる。
303	コアシェル粒子	こあ・しえるりゅうし	core-shell grain	（参照：多層構造粒子）
304	光学濃度	こうがくのうど	optical density	画像の濃さの客観的表現に用いられるもので，画像の着目部の反射率をRとするとき $D = \log_{10}(1/R)$ で定義する。透過画像の場合，Rは透過率Tに置換される。測定の光学系や光源，分光分布特性については各種の異なる測定条件があり，注意が必要である。
305	高級脂肪酸	こうきゅうしぼうさん	higher fatty acid	長鎖の鎖式モノカルボン酸。長鎖脂肪酸ともいう。グリセロールやコレステロールのエステルとして，また高級アルコールのエステルとして生物界に広く存在する。高分子/長鎖低分子分散型サーマルリライタブルマーキングの媒体に使用される。例としてはステアリン酸，ペヘン酸などがある。
306	硬磁性材料	こうじせいざいりょう	hard magnetic material	強磁性体の中で，外部磁界をかけていったん磁化すると，外部磁界を除いた後もそのまま磁化が残る物質をいう。永久磁石はその代表であり，マグネトグラフィにおける記録ドラムや記憶装置における磁気ディスク，磁気テープ等に使用される。
307	高周波定着	こうしゅうはていちゃく	micro wave fusing	マイクロ波(2450MHz)を利用してトナー画像を加熱定着する方式。基本的に用紙中の水分を非接触に加熱し定着する。電力-熱変換効率が低く，商品化に至っていない。
308	校正	こうせい	proofing	製版工程の各画像処理作業の後あるいは印刷工程で画像の出来具合の確認のために行う検査をいう。製版・印刷所内で行う校正を「内校」といい，クライアントに示して行う校正を「外校」という。
309	光沢	こうたく	gloss	受像シートの地肌部分とベタ部分のつやをいう。文字画像の場合は，光沢の少ない方が眼の疲労が少ないといわれ，カラー画像の場合は，適度の光沢は画像品位を高めるといわれている。
310	光沢紙	こうたくし，こうたくふいるむ	glossy paper	インクジェット記録適性を持った光沢のある紙。ポリマーを主成分としたインク膨潤型と無機顔料を主成分とした隙間吸収型とに大別される。前者は比較的年価ではあるが，乾燥が遅い，耐水性に乏しいといった欠点が見られるのに対し，後者は最表面がサブミクロン程度の細孔からなっており，瞬時にインク吸収しつつ光沢を保持できるため，写真調の質感を与える。白PETフィルム上に上記インク受容層を設けたものを光沢フィルム(glossy film)と呼ぶ。
311	光沢度	こうたくど	gloss level	画像の光沢の強さを表す指標。一定の入射角（通常60度）の平行光線に対する対象画像と鏡面光沢面各々の正反射光量の比により表わされる。（参照：光沢）

312	硬調現像液	こうちようげんぞうえき	contrast developer , high contrast developer	写真感光材料の特性を硬調に仕上げるように調合した現像液。代表例として、リスフィルム現像用のリス現像液がある。その組成はハイドロキノン現像剤の含有量が多く、アルカリ性が強い。(参照：伝染現像)
313	抗張力	こうちようりょく	tensile strength	(参照：引っ張り強さ)
314	光電変換効率	こうでんへんかん(こうりつ)	photocurrent generation efficiency	光照射により自由電子あるいは自由正孔を生成する効率。発生自由電子あるいは自由正孔数と物質の吸収フォトン数の比で表わす。光電流や光照射による表面電位の変化から求める。フタロシアニン顔料の中には変換効率が1に近いものがある。
315	光熱変換層	こうねつへんかんそう	light heat converting layer	レーザー熱転写記録材料等において、光を吸収し発熱する機能を持つ層を指す。金属蒸着膜あるいは、カーボンブラック、赤外吸収色素を光熱変換材料として含有する層で構成される。
316	孔版(こうはん)印刷	こうはんいんさつ		(参照：スクリーン印刷)
317	高分子/液晶分散型サーマルリライタブルマーキング	こうぶんし/えきしょうぶんさんがたさーまるりらいたぶるまーきんぐ	polymer dispersed liquid crystal type thermal rewritable marking	高分子中に液晶を分散し光散乱性変化によって、印字/消去を行うリライタブルマーキング。高分子のガラス転移温度以上に加熱されると高分子と液晶が相溶し、急冷により常温で相溶状態が維持され透明状態となり、徐冷により高分子と液晶が分離し光散乱状態となる。
318	高分子/長鎖低分子分散型サーマルリライタブルマーキング	こうぶんし/ちようさていぶんしぶんさんがたさーまるりらいたぶるまーき	polymer dispersed long chain molecule type thermal rewritable marking	高分子マトリックス中に長鎖低分子微粒子を分散し光散乱性変化によって、印字/消去を行うリライタブルマーキング。加熱後室温まで冷却したとき透明状態を示し、より高温に加熱し室温まで冷却したとき白濁状態を示す。透明/白濁変化は記録層内部の空隙変化による。
319	高分子液晶型サーマルリライタブルマーキング	こうぶんしえきしょうがたさーまるりらいたぶるまーきんぐ	polymer liquid crystal thermal rewritable marking	高分子液晶の側鎖または主鎖に、液晶性を示すメソゲンが結合された化合物を用い、温度変化による等方性ガラス状態(透明)とマルチドメインガラス状態(白濁)の変化を利用したリライタブルマーキング。
320	高分子マトリックス	こうぶんしまとりくす	polymer matrix	高分子/長鎖低分子分散型サーマルリライタブルマーキング方式での高分子母材。主に塩化ビニル系共重合体が用いられる。(参照：高分子/長鎖低分子分散型リライタブルマーキング)
321	硬膜剤	こうまくざい	hardening agent , hardener	ゼラチン分子間を架橋して、ゼラチン膜を硬化する作用を有する化合物。無機硬膜剤(水溶性アルミニウム化合物など)、有機硬膜剤(アルデヒド類、ジケトン類、ビニルスルホン化合物、クロロトリアジン化合物など)がある。感光材料や処理液に添加する。
322	交流コロナ	こうりゅうこうな	AC corona	交流電場を印加することにより発生するコロナ放電をさす。正負両極性の放電イオンが発生する。
323	光路長	こうろちよう	optical path length	屈折率nの媒質中を光路に沿って距離dだけ光が進行するとき、その積ndを光路長または光学距離という。屈折率分布がある媒質中においても、光路に沿った距離dを微小距離で置き換えて屈折率との積光路に沿って積分した値として定義する。
324	コーナーセパレータ方式	こーなーせぱれーたほうしき	corner separator feeder	用紙束の給紙方向先端両角隅部に直角三角形の爪をのせ、給紙ローラによって用紙が前方に押し出された際、固定した爪によって用紙両端付近を持ち上げ、用紙のこしの強さを利用し最上部の1枚のみを分離し給紙する方式をいう。
325	コールドオフセット	こーどおふせつと	cold offset	熱ローラ定着方式において、トナーと用紙との界面付近が充分溶かされない場合、定着ローラとの接着力や静電吸着力により、トナー画像の一部が取り去られること。低温オフセット。(参照：トナーオフセット)
326	コゲ	こげ	koge	サーマルインクジェット方式において、繰り返し吐出を行うことによりノズル内のヒーター表面に堆積する有機または無機物質。ヒーターからインクへの熱伝導を妨げ、吐出を不安定にする要因となる。こげのように見えるため、そのように名付けられた。
327	誤差拡散法	ごさかくさんほう	error diffusion method	ランダムディザの一種で、原画像と処理画像の局所平均誤差を最小にすることをねらいに、着目画素近傍の既に2値化処理した画像における原画像との差分を画素間距離等に対応した重み付けを行って着目画素に足し合わせ、一定の閾値により2値化する方法。比較的良好な再現性を示すが、特有のテクスチャが目立つ場合がある。
328	固体インク	こたいいんく	solid ink	常温では固体であるが、一般に80以上の高温では液体となるインク。ホットメルトインクとも呼ばれ、記録紙上で高いODが得られる。

329	固体インクジェット	こたいいんく じえっと	solid ink jet system	(参照：ソリッドインクジェット)
330	固体チャージャ	こたいチャー じゃ	solid-state charger	誘電体または半導電体を介してACおよびDCが印加された一対の帯状電極からなり、AC電界で正負両イオンを発生させ、DC電界によりイオンを誘導し放出する帯電器。
331	固定長符号化	こていちょうぶ ごうか	fixed codeword length coding	変換処理等を行った後のデータに符号を割り当てる部分で、割り当てる符号の長さを一定とした符号化方法をいう。一般に固定長符号の符号化効率は一変長符号より低下するが、符号を割り当てるデータの単位が可変の場合はある程度の効率が期待できる。符号の切れ目が自明のため、アクセラが容易という利点がある。
332	コリメータレンズ	こりめーたれん ず	collimator lens	光源を焦点において平行光を得られるように収差補正されたレンズをいう。半導体レーザーの前につけてレーザー走査光学系などの光源ユニットとして用いられる。
333	コロトロン	ころとろん	corotron	コロナワイヤと被帯電体との間にグリッド電極を持たない構成のコロナ帯電器。(参照：コロナ帯電)
334	コロナ開始電圧	ころなかいしで んあつ	c orona onset voltage	電極間の電圧を高めていってコロナ放電が発生するときの臨界電圧。(参照：コロナ放電)
335	コロナ帯電	ころなたいでん	c orona charging	コロナ放電を利用した帯電法。コロナ放電によって発生したイオンを感光体などの静電潜像担持体表面に導いて帯電させる方法。コロナワイヤと被帯電体との間にグリッド電極をもつコロトロン帯電器と、グリッド電極を持たないコロトロン帯電器とがある。スコトロンでは、グリッドにかかる電圧により帯電をコントロールできる。空気中で高電圧を印加してコロナ放電を起こさせるコロナワイヤ(チャージワイヤ)は一般にタンガステンやステンレススチールの細線が使われる。針状の電極がコロナ発生源として用いられることもある。
336	コロナ転写	ころなてんしゃ (ほう)	c orona transfer	転写シートの背面よりコロナ帯電し、発生させた電界により感光体上のトナー像を転写シートへ転移させること。
337	コロナ風	ころなふう	electric wind	電気風ともいわれる。放電電極から対向電極へ向かうイオンは、中性分子と衝突を繰り返しつつ進行するので中性分子も進行方向に駆動され低速の気流を生じる。
338	コロナ放電	ころなほうでん	c orona discharge	媒質中の電界がある臨界値を超すとき媒質が部分的に破壊し、発光を伴い微少な電流が流れる。これをコロナ放電という。さらに電圧を上げていくと火花を経て全路破壊にいたる。
339	コロナワイヤ	ころなわいや	corona wire	(参照：コロナ帯電)
340	コンタクトスクリーン	こんたくとすく りーん	contact screen	連続調画像を網点によるハーフトーン画像としてフィルム、ペーパーに露光するとき利用される透過型スクリーン。所定の網線数のぼかされた市松模様が形成されており、臨界露光量を有する硬調感光材料と重ねて露光すると画像の濃淡が網点の大小に変換される。
341	コンティニュアス型インクジェット	こんていにゆあ すがた	continuous inkjet system	インクを連続的に噴射し粒子化した後、荷電量の制御などで記録粒子、非記録粒子にわけて記録を行うインクジェット記録方式。大判プリンタとして商品化されている。
342	コントログラフィ	こんとらぐら ふいー	contrography	トナーやインク等を画像信号により駆動される電界、磁界、機械的力で制御し、直接最終画像支持体に画像を得る方式の総称。インクジェットは数少ない成功例と云える。
343	コントラスト	こんとらすと	contrast	静電潜像のコントラストと画像コントラストとの2つの意味がある。前者では画線部と非画線部の電位差をいう。また後者では画線部と非画線部の濃度差のことである。
通し番号	用語	読み	英語	説明文

344	SURF (サーフ)方式	さーふほうしき	SURF system	耐熱性薄層エンドレスベルトを未定着トナー画像に当て、裏側より線状ヒータにより接触加熱する定着方式。ローラ定着に比べ、熱容量が小さいのでウォームアップ時間を短くすることが可能となる。Surface Rapid Fusing に由来する。
345	サーマルインクジェット	さーまるじえつとしき	thermal inkjet	ノズル内に発熱抵抗素子を埋め込み、その発熱によりインクを沸騰させ、その時発生する気泡の圧力によりインクを吐出させるインクジェット記録方式。バブルジェット方式と同一原理の方式。
346	サーマルヘッド	さーまるへつど	thermal head	微小発熱体を整列配置し、画像データに対応した通電により選択的に発熱体を加熱するサーマルプリンタ用記録デバイス。製造方法から厚膜ヘッドと薄膜ヘッドに、また、印画時の形態からシリアルタイプとラインタイプに分かれる。
347	サーマルヘッド消去	さーまるへつどしょうきよ	thermal head erasing method	熱可逆性媒体において、サーマルヘッドにより熱印加を行いながら、媒体上を走査させ、画像を消去する方法。同一のサーマルヘッドにより、画像の印字も行われる為、印字・消去装置の小型化が図れる。
348	サーマルリライタブルマーキング	さーまるりらいたぶるまーきんぐ	thermal rewritable marking	熱エネルギーを与えて可視画像を形成し、その可視画像はエネルギーを与えることなしに保持し、再び熱エネルギーを与えると可視画像は消去され、その繰り返し可能なマーキング技術を云う。その記録原理から、相分離又は相変化に伴う光散乱性変化等を利用した物理変化型とロイコ染料のラクトン環開閉の発色変化を利用した化学変化型の二つに大別出来る。
349	サーモプラスチックホログラム	さーもぶらすちっくほろぐらむ	thermoplastic hologram	レーザホログラフィーの記録に変形像記録を応用したもの。原理的に微細な干渉縞を記録するのに適しているうえ、加熱により直ちに現像、記録状態を確認できる利点がある。
350	サーモプラスチックレコーディング	さーもぶらすちっくれこーでいんぐ	thermoplastic recording	真空チャンバー中で熱可塑性のプラスチックフィルムに電子ビームを直接照射して静電荷パターンを作成し、次に加熱により静電荷パターンに相当する変形歪像を与える。
351	再結合	さいけつごう	r ecombination	光導電体に光を照射することによって生成した電子と正孔が、再度、結合して安定な状態をつくる現象。
352	再現開始点	さいげんかいしてん	start point	文字画像や自然画像を低濃度から滑らかに再現すること、画像背景部のかぶりを防ぐという相反要求の妥協点をいう。現像開始濃度や画像面積率によって定める。
353	最小濃度	さいしょうのうど	minimum density	現像あるいは記録によって得られる最低の画像濃度で、カブリあるいは紙等の受像シートの濃度と一致する。
354	サイズ検知	さいずけんち	size detection	用紙サイズの自動検知と、原稿サイズの自動検知がある。用紙サイズはトレイの用紙位置決め部材位置をリードスイッチなどで検出する。原稿サイズはプラテン上の位置を光学的手段により検出する例が多い。
355	再生PPC用紙	さいせいびーびーしーようし	recycled PPC paper	上質古紙および新聞古紙などを主パルプ源とし、PPC向けに特性が調整された用紙。古紙配合率は70%程度が多いが、100%古紙を原料とした用紙も商品化されている。
356	最大濃度	さいだいのうど	maximum density	現像または記録によって得られる最大の濃度。
357	再転写	さいてんしゃ	retransfer	カラー多重転写にて、先に転写された画像の一部が次色トナー転写の際に、再び感光体へ転写されること。
358	彩度	さいど	color saturation	色のあざやかさの程度を示す尺度である。等しい明るさの無彩色からの距離で表わす。たとえば、L*a*b*表色系では、中心からの距離で表わす。彩度 = $\{(a^*)^2 + (b^*)^2\}^{1/2}$ となる。
359	サブバンド符号化	さぶばんどふごうか	subband coding	送信側では入力信号を通過周波数帯域が限られた複数の分析フィルタに通し、それぞれの出力をダウンサンプル、量子化、エントロピ符号化した結果を合成伝送し、受信側では復号、逆量子化、アップサンプル後、合成フィルタを適用し画像を再生する符号化方式。通過周波数帯域が限られた複数のフィルタを用いる事からこの様に呼ばれる。
360	サブマトリクス法	さぶまといりくすほう	sub-matrix method	組織的ディザ法において、解像性の向上と階調再現の安定性をねらいに、大きなディザマトリクスを小さなサブマトリクスに分割し、サブマトリクスの中ではドット集中的な閾値配置を行い、全体的にはサブマトリクスを分散配置する方法。

361	酸化還元反応	さんか・かんげんはんのう	oxidation-reduction reaction	電子供与性化合物と電子受容性化合物の反応をいう。ロイコ染料型サーマルリライタブルマーキングではロイコ染料（電子供与性化合物）と可逆顕色剤（電子受容性化合物）の酸化・還元反応を利用している。
362	酸化亜鉛	さんかあえん	z inc oxide	ZnO。感光材料に使用される白色顔料。N型の無機酸化物であり負帯電感光体として用いられる。光感度ピークを約370nm付近に有することから、一般には色素増感による感度調整が行なわれる。紙に塗布して用いられ、その上に直接画像を形成する。
363	酸化亜鉛コート紙	さんかあえんこーとし	z inc oxide coated paper	直接電子写真方式で用いられる電子写真感光紙。粒径0.3μm程度の酸化亜鉛粉末を樹脂に分散し紙の上に塗布して作られる。1960年代から70年代にかけてエレクトロファックス方式と呼ばれる複写機用として多く用いられた。
364	三刺激値	さんしげきち	tristimulus value	試料の色刺激に等色するために必要な3つの原刺激の量。XYZ表色系（2°視野、視覚4°以下の対象に適用）ではX, Y, Zで、X10Y10Z10表色系（10°視野、視覚4°以上の対象に適用）ではX10, Y10, Z10で表わす。
365	算術符号化	さんじゅつぷごうか	arithmetic coding	符号化効率の高いエントロピ符号化の1方式で、JBIG/JPEGで規定されているQM-Coderがその一例である。対象シンボル系列の出現確率に応じて数直線上の部分領域を割り当ててゆき、該当範囲を判定するのに必要な座標情報をその符号語としている。座標計算に演算が必要なため、この名がある。
366	酸性紙	さんせいし	acid paper	PHが酸性から弱酸性で抄紙された紙。ロジンサイズ剤などを硫酸ばん土（硫酸アルミニウム）で定着するため酸性となる。硫酸イオンはセルロースの分解劣化を引き起こし、黄変や強度低下が生じることから中性紙への転換が進められている。填料としてタルク、カオリンの利用が多い。
367	酸性染料	さんせいせんりょう	acid dyes	水溶性染料の一つで分子中にスルホン基、カルボキシル基などの酸性基を有する染料。色相が鮮明な染料が豊富で、水溶性が高いことよりインクジェット用色素として多用されている。
368	残留磁化	ざんりゅうじか	residual magnetization	強磁性体に外部磁界をかけて磁化したとき、外部磁界を除いた後も残る磁化をいう。永久磁石や記憶装置、マグネトグラフィなどに使われる磁気記録媒体は残留磁化が大きい硬磁性材料である。
369	残留電位	ざんりゅうでんい	r esidual potential	電子写真感光体において、帯電後露光量を増しても減衰せずに残る電位。繰り返し使用により増大することが多い。また、電子写真プロセスを繰り返し行なう場合、帯電前のプロセスにおいて感光体表面に除電しきれずに残った電荷により発生する表面電位。
370	ジアソカップリング反応	じあぞかっぷりんくはんのう	coupling reaction of diazonium salt compound	ジアゾニウム塩化合物が、フェノール誘導体、ナフトール誘導体、芳香族アミン、活性メチレン基を有する化合物など（これらをカブラーと称する）と反応しアゾ染料を生成する反応。光定着型感熱紙の画像形成に利用される。
371	ジアゾニウム塩	じあぞにうむえん	diazonium salt	一般式ArN2Xで表される化合物。Arはアリール基、Xは塩酸、硫酸等の酸の陰イオンを表す。カブラーと反応して染料を形成するとともに感光性も有するため、さまざまな記録材料に利用されている。
372	シアニン染料	しあにんせんりょう	cyanine dye	両端に含窒素ヘテロ環をもち、その間がメチン共役鎖で結合された染料で、共役鎖の数により、モノメチンシアニン、カルボシアニン、ジカルボシアニンなどと呼ばれ、共役鎖が長いほど吸収波長が長波となり、青光の領域から赤外線領域にわたって適した吸収波長の色素が得られる。写真感光材料の分光増感剤として用いられるほか、アクリル繊維の染色や医薬にも用いられる。
373	CIELUV色空間	しーあいいーえるゆーぶいいうかうかん	CIE 1976 L*u*v* color space ; CIELUV colorspace	CIEが1976年にL*a*b*色空間とともに定めた均等色空間。次式で定義される。L*=116(Y/Yn)^(1/3)-16 Y/Yn>0.008856 u*=13L*(u'-u'n) v*=13L*(v'-v'n) ここで、Y値は任意な色のXYZ表色系における三刺激値のY値、u', v'はCIE1976UCS色度座標である。Yn, u'n, v'nは標準の光の下における完全拡散反射面に対するY値、u', v'色度座標であり、Yn=100と定められている。
374	CIE表色系	しーあいいーひょうしよくけい	CIE 1931 standard colorimetric system CIE 1964 supplementtaru standard colorimetric system	CIE (Commision Internationale de l'Eclairage)が、実験に基づいて1931年および1964年に採択した、2°視野および10°視野の標準観察者の等色関数x( ), y( ), z( )およびx10( )y10( )z10( )を用いて、任意の分光分布の3刺激値X, Y, ZおよびX10, Y10, Z10を決定する表色系。前者は視覚4°以下の、後者は視覚4°以上の観察対象に適用される。一般に、モニター画面や印刷物については2°視野が、繊維製品やペイント、プラスチックについては10°視野が用いられる。
375	CIELAB色空間	しーあいいーれるえーびーいうかうかん	CIE LABCIE 1976 L*a*b* color space ; CIELAB color space	均等色空間の代表的なものであり、広く実用化されている。CIEが1976年に規定した、量L*(明さを示す)、a*, b*(色みを示す)を軸とする直交座標色空間をいう。以下の関係式で表される。L*=116(Y/Yn)^(1/3)-16 Y/Yn>0.008856 a*=500[(X/Xn)^(1/3)-(Y/Yn)^(1/3)] X/Xn>0.008856 b*=200[(Y/Yn)^(1/3)-(Z/Zn)^(1/3)] Z/Zn>0.008856

376	CMS	しーえむえす	CMS	(参照：カラーマネジメントシステム)
377	G3ファクシミリ	じいさんふあくしミリ	group 3 facsimile (G3)	現在最も一般的なファクシミリの種別でITU-T Rec.T.4, T30で規格化されている。ファクシミリは、その通信機能によりグループ分けされており、そのグループ内では相互通信が可能となっている。G3は、読み取った画像をデジタルデータとして、冗長度抑圧符号化を行い、モデムによりアナログの変調信号に変換して電話回線等を通して通信を行なう。
378	GCR	じいしいあーる	glay color replacement	UCRで、ハイライト領域からシャドウ領域まで全ての領域でCMY信号の重なったグレイ成分とK(黒又は墨)成分の置き換えを行なう方法。フルブラック、アクロマチック製版等とも呼ばれる。
379	CGL	しーじーえる	carrier generation layer	(参照：電荷発生層)
380	CCD	しーしーでい	charge coupled device (CCD)	(参照：電荷結合素子)
381	CTL	しーていーえる	carrier transport layer	(参照：電荷輸送層)
382	CTP	しーていーびー	computer to plate	デジタル化された印刷原稿の情報を使用し、出力装置により直接、印刷用の刷版を作製することをいう。Computer to Pressともいう。従来は、印刷原稿の情報をレーザープリンタやイメージセッタから普通紙、印画紙、フィルムに出力した後、密着露光により刷版を作製していた。
383	G4ファクシミリ	じいよんふあくしミリ	group 4 facsimile (G4)	G3ファクシミリと同様の通信機能によるグループ分けの一つでITU-T Rec.T.563等で規格化されている。冗長度抑圧した符号化画像データをモデムを介さずに直接デジタルデータとしてISDN等のデジタル回線を用いて通信を行なう。ISDNの普及の遅れ等により普及していない。
384	シールド電流	しーるどでんりゅう	shield current	コロナ放電器においてコロナ放電ワイヤーを取り囲むシールド(遮蔽体)へ流れる電流成分。帯電には寄与せず無駄な電流であるが、コロナ放電の発生を安定させる効果を持つ。
385	J-会合体	じえい-かいごうたい	j-aggregate	色素の会合体。単量体に比べて吸収帯が鋭く、吸収極大波長が長波長側に移動する。J会合体によって、メロシアニン系のホトクロミック材料の熱安定性向上が可能になる。
386	JND	じえいえぬでい	just noticeable difference (JND)	明るさ等の刺激を一定値の標準刺激とそこから少し変化させた変化刺激として場所的あるいは継時的に提示し、その変化を知覚できる限界の変化量を言う。明るさだけでなく色や音等についても用いられる。
387	JBIG (ジェイビグ)	じえいびぐ	JBIG	ITU-T T.82; ISO/IEC 11544規定の2値画像符号化方式。マルコフモデル符号化と算術符号(QM-Coder)の組合せで階層の符号化も可能。文字画像ではG4標準用符号MMRより約30%圧縮率が高い。該標準作成機関(Joint Bi-level Image experts Group)の略称に由来する。
388	JPEG (ジェイベグ)	じえいべぐ	JPEG	ITU-T T.81; ISO/IEC 10918-1で始まるシリーズで規定されたカラー静止画符号化方式。DCT変換を基本とし、変換係数の量子化で画質が制御できる。段階伝送や算術符号化も規定。該標準作成機関(Joint Photographic Image Experts Group)の略称に由来する。
389	シェーディング	しーでいんぐ	shading	照度ムラ、照明ムラ、レンズの明るさのムラ、感光体の感度ムラなど低周波のムラをいう。機械的補正版や電氣的補正で一様化するのをシェーディング補正という。
390	ジェネレーションコピー	じえねれーしょんこぴー	generation copy	複写された画像を原稿として、再度複写された画像をいう。複写回数を重ねると複写機のもつ特定の空間周波数特性を有した模様収束する。
391	シェフィールド平滑度	しえふいーどへいかつど	sheffield smoothness	幅0.015インチの同心二重リングで構成される標準面上に試料を置き、その上に板を重ねて圧力1.5lb/in <sup>2</sup> で空気を流したときに1分間に流れる流量(ml/min)を10倍したシェフィールドユニットと称する単位で表す。TAPPI TEST METHODのT 538 om-96参照。
392	紫外線硬化インク	しがいせんこうかいんき	UV curable ink	紫外線硬化樹脂をバインダとして含む印刷インク。紙面から盛り上がる文字・画像を印刷するとき、あるいはプラスチックフィルムなどインクの吸収性や乾燥の悪い材料に印刷するとき、印刷後、紫外線を照射して急速に乾燥・硬化させる目的で使用する。



393	磁化曲線	じかきょくせん	magnetization curve	磁性体に加える外部磁界をだんだん大きくするにつれて、磁性体の磁化の強さが大きくなっていくが、ある程度以上の磁界になると磁化の増加が少なくなり、やがて飽和する。このように外部磁界と磁性体の磁化の関係をプロットしたものをいう。
394	視覚伝達関数	しかくでんたつかんすう	visual transfer function (VTF)	画像の再現性を評価する手段として、システムを各部に分割して、その空間周波数領域での伝達関数の重ね合わせとして評価する方法がある。この際に人間の視覚特性を表わすのに用いられるのが視覚伝達関数であり、明度軸については、4 cycle/deg.程度にピークを有する特性が主に用いられている。
395	磁化転移領域	じかてんりょういき	magnetic transition region	デジタル磁気記録において、磁気記録ヘッドから記録媒体に加える記録磁界をステップ状に反転させたとき、記録媒体内で徐々に磁化の向きが反転する領域をいう。この領域には磁荷が生じて、マグネトグラフィでは磁性トナーが吸引される。
396	磁化率	じかりつ	susceptibility	ある物質に磁界を加えて磁化したとき、磁界の強さ(H)とその物質の示す磁化の強さ(I)との比をいい(I/H)、磁化のされ易さを表す。
397	色域(しきいき)	しきいき	color gamut	特定の3刺激値の加法混色によって再現されるすべての色を含む色度図上に表現された範囲。
398	磁気カプセル方式リライタブルマーキング	じきかぶせるほうしきりらいたぶるまーきんぐ	magnetic capsule type rewritable marking	磁性粉とオイルやワックスを封入したマイクロカプセルから成る媒体に、磁場と、必要に応じて熱を印加して繰り返し記録および消去が可能な記録方式。フレーク状の粒子を配向させる方式と、磁気泳動を利用した方式がある。
399	磁気記録媒体	じききろくばいたい	magnetic recording medium	磁気記録ヘッドから生ずる磁界により磁化されて、残留磁化パターンが記録される媒体をいう。硬磁性材料から成り、マグネトグラフィの代表的な磁気記録媒体はCo-Ni-Pのメッキ膜である。
400	磁気記録ヘッド	じききろくへつど	magnetic recording head	磁気記録媒体を磁化するために信号に対応した磁界を発生するヘッド。リング状のコアにコイルが巻いてあり、コアの一部が非磁性体になっていて、そこから記録磁界が発生する構造になっている。コアにはパーマロイ、フェライトなどの軟磁性材料が使われる。
401	磁気光学シャッタアレイ	じきこうがくしゃったあれい	magneto-optical shutter array	直線偏光した光が磁場内におかれた等方性の物質中を磁界方向に進むときに、その偏光面が回転する性質(ファラデー効果)を利用した光シャッター。2枚の偏光板のあいだに素子をおいて使用する。1μs位の短い露光時間を得ることができる。
402	色差	しきさ	color difference	色の知覚的な違いを定量的にあらわしたものである。L*a*b*表色系では、E*ab(デルタ・イースター・エイ・ビー)の次式で定義される数値で表わす。E*ab=[(L*)^2+(a*)^2+(b*)^2]^1/2 これにより、各種の色度図上での距離がこれに対応する。
403	色彩計	しきさいけい	colorimeter	色を表示する数値を測定する計測器。人間の目には分光応答度の異なる3種のセンサがあり、人間はこのセンサから刺激として色を感知する。色彩計はこの刺激量(3刺激値X, Y, Z)を客観的に測定し、目的に応じた表色系に変換する。客観性を確保するため、CIEにより標準観測者が定義されている。
404	磁気スタイラス記録	じきすたいらすきろく	magnetic stylus recording	導電性かつ強磁性のスタイラスの先端と絶縁層との間に導電性磁性トナーを配置し、トナーを磁気力でスタイラスの先端に吸引させておき、選択的にスタイラスに電流を流して電気でトナーを絶縁層の上に残す、画像形成技術。
405	磁気潜像	じきせんぞう	magnetic latent image	マグネトグラフィにおいて、磁気記録媒体に記録された画像に対応する磁化パターンで、現像前の見えない状態をいう。
406	色相	しきそう	hue	赤、黄、緑、青、紫のような色感覚の性質を特徴付ける色の属性を色相という。色度図上では、無彩色を中心にして放射状に同一色相が並び、円周方向に異なる色相が連続的に配列される。
407	磁気双極子	じきそうきょくし	magnetic dipole	N, S両極がきわめて接近して存在しているものをいう。磁化された磁性体では必ず両端にN極とS極とが対になって現れる。磁性トナーのような小さな磁性体が磁化されると、磁気双極子として振る舞う。
408	色素拡散転写法	しきそかくさんてんしゃほう	dye diffusion transfer process	ハロゲン化銀写真法の一つで、現像過程で染料が放出されて受像層に拡散して転写されるカラー画像形成法。カメラ撮影用としてインスタントカラー写真が、またカラープリント、コピー用として熱現像型カラー写真(ピクトロカラー)がある。
409	色素受容層	しきそじゅようそう	dye receiving layer	インクフィルム(染料ドナーシート)より染料が熱転写されることが可能な受像紙の表面に構成された層。染料に染着されやすい材料が塗布された層。染料受容層、受像層ともいう。

410	色素増感	しきそぞうかん	dye sensitization	酸化亜鉛やポリビニルカルバゾールなど可視光領域に光吸収のない光導電体中に有機色素を添加してキャリア生成の波長領域を可視域や赤外線領域に広げること。ハロゲン化銀感光材料における分光増感に対応する。
411	色素媒染法	しきそばいせんほう	dye mordanting	拡散性の染料を媒染剤によって固定すること。インスタントカラー写真に利用されている色素拡散転写法では、受像層に媒染剤を添加し、画像状に拡散・転写してきた染料を固定している。
412	磁気チェーン現象	じきちえんげんしょう	magnetic chain development	マグネトグラフィの現象法で、トナーが記録媒体と接する領域でトナーをチェーン状に結合させて記録媒体の磁気潜像に供給する。画像部では磁気潜像の吸引力がトナーのチェーン結合力に勝るので、トナーが潜像側に移り、非画像部ではトナーが移らない。
413	磁気ディスプレイ	じきでいすぶれい	magnetic display	磁場を印加して記録を行うディスプレイ。磁気カプセル方式リライタブルマーキングや磁気粉方式リライタブルマーキング等がある。
414	色度図	しきどず	chromaticity diagram	色度座標を直角座標に示した図。三刺激値X, Y, Zから定義された(x, y)をプロットしたx y色度図は、色度図上の2点間の距離が等しくても色度図の位置によっては同一の知覚差とならない。これを知覚的に等しい差となるように変換した表色系をUCS色度図と呼ぶ。
415	磁気ブラシクリーニング	じきぶらしくりーにんぐ	magnetic brush cleaning	磁石による磁界で現像剤のキャリア等の磁性粒子によるブラシを形成し、感光体表面をこすることにより残存トナーを除去すること。
416	磁気ブラシ現象法	じきぶらしげんぞうほう	magnetic brush developing	トナー粒子を表面に静電的に付着させた磁性キャリアを磁石に吸引付着させブラシ状となし、これで静電潜像を形成した像面を擦ることによって可視像を得る方法。トナー中に磁性粉を含有する磁性トナーを用いる場合も磁気ブラシ現象法と言う。
417	磁気ブラシ帯電	じきぶらしたいでん	magnetic brush charging	マグネトローラ上に磁性粒子の層(磁気ブラシ)を形成して感光体ドラムに接触させ、マグネトローラに印加された電圧で感光体ドラムを帯電する方法。磁気ブラシと感光体との接触面積が広く、安定した画像が得られる。
418	磁気プリンタ	じきぶりんた	magnetic printer	磁気潜像を形成し、磁性トナーにより可視像化してハードコピーを作るプリンタ。消去、記録、現像、転写、定着、クリーニングのプロセスを経る。一度潜像記録すると、現像以降のプロセスを繰り返すだけで極めて多数のコピーができる。
419	磁気粉方式リライタブルマーキング	じきふんぼうしきりらいたぶるまーきんぐ	magnetic powder type rewritable marking	磁気粉に磁場を作用させることによりくり返し記録および消去が可能な記録方式。一般には、封入された磁気粉の裏面におかれた強磁性体層に磁気パターンを記録し、文字等を表示する。
420	磁気リーダライタ	じきりーだらいた	magnetic reader writer	磁気記録媒体の記録及び、再生を行う装置。カード媒体では、手動により媒体を走査させるもの、電動により媒体を走査させるものがある。電動によるものでは、カード上に画像を印字する機能を有するものがある。
421	仕事関数	しごとかんすう	work function	温度0°Kで固体中の自由電子1個を物質外に引き出すに必要なエネルギーを電位差(V)で表わしたもの。真空中の電子のエネルギー準位を零として測ったフェルミ準位のエネルギーの絶対値である。
422	視細胞	しさいぼう	visual cell	網膜中の光の受容器部分を視細胞という。視細胞には桿状体および錐状体の2種がある。それぞれ、約700万個と1億個ほどあり、外光を吸収して光反応を起こし、その信号が視神経に伝達されて視覚を生じる。
423	示差走査熱量測定	しさそうさなつりょうそくてい	differential scanning calorimetry	基準物質と試料とを同時に一定の速度で加熱しながら両者の間に生じようとする温度差を0に保つのに必要な電気エネルギーの記録が示差熱分析曲線(thermogram)であり、これにより試料物質の熱的特性を解析する。測定機は示差走査熱量計。
424	支持体(基材)	しじたい	substrate	インクシートや受像紙の構成材料で塗布層を保持させるためのベースフィルム。基材とも呼ばれる。インクシートでは支持体上に滑性層および色材層を形成する。染料熱転写用受像紙の支持体は断熱性とクッション性が重要である。
425	システムレスポンス	しすてむれすぽんす	system response	ある系の入出力応答をいうが、電子写真の場合、入力画像濃度/露光量/感光体表面電位/出力画像濃度(ジョーンズプロット)間の入出力応答特性を指す。
426	磁性キャリア	じせいきゃりあ	magnetic carrier	磁気ブラシ現象法で用いるキャリア。磁場の中におかれると磁性を帯びる、鉄化合物を主な材料として作る。

427	磁性トナー	じせいとなー	magnetic toner	粒子中に磁性粉を含有するトナー。磁力によって搬送可能で、キャリアは不要である。導電性と絶縁性のトナーとがあり、前者は現像領域での電荷注入、後者は現像スリーブやブレードとの接触・摩擦により帯電する。
428	持続性静電潜像システム	じぞくせいせいでんせんぞうしすてむ	c charge retention system	電子写真プロセスにより形成された静電潜像に対し、現像、転写を繰り返すことにより1回の潜像形成で他数枚の複写を得るシステム。
429	持続性内部分極	じぞくせいないうぶんきよく	persistent internal polarization (PIP)	光導電性絶縁材料に光照射と同時に電場を加えて、材料内部に生成した電荷を分極させてトラップさせることにより、光照射および電場を解除後も有限時間分極状態を保つ現象。
430	持続光導電性法	じぞくひかり(こう)どうでんせいほう	electroconductivity process	導電性感光体には、光像を露光すると像上に持続性の導電部を生じるものがある。この現象を利用した電子写真法で、充電現象、電気泳動現象で可視化する。帯電工程が不要であるが、光像を露光した後に帯電し静電潜像に変換することもできる。
431	下色(したいろ)除去	したいろじょきょ	under color removal (UCR)	カラー印刷や、電子写真では、YMCの3原色にK(黒)を使用してカラー再現を行うが、YMC3色の重なりからなるグレー成分を減らしてK(黒)成分で置き換えることをいう。この置き換えの割合は原稿種類によって使い分けられることがある。
432	ジッタ	じった	jitter	狙いの速度あるいは周期に対し、その値の周辺で変動(振動)することをいう。例えばチェーンによる駆動ではチェーンのピッチに対応して速度変動を生じ、画像にバンディングとなってしま状の画像が現われる。
433	自動給紙	じどうきゅうしほうしき	automatic paper feed	スタックされた用紙を自動的に機械の中に送り込む機構を持つ装置。シート給紙、ロール給紙の2つに分類される。
434	自動原稿送り装置	じどうげんこうおくりそうち	automatic document feed (ADF)	あらかじめセットされた原稿を一枚ずつ自動的に原稿面ガラス上に送り、コピー終了後、自動的に原稿を排出する装置。
435	自動両面機構	じどうりょうめんきこう	auto duplex mechanism	用紙片面へ複写後、用紙を表裏反転させて両面用トレイに集積し、次の複写指示により再び複写画像形成部へ送出して両面複写を行う機構。感光体上に2画面を形成し第1の画面を転写後、用紙を反転し第2の画面を転写し両面同時に定着する方式もある。
436	視認性	しにんせい	visibility	色やコントラストや解像度等の要因で支配される可視画像の見易さを総合的に表わしたもの。
437	地肌濃度	じはだのうど	background optical density	リライタブルマーキング媒体等において、印字記録が一度もなされていない部分の光学反射濃度。一般に、発消色型では発色部の濃度より低く、透明/白濁変化型では白濁部の濃度より高い。
438	滲みだし機構	しみだしきこう	exudation mechanism	熔融型熱転写記録において熱溶解性のインク層が全体的に転写することなく、非転写性の構造(例:石垣構造)中からパラフィン等を主成分とする低温で溶解する色材成分が滲みだすように出てきて記録媒体へ転写する機構。
439	シャープネス	しゃーぷねす	sharpness	画像の鮮明さや鮮鋭さに関する物理量で、像の微細構造を測定してMTFで評価することが一般に行われている。白黒の境界部の立ち上りや、遠近の判然さ等もこれに関係する。解像力とは異なる。
440	ジャギー	じゃぎー	jaggy	デジタル画像出力の際、斜め線に鋸歯状のギザギザが発生すること。出力装置の解像度に依存する。これを軽減するために解像度補間処理(resolution enhancement technology:RET)が採用される。(参照:擬似解像度)
441	弱磁界現像	じゃくじかいげんしょう	weak magnetic field development	マグネトグラフィの現像法で、記録媒体の磁化を消さないように、比較的弱い磁界を加えてトナーを供給する方式。
442	シャドーポイント	しゃどーぽいんと	shadow point	スキャナ等による画像の取り込みにおいて、階調の有る中でもっとも暗く再現する部分。印刷用等では、この部分の網パーセントを暗い方に少し余裕を残す為、95%等に設定する。
443	ジャンピング現象	じゃんびんくげんぞうほうしき	toner projection development	一成分絶縁性トナーを用いる非接触現像方式。トナー薄層を現像ローラ上に形成し、感光体とは非接触で回転させる。トナーの現像ローラへの付着力、鏡像力をキャンセルさせるため、直流バイアス電圧の上に交流バイアス電圧を重ねて印加される。

444	重回帰分析	じゅうかいきぶんぶん	multi regression analysis	画像の品質の様に各種の要因が作用している場合、それら要因の中で、ほぼ独立に寄与する要因を見つけて出し、その寄与度を明確にする為の手法。多次元での回帰直線（曲線）と相関係数の導出が主となる。
445	重合トナー	じゅうごうとなー	polymerised toners	着色剤や添加剤等とモノマを水媒体中で分散させながら重合して製造するトナー。一段階の反応でトナーサイズの粒子を形成、形状が球形となる懸濁重合法と、重合した微粒子をいくつか凝集させてトナーサイズとする乳化重合法とがある。
446	重送	じゅうそう	multi feed (feeding)	紙送り出し部から用紙が単葉に分離されず、複数枚重なった状態で送り出されること。
447	重層効果	じゅうそうこうか	interlayer effect, inter-image effect	銀塩写真の現象効果の一つ。現象反応が進んでいる局所的な場所の下層又は上層が反応生成物により現象促進又は抑制を受けて、それが画像特性に及ぼす影響。カラー写真画像の色彩度や鮮鋭度を強調する目的で、重層効果が利用できるように感光材料設計が行われる。
448	収束性光ファイバーレンズアレイ	しゅうそくせいひかりふあいばーれんずあれい	optical fiber lens array	(参照：レンズアレイ, SLA)
449	充電現象法	じゅうでんげんぞうほう	c charging development	光照射を止めても暫くの間導電性が保たれる光導電体を用いて導電性の潜像を形成し、導電性磁性トナーに電圧を印加しながら潜像上をこすると非露光部を充電する形でトナーが付着する。
450	主観評価	しゅかんひょうか	subjective evaluation	画質の良し悪しは、最終利用者である人間が判断することになるので見る人の主観判断による主観評価が望ましい。しかし人間の主観判断は、バラツキが大きく実用的には効率が悪いので、主観評価との対応関係が良い客観評価方法を開発することや、それを用いることが重要である。
451	縮合多環系顔料	しゅくごうたかんけいがんりょう	p olycyclic dye	構造式中に環状の原子配列を複数持ち、2つ以上の環がそれぞれ2個以上の原子を共有して一体化している有機顔料。発色系の拡大により鮮明な色や蛍光性、導電性などの機能を示す。キナクリドン、キノフタロン、オキサジン系色素がある。
452	縮小型イメージセンサ走査	しゅくしょうがたいめーじせんさそうさ	reduction type image sensor optics scan	縮小光学系を介して原稿像をイメージセンサ受光面に結像走査する方式。等倍イメージセンサに比較し画像の縮拡大が容易であり、焦点深度も深く出来る。
453	主走査	しゅそうさ	first scan	画像を複数のラインに分割して読み込むまたは書込む際に、ライン方向に走査することを主走査、次のラインに移動することを副走査(slow scan)という。
454	受像紙	じゅぞうし	receiver paper	最終的に画像が形成される記録用紙。熱転写記録においては、染料または顔料が転写されて画像形成する。
455	受容器	じゅようき	recepter	光その他の刺激を受けて入れる生体の器官。視覚系では、かん状体と錐状体とがあり、前者は暗所、後者は明所で働く。
456	シュリーレン法	しゅりーれんぞうとうえい	schlieren method	微小な屈折率変化を明暗の差として表す光学的測定法。平板ガラスの脈理測定などに用いる。点光源をコリメータレンズにより平行光束とし、被検物を置き、通過後レンズにより一点に収束させる。その収束点をナイフエッジで遮って目視すると脈理がないときは一様に暗くなるが、脈理があると濃淡像が観察される。他にも反射・屈折面の表面凹凸や流体の流れの可視化などにも用いられる。
457	順次再生符号化	じゅんじさいせいふごうか	sequential coding	最終品質の画像が走査順に送られてくる、通常の符号化伝送方式を指す。階層的符号化に対する言葉で逐次符号化ともよぶ。
458	昇華	しょうか	sublimation	固体が直接気体になる現象。この現象を利用して、サーマルヘッドの熱により、染料がインクフィルム（染料ドナーシート）から受容層に転移する。
459	昇華型熱転写法	しょうかがたねつてんしゃほう	sublimation dye transfer printing method	熱移行性の染料を含有する層をPETフィルム等の支持体上に塗布して作った染料ドナーシートを、合成紙等の支持体上に染料受容層を有する受像シートに対向させて、画像情報に基づいて加熱することにより受像シート上に画像を形成する。当初は昇華性染料が用いられ標記の用語が一般化した。最近では非昇華性の染料も使用されている。染料熱転写記録法ともいう。
460	昇華性染料	しょうかせいせんりょう	sublimation dye	固体から気体に状態化する染料を示すが、現在では昇華転写方式に用いられていて、インクフィルム（染料ドナーシート）から受容層へ転移することのできる、染料全般を示す。

461	消去エネルギー	しょうきょえねるぎ	erasing energy	リライタブル媒体において、印字記録後に画像を消去する際に必要とするエネルギー。媒体により、必要なエネルギーは熱、電場、磁場等と異なる。
462	消去温度	しょうきょおんど	erasing temperature	サーマルリライタブルマーキングにおいて記録画像を消去する温度。
463	消去温度範囲	しょうきょおんどはんい	erasing temperature range	サーマルリライタブルマーキングにおいて記録画像を消去可能な温度範囲。
464	消去残像	しょうきょざんぞう	ghost image	リライタブルマーキングの画像消去処理後に完全には消えきらずに残った画像のこと。
465	消去性	しょうきょせい	erasability	記録画像を消去した部分の消去の程度を示す指標。下記の式で表される。一般に記録濃度が飽和記録濃度に達していないと消去の程度は良くなる傾向にあり、飽和記録濃度で記録した画像の消去が最も難しい。消去性(%) = $(D_p - D_e) / (D_s - D_b) \times 100$ 、 $D_p$ : 記録濃度、 $D_e$ : 消去濃度、 $D_s$ : 飽和記録濃度、 $D_b$ : 地肌濃度
466	消去特性	しょうきょとくせい	erasing characteristics	リライタブルマーキングでの記録画像の消去の特性。(参照: 消去性)
467	消去濃度	しょうきょのうど	erasing optical density	リライタブルマーキングにおいて、記録画像を消去した部分の光学的反射濃度。(参照: 消色濃度)
468	消去バー	しょうきょばー	erasing bar	サーマルリライタブルマーキングにおいて、棒状の発熱体を用いた画像消去手段。オンデマンド消去に用いられる。例としてセラミック基板に棒状の厚膜あるいは薄膜の発熱抵抗体を設けたものがある。
469	消去ランプ	しょうきょらんぷ	erase lamp	電子写真において感光体の繰り返し使用のために電荷を消去するランプ。
470	条件付きディザ法	じょうけんつきでいざほう	conditioned dither method	写真などの連続調画像を2値出力の装置で表現する為のディザ処理の一つで、2値化処理を行う画素の周囲や、2値化された結果により発生した誤差等を用いて閾値処理を変更する方法。平均誤差最小法(誤差拡散法)、平均値制限法、多段分割量子化法等がある。
471	消磁	しょうじじきしょうきょ	magnetic erasing	次の潜像記録の前に、不要になった磁気潜像を消すこと。磁気記録媒体に直流磁界を加えて一方向に均一磁化する方法和、交流磁界を加えて残留磁化をゼロにする方法とがある。磁気消去。
472	消色型2色感熱紙	しょうしよくがた2しよくかんなつし	discolor type two-color thermal paper	支持体上にアルカリ性下で(たとえば赤に)発色するロイコ染料と大過剰の高融点固体アルカリ化合物を含む感熱層と、酸性下で(たとえば青に)発色するロイコ染料と低融点固体酸化合物を含む感熱層を積層させた感熱紙。低温では青に発色。高温では赤に発色するとともに青発色層は中和されるために消色し、混色の無い2色が得られる。
473	消色性	しょうしよくせい	erasability	(参照: 消去性)
474	消色トナー	しょうしよくとなー	color fadable toner	不要になったハードコピーに近赤外光(825nm)を照射してトナー色を無色にすることにより、用紙の繰り返し使用を可能としたもの。トナーは着色剤としてシアニン系染料、消色助剤として有機ホウ素アンモニウム塩を用い、光照射すると染料が無色のロイコ体になる。
475	消色濃度	しょうしよくのうど	erasing optical density	発色型リライタブルマーキング媒体において、印字記録後に消去操作を行った部分の光学反射濃度値。適切な消色操作がなされても地肌濃度とは異なった値を取ることがある。
476	冗長度抑圧	じょうちようどよくあつ	redundancy suppression	エントロピ符号化によりオリジナルのデータ量を符号化圧縮することをいう。冗長度は名目の情報量、すなわち最大情報量と実際のエントロピとの差を最大情報量で正規化した値をいい、これを削減するところから冗長度抑圧と呼ばれる。
477	焦点深度	しょうてんしんど	depth of focus	幾何光学的に正しい像面位置から光軸方向に受光面がずれると像がボケる。このボケが実用上許容できる受光面のズレの範囲をいう。

478	ショートランプリント	しょーとらんぷりんと	short run print	1枚の原稿に対して500～1000部程度のプリントを行うことをいう。複写と印刷の中間領域。
479	初期電位	しょきでんい	i nitial potential	初期帯電終了時の感光体の表面電位。光減衰の解析のときには光照射を開始したときの表面電位をいう。
480	触媒退色	しょくばいたいしょく	catalytic fading	記録媒体上の染料が共存する他の物質の触媒的働きにより、選択的に劣化するもので、混色部の染料（例えばマゼンタ）が共存する他の染料（シアン）により増感された一重項酸素等の活性酸素種により酸化され退色する現象。
481	シリアルヘッド	しりあるへつど	sirial scan head	記録媒体面上を往復運動させて画像を記録するヘッド。記録媒体をヘッドの走査方向と直行方向に送ることにより媒体全面に記録を行う。記録速度は遅いが安価なプリンタが構成できる。また、大判サイズのプリンタにも適している。
482	シリンドリカルレンズ	しりんどりかるれんず	cylindrical lens	一方向に屈折力を持ち収束または発散し、直交する方向では屈折力をもたないレンズ。面が円筒面で構成される。ライン照明や、一方向の画像圧縮や、レーザー走査光学系の面倒れ補正などに用いる。
483	しわ	しわ	wrinkle	用紙に発生するしわをいう。特に熱ローラ定着にて、部分的に吸湿し歪んだ用紙を用いた際に発生しやすい。
484	浸漬塗工法	しんせきとこうほう	d ip coating	有機感光体の製造方法のひとつ。感光体材料を塗液とし、導電性素管を塗液中に浸漬した後、引き上げて塗膜を形成する。塗液の粘度、引き上げ速度で厚さをコントロールする。ディップコーティング。
485	心理項目	しんりこうもく	psychological factors (items)	画質等を評価する場合の心理的評価項目のこと。
486	心理物理量	しんりぶつりょう	psychophysical value (metric)	知覚や感覚のように物理的な刺激と対応して比較的一定の方向に漸近的に変化する過程を、物理的刺激との関係で数値的に表わした量。
487	錐状体（すいじょうたい）	すいじょうたい	cone	色覚や明るい光での視覚をつかさどる網膜の光受容体。感光物質の組み合わせで分光感度特性の異なる3種類（L、M、S）が存在する。
488	水性インク	すいせいいんく	water based ink	水及び水に可溶性な溶媒に染料、顔料などの色材を溶解または分散させたインク。安全性が高く、臭気が無いことより多用されている。
489	垂直記録	すいちよくきろく	perpendicular recording	磁気記録媒体の膜面から垂直方向に磁化すること。磁荷は膜の表面に現れる。
490	水溶性染料	すいようせいせんりょう	water-soluble dyes	染料の中で水に可溶性な染料群。水溶性染料は、さらに塩基性染料、酸性染料、直接染料、酸性媒染染料、可溶性建染め染料などに分類される。水に対する溶解度の高さから酸性染料、直接染料がインクジェット方式では多用される。
491	水溶性有機溶媒	すいようせいゆうきょうばい	water-soluble organic solvent	インクジェット用インクにおいて、染料、顔料などの色材を溶解または分散する水溶性の有機溶媒。具体的にはエタノール、n-プロパノールなどのアルコール類、ジエチレングリコール、グリセリンなどの多価アルコール類、ピロリドン系溶媒などが使用される。
492	S C I D	すきつど	SCID(Standard Color Image Data)	印刷等における作業の標準化や符号化特性の評価等を行なうことを目的に日本で検討されたのをベースに国際標準化（ISO12640、JIS X 9201）された標準画像データセット。印刷製版用のスキャナで入力されたCMYK網%で記述された写真データ等から構成される。
493	スクャベンジング効果	すきゃべんじんぐこうか	scavenging effect	現像時に感光体に付着したトナーの一部が、現像域内でキャリアにより再びかき取られる現象。
494	スクイーズ	すくいーず	squeeze	湿式現像後、感光体表面に残存するキャリア液体を適当な厚さに絞ること。スクイーズにはコロナ放電器が用いられる。

495	スクリーン印刷	すくりーんいんさつ	screen printing	枠に絹、ナイロン、ポリエステル、金属のスクリーンを張り、画線部のみスクリーンの目をあけて（写真的方法によるのが主流）ステンシルとする。スクイージでスクリーンの目（ステンシル）を通してインクを押し出して印刷する方法。
496	スケルトンブラック	すけるとんぶらっく	skelton black	UCRにおいて、K（黒または墨）の生成を中間階調から高濃度側に限定してハイライト部分の再現性を向上させた方法。墨のレンジが短い為、トーンジャンプが発生しやすい。逆に、ハイライトまで入れるのをフルブラック、アクロマチック製版、GCRと呼ぶ。
497	スコロトロン	すころとろん	s corotron	コロナワイヤと被帯電体との間にグリッド電極を持たせた構成のコロナ帯電器。帯電をコントロールする機能をもつ。（参照：コロナ帯電）
498	砂目立て	すなめたて	graining	平版印刷版用の版材の表面処理の方法の一種。非画線部の親水性・保水性向上、また画線部を形成する親油性材料（樹脂）の基板への密着強度向上に効果的。最近の版材はアルミ基板が中心であり、ブラシや砥粒による表面粗化や、電解処理が利用される。
499	スピロピラン	すびろびらん	spiropyran	2個のピラン環が2, 2'-位または2, 4'-位でスピロ結合しているスピロピランの総称。スピロ環構造と開環構造との間に熱的な平衡を保ち、サーモクロミズムやフォトクロミズムの原因となっている。
500	スポンジローラ現像	すぽんじろーらげんぞう	sponge roller development	湿式現像法の一つ。現像ローラとして導電性スポンジをテロンメッシュで覆ったローラを用いる。現像時メッシュの厚みを隔てて現像液が感光体との空隙に浸みだし現像される。現像域を過ぎると圧縮から開放され復元の際に余剰液が回収される。
501	墨入れ	すみいれ, すみせいせい	black component generation	プロセスカラー印刷等において、CMYの色材を重ねただけで十分な遮光性が得られない場合に、墨（K）を刷り重ねて高い濃度を実現すること、およびその方法。また、3色が重なったグレー成分を墨に置き換えるUCR等をさす場合もある。
502	スリーブ	すりーぶ	s leeve	円筒状のもの。磁気ブラシ現像法で、磁石を内蔵する非磁性体で出来た筒状部分をいう。この円筒表面に磁気ブラシが形成される。
503	スリット露光	すりっとろこう	slit exposure	複写機やイメージスキャナなどで原稿をスリット状に照明しつつ、直線走査する露光方法。
504	正極性放電	せいきょくせいほうでん	positive discharge	プラス電荷を発生させる放電。一般には、電源の正極側に負極側よりも曲率半径の小さい先端部、あるいは曲率半径の小さいワイヤ状電極等を備えることにより実現する。
505	制御電極アレイ	せいぎょでんきょくあれい	control electrode array	イオンフロー記録方式において発生したイオン流を制御するのに用いられる電極列をさす。通常は、穴あき電極対を列状に並べたものが用いられる。
506	正現像法	せいげんぞうほう	charged area development	潜像電荷と逆極性の電荷を持ったトナーを静電的に付着させる現像法。同極性の場合は反転現像法という。（参照：反転現像法）
507	正コロナ	せいこらな	positive corona	コロナワイヤに正の高電圧を印加して発生する放電。電子写真感光膜を正に帯電するために使用される。負コロナの場合よりも荷電むらを生じにくく、また有害ガスの発生も少ない。
508	静電印刷法	せいでんいんさつほう	electrostatic printing process	導電性シート上に絶縁性画像を形成したものを原版とし、これに電子写真法と同様に帯電現像、転写を繰返して多数枚のプリントを得る方法。露光が不要な分複写機に比し構造が簡単で高速化が容易である。スクリーン方式もある。
509	静電荷転写プロセス	せいでんかぞうてんしゃぶるせす	charge transfer process	（参照：潜像転写）
510	静電気力	せいでんきりょく	electrostatic force	静止している電荷の間に働く力。2つの電荷の間に働く力は各々の電荷に比例し、その間の距離の2乗に反比例する。力の方向は両者を結び直線方向で、電荷が同符号ならば斥力、異符号ならば吸引力である。
511	静電記録方式	せいでんきろく	electrostatic recording process, electrographic printing	誘電体層を持つ記録紙上に針電極等から直接電荷を与え静電潜像を形成記録する。多針電極を用いると可動部なしで、高速記録が可能である。図面用の大型の装置も実用化されている。中間体を用い普通紙に記録する方式もある。

512	静電記録紙	せいでんきろくし	dielectric-coated paper	導電処理した紙の上に誘電体層を設けた記録紙。針電極に高電圧パルスを印加して静電潜像を作りトナー現像により可視像を得る。高速記録が可能ことから高速ファクシミリ、プリンター、プロッターに使用されている。
513	静電コントラスト	せいでんこんとらすと	electrostatic contrast	画像部と非画像部の静電電位の差をいう。この電位差を利用して現像を行なっている。
514	静電潜像	せいでんせんぞう	electrostatic latent image	感光体や誘電体層上に静電荷が画像状に分布した状態のことで、トナー等で現像する迄は目に見えないので潜像という。
515	静電像	せいでんぞう	electrostatic image	現像前の誘電体もしくは光導電体層上に形成された静電荷像。(参照: 静電潜像)
516	静電転写	せいでんてんしゃ(ほうしき)	electrostatic transfer	静電界の作用により像を転写すること。一般にはトナー像を転写することをいう。コロナ転写とローラ転写が代表的な方式。(参照: コロナ転写, ローラ転写)
517	静電ブラシクリーナ	せいでんぶらしくりーな	electrostatic brush cleaner	感光体上に残存するトナーを、導電性繊維からなるブラシに電圧を印加して静電的に除去する方式。ブラシに付着したトナーは逆極性の電圧を印加したローラで補集する。
518	静電プローブ	せいでんぶろーぶ	electrostatic probe	表面電位等を測定するために、帯電体に近接、対向して使用する電極系、感應電極の部分は十分よく対地絶縁されている必要がある。
519	静電分離	せいでんぶんり	corona separation	トナー画像の転写時に与えた電荷と逆極性のコロナ放電を与えて、用紙の感光体への静電吸着力を弱め、用紙の腰の強さと重力により用紙を感光体より分離する方法。
520	静電誘導現像方式	せいでんゆうどうげんぞうほうしき	induction development	磁性一成分現像法の一つ。低抵抗導電性磁性トナーを用い、現像電界下でトナーに電荷を静電誘導で注入し現像する方式と、高抵抗磁性トナーを互いに逆回転する現像スリーブとマグネットローラにより現像領域に搬送し、現像ニップ内で攪乱することで、トナー層を実質的に導電状態にして現像する方式がある。(参照: マグネダイナミック法)
521	静電誘導帯電	せいでんゆうどうたいでん	induction charging	他導体と接触している物体が外部電界の作用で静電誘導により帯電する現象。接触部を通じて電荷が移動するために生ずる。導電性トナーの帯電にこの現象が利用されることがある。
522	製版用フィルム	せいはんようふいるむ	prepress film, reproduction film	製版工程で使用するモノクロのフィルムの総称。3色分解用(可視光全域に感光, 比較的軟調), プロセスフィルム(青・緑光に感光, 普通フィルムより硬調, グラビア製版用), リスフィルム(超硬調・解像力大, 網点の作成用, 文字・線画の再現用)等がある。
523	ゼータ電位	ぜーたでんい	zeta potential	界面動電位又は運動電位ともいう。固体と液体の界面に形成される電気二重層中の電位差のうち界面動電現像に有効に作用する部分をいう。コロイドの分散性及び電子写真液体現像における現像剤の評価に応用される。
524	赤外線写真	せきがいせんしゃしん	infrared photography	赤外線用写真フィルム及び赤外線用フィルタを用いて撮影する写真技法。可視光写真と異なる判別力を利用して、遠距離被写体の撮影, 生物組織体の透過撮影, 航空写真による森林・海洋汚染の調査, 司法鑑定, 測温などに応用される。
525	積層感光体	せきそうかんこうたい	layered photoreceptor	多層膜構造である感光体の総称。一般的には電荷発生層と電荷輸送層からなる機能分離型積層感光体を示す。
526	絶縁性磁気ブラシ現像	ぜつえんせいじきぶらしげんぞう	insulative magnetic brush development (IMB)	高抵抗磁気ブラシを用いる二成分現像法。高抵抗樹脂をコートした球形キャリアを用いる。通例では $10^{12}$ cm以上の抵抗値を絶縁性と称す。
527	絶縁破壊	ぜつえんはかい	dielectric breakdown	絶縁体に印加する電場が、ある限界以上になると突然に絶縁性を失って大電流を通すようになる現象。一般に不可逆的な破壊を伴う場合が多い。
528	絶縁破壊強度	ぜつえんはかいきょうど	breakdown strength	絶縁体に印加する電界を増大していくと、ある限界以上で急激に絶縁性を失って大電流が流れるようになる。これを絶縁破壊といい、絶縁破壊に必要な最少の電界が絶縁破壊強度である。



529	接触加熱定着	せっしょくかねつていちゃく	contact fusing	熱伝導によりトナーおよび用紙を加熱する定着方式。熱ローラ定着が代表例。
530	接触現像	せっしょくげんぞう	contact development	現像剤を感光体に接触させて行う現像方式であるが、トナー薄層が形成された現像ローラを感光体に摺擦する方式の成分現像法を指すことが多い。(参照：非接触現像)
531	接触帯電	せっしょくたいでん	contact electrification	異種の物質を接触させると一般に界面を通じて電荷が移動し、それぞれの物質を正負に帯電する。これを接触帯電現象といい、電気化学ポテンシャルの概念を用いて説明できる。現在は、感光体に電圧印加した導電性のブラシやローラ等を接触させて帯電する方法を指す場合がある
532	接触電位	せっしょくでんい	contact potential difference	金属のフェルミ準位と外界の電位との間には仕事関数だけの差があるが、異種の金属を接触させるとトンネル効果によって界面を電子が移動しフェルミ準位が等しくなると平衡する。この結果金属の表面間に現われる電位差をいう。
533	接続色空間	せつぞくいろくうかん	profile connection space	ICCプロファイルで使われている概念で、スキャナのRGB等の一つの色空間からプリンタのYMC等の他の色空間に変換する際に、途中で経由する空間として用いられるXYZやCIELAB等のデバイスに依存しない色空間。この空間への機器従属空間からの変換や、この空間からの変換には、デバイスプロファイルを用いて行われる。
534	CEPS(セップス)	せつぷす	color electronic prepress system	モノクロもしくはカラーの印刷物を作成する製版工程で、写真原稿、文字原稿、イラストなどをデジタルデータとして取り込んで、最終印刷物のレイアウトに応じた画像合成、画像処理(色修正、文字の加工、階調処理、鮮鋭度処理など)を行うシステム。初期のころはミニコンピュータが活用されたが、現在ではデスクトップのパソコンなどが主流になってきている。
535	セラミック基板	せらみっくきばん	ceramic substrate	セラミックを材料とした基板。サーマルヘッドに使用している。セラミック材料は主としてアルミナが使用される。
536	セレン合金	せれんごうきん	selenium alloy	セレンに他元素を添加した合金。アモルファスセレン感光体が結晶化しやすい事、および分光感度のピークが短波長に片寄っている事、等を改善した感光体。砒素、テルル等が添加元素として用いられる。(参照：セレントルル合金、セレン砒素合金)
537	セレントルル合金	せれんてるるごうきん	selenium tellurium alloy	セレンとテルルを共蒸着して得られる合金。非晶質構造を有する事からアモルファスセレントルル合金とも言う。アモルファスセレン感光体、セレン砒素合金等に比べ、より長波長に感度をもつ。
538	セレン砒素合金	せれんひそごうきん	selenium arsenic alloy	セレンと砒素を共蒸着して得られる非晶質合金。化学量論的にはAs <sub>2</sub> Se <sub>3</sub> 。セレン感光体に比べ、結晶化しにくく、長波長領域に感度を有する。PPC用感光体。
539	ゼログラフィー	ぜろぐらふい	xerography	元来、カールソン法電子写真全体を指す言葉であるが、狭義には転写型電子写真方式を指す場合も多い。
540	ゼロプリンティング	ぜろぷりんていんぐ	xerotyping	光導電性支持体上に絶縁性の像を形成し、コロナ帯電、トナー現像、用紙へのトナー転写を繰返して多数枚のハードコピーを得る印刷方法。絶縁性の像は電子写真法により容易に形成できる。
541	ゼロラジオグラフィー	ぜろらじおぐらふい	xeroradiography	電子写真的な手段を用いて、X線、γ線等の放射線像の記録を行う方法(放射線により静電像を作製する)。
542	尖鋭度	せんえいど	sharpness	(参照：シャープネス)
543	鮮鋭度	せんえいど	sharpness	(参照：シャープネス)
544	線画再現性	せんがさいげんせい	line copy reproduction	文字や線画などの2値画像のハードコピーにおける再現性の良し悪しを表し、解像性、濃度、コントラスト、ラジッドネスなどで評価する。
545	線画像	せんがぞう	line image	文字や図形など線によって構成されている画像をいう。一般の写真のような連続階調をもつ画像に対して、高いコントラストをもつ作像法が適する。

546	線形マスクング	せんけいすきんぐ	linear masking	印刷の分野で古くから用いられてきた色再現の手法で、色材の不要吸収を除去する為に、入力RGB各版の濃度を調整して重ねあわせることにより出力YMC各版を作成する手法。デジタルの世界では、RGBに対し3×3のマトリックス演算をしてYMCを求めることに相当するが、この用語は、他の3×3のマトリックス演算処理にも広く用いられる。
547	センシトメトリー	せんしとめとリー	sensitometry, photographic sensitometry	写真感光材料の特性測定法（感度、最小濃度、階調、ラチチュードなど）。電子写真法にも転用されて、露光量と感光体表面電位、感光体表面電位と現像濃度の相関などを考慮した複写プロセス全体の感度特性をいう。
548	線順次方式	せんじゅんじほうしき	line sequential method	カラーキャナで原稿を読み、色分解するときの方式の一つで、原稿を読み取る動作は1回であるがラインセンサで1ラインを読む毎に赤、緑、青の光源またはフィルタを切り替えて色分解する方式をいう。
549	潜像	せんぞう	latent image	現像前の目に見えない像をいう。銀塩写真の場合は現像核によって、電子写真の場合は静電荷によって構成される。
550	潜像形成	せんぞうけいせい	latent image formation	ハロゲン化銀粒子が放射又は粒子線を吸収して、潜像を形成すること。吸収によって生じた電子が感光中心に捕獲され、ついで格子間銀イオンが捕獲されて銀原子となる過程の繰り返しによって潜像が形成されると考えられている。電子写真においては、帯電された感光体を露光することにより、感光体上に画像に対応した静電荷パターン（潜像）を形成すること。
551	潜像転写	せんぞうてんしゃ	electrostatic image transfer	電子写真記録の一つで、コロナ帯電等で荷電した感光体に光像を照射し、感光体上に静電的潜像を形成させ、その静電的潜像を静電記録紙等にバイアスを加えて転写すること。静電転写後、静電記録紙を現像し可視化する。
552	選択転写	せんたくてんしゃ	selective transfer	感光体上のトナー像を紙へ静電転写する時、適当なる条件下では、画像部のトナーのみ転写し、非画像部のカブリトナーは転写しないようにする転写。
553	染着層	せんちゃくそう	dye receiving layer	(参照：色素受容層)
554	線広がり関数	せんひろがりかんすう	line spread function	各種の光学系や画像処理システムの空間周波数的な特性を含めたレスポンス特性を表わすための関数で、理想的な線像（一次元の 関数）が、その系を通過した場合にどの様に広がるかで表わす。
555	染料インク	せんりょういんく	dye ink	色材として染料を含有するインク。顔料インクに比べ、鮮明な色相を特徴とするが、耐光性、耐水性に劣る場合もある。
556	染料転写型感熱記録シート	せんりょうてんしゃがたかねつきろくしーと	thermal dye transfer sheet	熱移行性の染料とポリマーを主成分とする染料層（0.5～1ミクロン）を極薄ポリエステルフィルム（5ミクロン前後）上に塗布して設けてある。裏面にはサーマルヘッドとの融着を防ぐための耐熱滑性層が塗布されている。昇華型熱転写記録に用いる。
557	増感	ぞうかん	sensitization	広義には、記録材料の感度を向上させること。ハロゲン化銀感光材料の増感には、硫黄化合物、金錯塩、還元性化合物などによる化学増感と、シアニン色素などによる分光増感がある。電子写真感光体においても同様に化学物質、あるいは増感色素により増感が行われる。
558	増感現像	ぞうかんげんぞう	push process, push development	現像時間を標準条件よりも延長して現像感度を高くすること。撮影条件の制約などで露出不足の感光材料から許容できる写真画像を得るために行う。撮影条件のラチチュードに制約のある反転カラー写真で多用される。
559	走査速度	そうさそくど	scanning speed	(1)原稿読み取りにおいて、原稿をスリット露光する場合の原稿と露光系の相対的な速度。(2)レーザ走査光学系において、順次描画していく速度。ライン方向を主走査といい、紙送り方向を副走査という。(3)インクジェットなどのシリアルプリンタでは、印字ヘッドが描画する際の移動速度をいう。
560	相反則	そうはんそく	reciprocity law	「光化学反応の反応量は、光の強さと時間の積即ち光量によって決まる」という一般光化学に共通の法則。Bunsen-Roscoeの法則ともいう。銀塩写真法では、低照度・高照度の場合とも感度の損失があつてこの法則が当てはまらず、これを相反則不軌と呼んでいる。
561	相反則不軌（そうはんそくふき）	そうはんそくふき	reciprocity law failure	露光量E=光照度×時間tの相反則が成立しないこと。例えば、一定画像濃度を与えるEが、高照度や低照度では、中間の照度よりも大きくなること。
562	像面湾曲	ぞうめんわんきょく	field curvature	レンズの収差の1種で像面が湾曲していることをいう。たとえば平面の物体を結像させると、像面が平面でない状態。

563	ソータ	そーた	sorter	多数枚のコピーをとる場合、自動的に分類とページ揃えを行う装置。用紙の静電気対策が必要である。
564	組織的ディザ	そしきてきていざ	ordered dither method	2値出力系を用いて連続調階調を表わすディザ処理において、2値化の閾値を着目している画素の位置のみにより決定する方法。通常、固定の閾値マトリックスを用いるので出力画像に周期的な構造が表れる。ドット集中型とドット分散型に大別される。
565	外型カラーフィルム	そとがたからふいるむ	coupler-in-developer type color film	カプラーと発色現象主薬を感光材料の外から供給するタイプのカラーフィルム。カプラーを乳剤層に含まないため、各乳剤層をカプラー含有発色現象液で別々に発色させるので、処理操作は複雑である。コダクローム(コダック社)が代表例。
566	ソフトコピー	そふとこびー	soft copy	一般的にはデジタル情報をそのままの形で別の媒体に複写することを指すが、ハードコピーと対比して用いる場合には、ディスプレイ上に関連のために表示される画像を指す。
567	ソラリゼーション	そらりぜーしょん	solarization	写真感光材料に過度の露光を与えた場合に、露光量の増大に対して写真濃度が減少する現象。潜像が多発して分散するために光の利用効率が低下するために起こる。照度が高いほど起こり易い。
568	ソリッドインクジェット	そりっどいんくじえっと	solid ink jet system	ソリッドインクを高温にして液体状態に保持しながら吐出を行い、記録媒体上で急速に固化させ、色材を定着させるインクジェット記録方式。液体インクを用いる場合に比べ、印字後の乾燥に優れる。
569	ソルベントコーティング	そるべんとこーていんぐ	solvent coating	熱溶解性インク層や染料熱転写層の構成素材を有機溶剤中に溶解あるいは分散して塗工液として仕上げられておいて支持体上に塗布する方法。対立する方法は水系塗布、ホットメルト塗布など。
通し番号	用語	読み	英語	説明文
570	ダイクロイックプリズム	だいくろいっくぶりずむ	dichroic prism	干渉多層膜をコートし、特定の波長域を通過させ他の波長域を反射させるような接合面を持つプリズムで、カラーテレビカメラ、カラーレスキャナなどの色分解用として用いる。
571	ダイクロイックミラー方式	だいくろいっくみらーほうしき	dichroic mirror method	色分解方式の一つ。白色光源で照明された原稿像を同一光軸に配置されたRedとBlueのダイクロイックミラーにてRed, Blue成分を分離し、残ったGreen成分と共に光電変換する方式。
572	耐光性	たいこうせい	lightfastness	記録画像の日光、室内光などの光に対する堅牢性。
573	耐擦過性(たいさっかせい)	たいさっかせい	rubfastness	インクジェット記録部(文字、画像)の指脂及びハイライター(蛍光ペン)等による擦りに対する堅牢性。顔料インク系に於いて、手指や蛍光ペンで印字部をこすった時に滲み、画像流れが発生する場合がある。
574	耐水性	たいすいせい	waterfastness	記録画像の水分に対する堅牢性。水溶性染料を用いた場合の問題点の一つ。耐水性改良の手法としては、記録紙中に添加剤(染料トラップ)を入れる場合と、pHにより溶解度の異なる染料を用いる場合とが知られている。
575	帯電	たいでん	charging, electrostatic charge	物体が正または負の電荷を帯びる現象、または電荷を持った状態を言う。電子写真のプロセスにおいて、コロナ放電等によって光導電体表面に静電荷を均一に与え、光キャリア分離のための電界を作る工程。トナーがキャリア等との摩擦により電荷を帯びる工程などをいう。
576	帯電序列	たいでんじょれつ	triboelectric series	二つの物体を接触あるいは摩擦などによって帯電させ、正に帯電しやすいものから負に帯電しやすいものの順に並べたもの。トナーの極性を制御する際に参考となる。
577	帯電電流	たいでんでんりゅう	charging current	帯電工程でコロナ電極から光導電層の表面に流れる電流。
578	帯電疲労	たいでんひろう	charge fatigue	感光体に帯電と露光の操作を繰り返すことによって、電荷の保持性が減少するか、または帯電されにくくなる現象。これは光導電層内にトラップされたり、または残存する電荷の影響である。

579	帯電量分布測定器	たいでんりょうぶんぶんそくていき	charge spectrometer	現像剤に含まれるトナー粒子は、粒子ごとに異なる電荷量をもつ。その分布を測定する装置。
580	帯電ロール	たいでんろーる	charging roll	帯電に用いられるロール。導電性の芯に導電性ゴム、高抵抗被覆層などを設けた構成が一般的である。(参照: ローラ帯電)
581	耐摩耗層	たいまもうそう	abrasion-resistance layer, protective layer	サーマルヘッドの発熱体の表面に形成し、発熱体の磨耗と酸化を防ぐ機能を有する層。保護層と呼ぶこともある。
582	タイムオブフライト法	たいむおぶふらいとほう	time of flight method	サンドイッチ型電極により電界が印加された感光層中をパルス光によって生成したシート状キャリアが動く過程を電流波形により観察する。波形からはトランジットタイムが測定され、キャリアの移動度、ライフタイム等が得られる。
583	ダイレクトスキャナ	だいくとすきゃな	direct scanner	網かけスキャナとも呼ばれる。連続調スキャナでは色分解機能に限定されるが、このスキャナでは網かけの機能も併せ持ち、網かけされた色分解フィルムが出力される。
584	ダイレクト製版	だいくとせいばん	direct plate making	写真、文字、イラストなど印刷原稿のレイアウトが完了した版下を直接、製版用硬調フィルム・ペーパーもしくは刷版に露光して製版すること。アナログ方式では製版用カメラや専用の製版システムが使われる。デジタル方式ではスキャナ(モノクロ、カラー)が利用されるほか、専用の製版システムの開発が進んでいる。
585	多重現像方式	たじゅうげんぞうほうしき	image on image development	電子写真によるカラー画像作製方式の一つ。感光体上で各色のトナーを重ねて現像し一括して用紙に転写する方式。2色目以降に既現像の影響を避けるよう、均一な帯電や画像情報の書き込みに工夫を要するが、特別な転写媒体を必要とせず装置の小型化が図れる。(参照: フィルタ効果)
586	多重転写	たじゅうてんしゃ	multi layer transfer	感光体上に形成されたトナー像を一色毎に用紙または転写媒体上に層状に重ねて転写すること。各色の転写特性を合わせるとともに、色ずれが生じないよう画素位置合わせが重要。
587	多針電極	たしんでんきょく	multi-stylus electrode	静電記録で静電記録紙、誘電体上に静電潜像を形成するための電極。電極は、数十ミクロン径のワイヤーが400dpi程度の解像度で配置されている。電極と静電記録紙間は、数ミクロンの距離がスペーサ等で保たれ、そのスペースに数百ボルトの電圧が選択的に印加され空気が絶縁破壊されることにより、電荷を発生させて電荷像を静電記録紙等の上に形成する。針電極デバイス、マルチスタイラスヘッドもほぼ同様。
588	多数回印字	たすうかいいんじ	multi-time printing	一つの材料を用いて2回以上文字や画像を記録することを指す。溶融熱転写リボンや染料熱転写シートの同じ部分を複数回使用するすることが例として挙げられる。これに対して1回だけしか記録材料を用いないときをワンタイム印字ということがある。
589	多層構造粒子	たそうこうぞうりゅうし	multistructured grain	ハロゲン化銀組成、結晶構造、格子欠陥密度、不純物密度などの異なる微小構造を含んだハロゲン化銀粒子。感光材料としての性能付与の目的から乳剤製造時の粒子形成段階で作られる。コア・シェル粒子や二重構造粒子もその一つである。
590	多段磁気ブラシ現像	ただんじきぶらしげんぞう	multi stage magnetic brush development	必要な現像時間を得るために現像ローラを複数用い現像剤を順次搬送して現像時間を補う現像方法。高速複写機に採用される。
591	多値ディザ処理	たちでいざしより	multi-level dither method	ディザ処理で用いる出力系の階調数を2値ではなく、3から16階調程度の多階調とすることで、小さなマトリクスサイズで連続階調(125~256階調程度)を再現可能とした方法。
592	脱銀	だつぎん	desilvering	感光材料中にある銀を溶解除去すること。2工程で脱銀する方法と、1工程で脱銀する方法がある。前者の場合は、鉄キレート塩などの漂白液処理に続きチオ硫酸塩定着液処理をする。後者の場合は、両者を併用した漂白定着液を使用する。
593	タッチダウン現像法	たっちだうんげんぞうほう	touchdown development	微細な突起を設けた現像ローラにトナー層を形成、コロナ放電でトナー層を帯電、静電潜像と接触させて現像する方法。現像ローラに微細な格子状グリッドを設けたトナー層形成と帯電を行なうマイクロフィールド法もある。
594	脱墨(だつぼく)	だつぼく	deinking	古紙からインキ、トナーなど着色剤を除去し白いパルプを作成すること。古紙を水中に分散させ機械的、化学的(界面活性剤、アルカリ系薬品等)に着色剤を遊離させ、浮上法、スクリーン洗浄法などにより取り除く。
595	縦目	たてめよこめ	long grain	紙を抄造するとき、脱水するワイア上で繊維は抄紙機の流れ方向に配列する。繊維が配列する方向を縦方向(machine direction)、その直角方向を横方向(cross direction)という。縦方向が長い紙を縦目の紙、横方向が長い紙を横目の紙という。

596	縦モード	たてもーど	axial mode, longitudinal mode	レーザ共振器もしくは導波路における光軸方向（光伝播方向）の電磁界のモード。共振器長の短い半導体レーザーでは、モード間隔が狭いために、光出力や周囲温度の変動によって発振波長が遷移する現象が起こる。
597	WWW	だぶりゅだぶりゅだぶりゅ	world wide web (WWW)	HTML (Hyper Text Mark-up Language)を用いて文書、画像、映像等を統合した文書を登録、参照、配布できるシステムで、異なるサーバの文書等にもリンクをはることが可能である。通常、ブラウザと呼ばれる閲覧ソフトを用いて利用するが、リンクが世界のネット全体にわたって張れることからこの様に呼ばれる。
598	ダブルコロナ帯電	だぶるころなたいでん	double corona charging	絶縁性の支持体を有する感光層を有効に帯電させるために、層の両面より正負のコロナ帯電を同時に行う方法。
599	タルク	たるく	talca	滑石（薄片粉末）で、その組成は含水珩酸マグネシウム(Mg <sub>3</sub> Si <sub>4</sub> O <sub>10</sub> (OH) <sub>2</sub> )からなる。紙の不透明度、白色度と柔軟性を向上させるための填料として、酸性紙に用いられることが多い。
600	淡インク	たんいんく	light shade ink	写真調の加-画像を出力する際に使用されるインク。通常のインクに対して染料濃度を1/5から1/3に減らしたもので、画像のハイライト部の粒状感を無くするとともに、低濃度側から高濃度側まで滑らかな階調表現を与える。
601	段組み	だんぐみ	column setting	文字組版におけるレイアウトの一種で、1ページの中で2段以上にわたって組版してゆくこと、または組版されたものを意味する。全く段の区切りのないものを「1段組み」または「通し組み」という。
602	単色光	たんしょくこう	monochromatic light	単一の波長、もしくは非常に狭い領域の波長からなる光。単色光源としてよく知られているものに、フラウンホーファー線があり、H, He, Na, Mg, Ca, Feなどの輝線スペクトルがそれに相当する。レーザー光も単一性が良いため、単色光源としてよく用いられる。
603	単層感光体	たんそうかんこうたい	single layer type photoreceptor	一層構造である感光体。酸化亜鉛粒子あるいはフタロシアニン顔料などの光導電性微粒子を樹脂中に分散した感光体や、電荷発生材料と電荷輸送材料を樹脂中に同時に分散した感光体がある。
604	タンデム方式	たんでむほうしき	tandem engine	CMYK各色毎に感光体・現像機などを含んだ作像ユニットを用紙の進行方向に直列配置し、カラー画像を作製する方式をいう。現像機切り替え方式に比較しプリント生産性は高められるが、色ずれ要因は増加し、高精度なカラーレジストレーション制御技術が必要。
605	端面ヘッド	たんめんへつど	edge head	基板の側面あるいはエッジを一部平坦にして発熱体を形成したサーマルヘッド。
606	蓄熱	ちくねつ	heat accumulation	サーマルヘッドに通電したときに通電を終了しても、もとの温度に戻りきらない現象。
607	チャージスペクトログラフ法	チャーじすべくとるくらふほう	charge spectrograph method	帯電量測定法の一つ。水平式と垂直式があるが基本原理は同じ。後者の場合一様な空気流を上から下方に形成した風洞に、空気流と直角に平等電界を形成。上方より帯電トナーを底面のフィルターに向けて落下させ、電界によるトナーの着地位置偏位から帯電量分布を求める。（参照：帯電分布測定器）。
608	チャージャ	チャーじゃ	charger	帯電器を言う。通常、電子写真技術においては、感光体の表面を帯電させるために、金属細線と感光体との間に高電界を与えて細線から発するコロナイオンを感光体表面に導くようにしたコロナ帯電器が用いられる。
609	チャージレス電子写真法	チャーじれす(でんししゃしん)ほう	chargeless electrophotography	帯電と外部電場を用いず、光起電力あるいはデンバー効果によって生ずる弱い静電場を利用する画像形成法。
610	チャージワイヤ	チャーじわいや	charging wire	(参照：コロナ帯電)
611	中間転写方式	ちゅうかんたいてんしやほうしき	intermediate transfer	感光体上に形成したトナー像を一旦中間転写体に転写してから、用紙に転写する方法。カラー画像の転写方式として採用される。薄紙から厚紙まで従来の白黒機と同様に取り扱える。
612	中間調再現	ちゅうかんちようさいげん	tone reproduction	(参照：階調再現)

613	中心視	ちゅうしんち	central vision	網膜の中心部、2°程度のごく限られた領域(中心窩)はわずかに窪んでいて、錐状体が密に分布している。この部分は、色の識別力および視力が最も良く、ある物点を凝視するとき、目の光学系はその物点の像が網膜の中心窩に結像するように調節される。
614	中性紙	ちゅうせいし	neutralized paper	PHが中性から弱アルカリ性で抄紙された用紙。填料として炭酸カルシウムを主体に、中性サイズ剤、カチオン化でんぶんなどが用いられる。酸性成分の影響によるセルロース繊維の劣化が少ないため耐久性に優れる。
615	注入電極	ちゅうにゅうでんきょく	injecting electrode	ブロッキング電極に対比される。半導体等へキャリアの注入が行なえる電極。
616	長鎖アルキル顕色剤	ちようさあるきるけんしよくざい	long chain alkyl developer	可逆顕色剤のうち、分子内に長鎖アルキル基を持つ酸性化合物のこと。長鎖アルキル基の凝集力を利用してロイコ染料を発色および消色させる。例としては、長鎖アルキルフェノール誘導体、長鎖アルキルホスホン酸などがある。
617	長鎖アルキルフェノール誘導体	ちようさあるきるふえのーるゆうどうたい	long chain alkyl phenol derivative	可逆顕色剤のうち、分子内に長鎖アルキル基を持つフェノール化合物。長鎖アルキル基の凝集力を利用してロイコ染料を発色および消色させる。
618	長鎖アルキルホスホン酸	ちようさあるきるほすほんさん	long chain alkyl phosphonic acid	可逆顕色剤のうち、分子内に長鎖アルキル基を持つホスホン酸化合物。長鎖アルキル基の凝集力を利用してロイコ染料を発色および消色させる。
619	長鎖低分子	ちようさいぶんし	long chain molecule	分子量が数百までの長鎖炭化水素鎖を有する化合物。高分子/長鎖低分子分散型サーマルリライタブルマーキング媒体に使用される。例としては、高級脂肪酸、高級脂肪酸エステル、二塩基酸などがある。
620	調子	ちようし	tone	階調再現の具合。(参照:階調再現)
621	調子再現曲線	ちようしさいげんきょくせん	tone reproduction curve	入力画像の濃度を横軸に、出力画像を縦軸に取った特性曲線。完璧な再現性の場合45度の直線となるが、一般的にはその画像形成法の欠点を補うためや許容範囲を増すように画像形成条件が設定され、特有のカーブを示す。
622	調色	ちようしよく	toning	銀画像の一部又は全部を銀化合物に転換するか、銀化合物を含む他の金属又は金属化合物にするか、あるいは色素像に置換したり、色素像を加えたりすることにより、印画や透明画の色を変えることを調色という。
623	超増感	ちようぞうかん	hypersensitization	写真感光材料の使用に先立って、感光度を高めるために感光材料に施す前露光、水素やアンモニアなどへの曝気、水浴、アルカリ浴又は還元剤浴への浸漬などの操作。
624	丁度可知差異	ちようどかちさい	just noticeable difference	(参照: JND)
625	直接型熱転写方式	ちよくせつがたねつてんしゃほうしき	direct thermal transfer	熱転写リボンから直接色素を受像シートに転写して画像を形成する方法。インク層ごと転写する溶融熱転写と色素を分子レベルで転写する昇華熱転写方式に大別される。関連語として、中間転写媒体に一旦色素を転写してから再度転写を行う間接型熱転写方式がある。
626	直接染料	ちよくせつせんりょう	direct dyes	水溶性染料の一つ。セルロース繊維を媒染剤を使わずに直接染められる染料で良く使われているものの一つである。染料分子が直線的で、平面性の高い構造を有するのが特徴的であり、代表的なインクジェット染料である。
627	直流コロナ	ちよくりゅうこるな	DC corona	直流電場を印加することにより発生するコロナ放電をさす。正負いずれが単極性の放電イオンが発生する。
628	通電感熱記録紙	つうでんかんねつきろくし	electro-thermosensitive recording paper	導電性を付与した感熱発色層を有する記録紙で、電気信号の印加により針電極直下に発生するジュール熱で感熱層が発色し画像が得られる。
629	通電転写記録材料	つうでんてんしゃきろくざいりょう	electrosensitive transfer recording material	通電層と熱転写性インク層を基本構成とする記録材料。画像情報に基づいた電気信号の印加により針電極直下にジュール熱が発生する。この熱により熱転写性インク層が軟化または溶解して普通紙等の記録媒体へ転写して画像が得られる。

630	通電発色記録紙	つうでんはっしょくきろくし	electrosensitive recording paper	通電層と感熱発色層を基本構成とする記録材料。電気信号の印加により発生したジュール熱を利用して直接発色する感熱紙。発色メカニズムの違いにより電解記録紙（乾式、湿式）と通電感熱記録紙がある。（参照：通電感熱記録紙）
631	通電ヘッド	つうでんへっど	resistive ribbon thermal print head	通電感熱記録紙または通電記録材料に接して画像情報に基づいた信号を与えるための導電針電極からなる記録用デバイス。一般に、通電ヘッドは針電極を複数並べたアレイ状の構造を持つ。
632	坪量（つぼりょう）	つぼりょう	basis weight	紙の質量を表す単位であり、20～65%RHにて4時間以上調湿された紙の平方メートル当たりの質量（g）で示される。
633	爪分離	つめぶんり	claw separation, finger stripping	爪状の部品の先端を感光体、定着ローラなどに当接させ、用紙を分離すること。
634	DDCP	でいーでいーしーびー	direct digital color proofing	DTPまたはCEPSで作成したカラー印刷用の画像デジタルデータを紙などの媒体に記録する色校正システム。連続調の画像を記録するシステムと網点画像を記録するシステムとがある。インクジェット方式や昇華型熱転写方式のプリンタが代表的。
635	DTP	でいーていーびー	desktop publishing	一連の印刷製版工程の中で、デジタル画像合成/処理をデスクトップ型コンピュータで行った簡易出版のこと。技術進歩により、従来CEPSで行っていたこの作業が小型コンピュータでも可能となった。初期は電算写植や電子組版など文字を対象にした処理が主流であったが、現在ではカラー画像などの処理も行えるようになった。
636	抵抗性リボン	ていこうせいりぼん	resistive ribbon	通電転写記録に於けるインクリボンは抵抗層、導電層、インク層から構成されることから抵抗性リボンとも呼ばれる。記録電極から注入された電流により電極直下の抵抗層が発熱しその部分のインクが転写され画像が形成される。
637	ディザ法	でいざほう	dither method	白と黒だけの様な2値出力しか出来ない出力系を用いて連続調画像を表わす方法の一つで、原画像の画素と出力装置の画素が1対1に対応する方法。画素毎に閾値処理を行って、ある領域内の画素数を連続調の階調に対応させて変化させるが、その処理の方法として、閾値マトリックスを用いる組織的ディザと、独立あるいは条件付きでランダムな処理を行うランダムディザがある。
638	ディスポーザブルヘッド	でいすぽーざぶるへっど	disposable head	ユーザーが交換可能なヘッド。通常、インクカートリッジとヘッドが一体でインクを使い切ったところでヘッドごと交換する形態をとる。
639	定着 [写真]	ていちゃく	fixing, fixation	現像された感光材料の感光性を除き、画像を安定化する処理。ハロゲン化銀写真では、現像（漂白）処理後に残存するハロゲン化銀を溶解除去する処理。一般にチオ硫酸塩のハロゲン化銀溶解作用を利用している。
640	定着 [電子写真]	ていちゃく（でんししゃしん）	fixing, fusing	用紙上のトナーを熱、圧力、溶剤などで用紙に固着させることの総称。定着はトナー相互あるいはトナー用紙間との接着、投錨作用によってもたらされる。（参照：熱定着、圧力定着、溶剤定着）
641	定着器	ていちゃくき	fuser	用紙上のトナーを固着させるための装置。定着器は加熱定着、圧力定着、溶剤定着器に分類される。
642	定着強度	ていちゃくきょうど	fix level	トナー画像としての機械的強さと、用紙との接着界面の強さが複合された強度。折曲げ、こすり、しごき等に耐える強度が求められる。
643	定着ローラ	ていちゃくろーら	fuser roller	熱ローラ定着方式で用いるトナーに接する側のローラをいう。用紙裏面に接するローラは加圧ローラという。（参照：加圧ローラ）
644	デカーリング	でかーりんぐ	decurling	ロール紙に残る巻きぐせカールを矯正するために、カールの方向とは逆方向の曲面をもつ矯正ロールに巻きつけてぐせを直すこと。定着後にトナーの熱収縮と用紙の伸長によって生じるカールも同様な方法にて矯正する。
645	デジタルカラー複写機	でじたるからーふくしゅき	digital color copying machine	原稿画像を入力装置により赤緑青(RGB)に色分解、電気信号列への変換、補正編集処理がなされた後、各色の補色(CMY)色材にて顕像化しカラー画像を得る装置。画像の色分解、画像処理、画像出力はリアルタイムに連続処理される。
646	デジタルカラープリンタ	でじたるからーぶりんた	digital color printer	赤緑青(RGB)等に色分解されたデジタル画像情報やテキストコード情報を受けて、電子写真などの顕像化プロセスによりカラー画像を出力する装置。

647	デジタル複写機	でじたるふくしゃき	digital copying machine	原稿画像を一旦電気信号パルス列に変換し、画像出力部の特性を補正する画像情報の加工や画像編集が施された後に、光信号や熱信号などに再変換され電子写真プロセス等により複写画像を得る装置。
648	デバイスプロファイル	でばいすぶるふぁいる	device profile	画像入力装置、画像出力装置といった画像に関わる各種機器の色特性データを格納したもの。
649	デフォーカス	でふぉーかす	defocus	受光面がレンズの結像面から光軸方向にズレている状態。
650	デュプリケータ	でゅーぷりけーた	duplicator	明確な定義はないが、複写機の中で特に高速で多量複写を行うものを指している。多くは集中複写室で専任のオペレータにより運転される。分速100枚前後のものが多い。
651	電位計	でんいけい	electrometer	高インピーダンスの電圧計。表面電位の測定に用いることができる。
652	電位障壁	でんいしょうへき	potential barrier	半導体界面の電位差による障壁。p-n接合部、或いはショットキー接合部の様な半導体界面において、伝導帯もしくは価電子帯のエネルギー的はずれが、キャリアの移動を阻止する場合を言う。
653	電荷移動度	でんかいどうど	charge mobility	(参照：移動度)
654	電荷結合素子	でんかけつごうそし(しーしーでいー)	charge coupled device (CCD)	個々の素子が1画素に対応するフォトダイオードアレイ(感光部)で光電変換し、各素子に隣接した電極下のキャパシタに一定時間内に蓄積された信号電荷を、半導体内に形成したアナログシフトレジスタで転送し、順次読み出すイメージセンサをいう。感光部、転送部、出力部より構成され、感光部のフォトダイオードアレイには1次元配置と2次元配置がある。
655	電荷減衰	でんかげんすい	charge decay	感光体等と与えた電荷及びそれによる電位が減少すること。光により励起されたキャリアによる光減衰と暗所においても起こる暗減衰とに分けられる。
656	電荷受容性	でんかじゅようせい	charge acceptance	電荷保持体が電荷を受容保持できる能力。電荷受容性は電荷保持体の抵抗値の関数であり、電荷保持体の抵抗値が電界の増大によって低下することにより帯電時に受容保持される電荷量が制限される。
657	電荷制御剤	でんかせいぎょざい	charge control agent (CCA)	キャリアとの接触・摩擦によって帯電するトナーの極性と帯電量を制御するために添加する材料。乾式トナーではプラス帯電にニグロシン、マイナスに含金属染料を用いる。液体現像法では、トナー粒子に吸着または含有させて極性と電荷量を制御する。
658	電荷注入	でんかちゅうにゅう	charge injection	キャリア(担体)注入ともいう。半導体や絶縁体に電極から、または照射などにより熱平衡以上に電荷を注入すること。
659	電荷の保持性	でんかのほじせい	retentivity of charge	電子写真用感光体のような静電荷保持体が、電荷を保持しうる性能。通常、暗所における電荷保持体の表面電位が、初めの値の1/2に減衰するまでの時間として規定される。
660	電荷発生層	でんかはっせいそう	charge generation layer (CGL)	積層感光体で受光時に電荷を発生する機能を分担する層。バインダー樹脂中にビスアゾあるいはフタロシアニン等の顔料を分散するタイプと蒸着して形成するタイプがある。
661	電荷輸送層	でんかゆそう	charge transport layer (CTL)	積層感光体でCGLで発生した電荷を輸送する機能を分担する層。ポリカーボネイト等の樹脂中にヒドロゾン系等の電荷輸送性を有する化合物を混合してCGLの上に約20μm程度の膜厚に塗布して形成される。
662	電荷輸送時間	でんかゆそうじかん	transit time	帯電された感光体中を光励起キャリアがその電界によって移動するとき、感光体膜厚の端から端までキャリアが移動するのに必要とする時間。タイムオブフライト法により測定される。
663	電気泳動現像法	でんきえいどう(げんどうほう)	electrophoresis	粒子が分散媒体である液体との間で帯電し、電界の印加で液中を移動することを電気泳動といい、この現象を利用した静電潜像の可視化方法を電気泳動現像法と言う。通常、液体現像法あるいは湿式現像法と言う。



664	電気光学シャッタアレイ	でんきこうがく しゃったあれい	electrooptic shutter array	(参照: PLZTシャッタアレイ)
665	電子組版	でんしくみはん	computed typesetting, electronic composing	コンピュータを使って電子的に組版を行うこと。もともとは簡易電算写植システムとして開発されたが、現在はDTPシステムにもこの機能が組み込まれている。
666	電子写真	でんししゃしん	electrophotography	カールソン法を代表とする、静電気や導電性などの電気現象を利用し、光像から直接感光体上に潜像を形成する写真法の総称。この場合光像には可視像以外に可視外光、X線、粒子線等も含まれる。
667	電子写真式プリンタ	でんししゃしん しきぶりんた	electrophotographic printer	電子写真法を用いた画像情報の出力装置。入力機器からの信号はレーザスキャナ、LEDアレイ等により光像に変換され、電子写真プロセスでハードコピー化される。高速、高画質、低騒音が特徴。
668	電子写真システム	でんししゃしん しすてむ	electrophotographic system	各種電子写真法を構成するハードウェア・ソフトウェアを統合し、目的機能を達成する全体系を指す。帯電、露光、現像といった機能の統合体と、帯電装置、露光光学系等の実体の統合体を指す場合がある。
669	電子出版	でんししゅっぱ ん	electronic publishing	CD-ROMなどの電子媒体による刊物やオンライン・データベースなどの情報伝達手段を利用して作成される印刷物及びその方式をいう。DTPやCEPSなどのデジタルシステムを用いて印刷物を製版する意味にも使われる。
670	電子線記録方式	でんしせんきろ くほうしき	electron beam printing	イオンフロー記録方式の一種で、放電源として交流放電を用い、負極性電荷のみを取り出して記録媒体に照射するタイプの記録方式において、その電荷の大部分が電子であることから、特に電子線記録と称することがある。また、真空中で電子線を変調・走査して記録媒体上に直接記録する方式、その電子線を大気と真空を隔てている薄い膜を通過させて、空気中の記録媒体に記録する方式を意味することもある。
671	電子ソーター	でんしそーたー	electronic sorter	複数の原稿画像をスキャナーによって一旦電子情報としてページメモリに蓄積し、複写動作時にページ順に画像情報を書込み、それを繰り返すことによって、複数の部数を連続的に出力する方式。
672	電子放射線写真	でんしほうしゃ せんししゃしん	electroradiography	電子写真自体は、X線、粒子線などの放射線をも対象にするが、これに加え放射線のイオン化現象を利用し誘電体上に直接静電潜像を形成する方式も加えた電氣的放射線写真の総称である。
673	転写	てんしゃ	transfer	電子写真法においては、感光体表面に形成されたトナー像を用紙に移動し付着させるプロセスをいう。
674	転写開始温度	てんしゃかいし おんど	transferable minimum temperature	熔融熱転写または染料熱転写において、インクまたは染料が記録媒体上へ移行するときに必要とされる最低の温度。
675	転写効率	てんしゃこうり つ	transfer efficiency	電子写真において、感光体上に現像されたトナーの重量に対して、感光体から用紙等に転写されたトナーの重量比率をいう。通常90～95%程度となる。
676	転写ドラム方式	てんしゃどらむ	transfer drum method	多重転写方式の一種。樹脂フィルムからなる中空の転写ドラムまたは表面に弾性体を有する転写ドラムに用紙を静電吸着力やグリッパで固定し、感光体上のトナー像を一色毎転写する方式。
677	転写抜け	てんしゃぬけ (ばいど)	defect of transferred colorant, void	熱転写記録において熔融インク等が転写するべき所に完全に転写することができず、微小な転写不良が生ずることをいう。電子写真、静電記録のトナーの転写不良でも同じ現象が起こり得る。ポイド。
678	転写前帯電	てんしゃまえた いでん	pretransfer charging	静電転写に先立ち感光体上の現像像にコロナイオンで帯電する処理。現像時のトナー比電荷が小さすぎるとき、背景部の電位が不安定な場合や、正/反転同時現像後にトナーの帯電極性を揃える場合などに用いられる。
679	転写ローラ	てんしゃろーら	transfer roller	用紙を介し感光体に接触回転し、トナーと逆極性のバイアスを印加することにより転写を行うローラをいう。ローラの抵抗は $10^7 \sim 10^9 \text{ Ohmcm}^2$ の半導電域で用いられる。
680	伝染現像	でんせんげんぞ う	infectious development, contagious developer	強露光を受けた粒子が現像され、次いで生成した反応生成物が引き金となって周辺の弱露光粒子も伝染的に現像される現象。亜硫酸イオン濃度のきわめて低いハイドロキノン現像液でリスフィルムを現像すると、超硬調特性が得られるのは伝染現像効果による。

681	伝熱係数	でんねつけいすう	heat transfer coefficient	伝熱における熱移動の速さを示す係数の総称。大別して境膜伝熱係数、総括伝熱係数および輻射伝熱係数の三者がある。
682	デンバー効果	でんばーこうか	Dember effect	結晶表面で光生成した過剰キャリアが拡散する際、電子と正孔の移動度が異なるために生ずる起電力。
683	点広がり関数	てんひろがりかんすう	point spread function (PSF)	各種の光学系や画像再現システムの空間周波数的な特性を含めたレスポンス特性を表わすための関数で、理想的な点像（2次元の関数）が、その系を通過した場合にどの様に広がるかを表わす関数。
684	同化効果	どうかこうか	assimilation effect	ある色が他の色に囲まれるとき、囲まれた色が周囲の色に近づいて見える現象。
685	透過濃度	どうかのうど	transmission density	フィルム等を対象とし、入射光に対する透過光の比率として計測される光学濃度。ISO-5シリーズ等で規格化されている。（参照 光学濃度）
686	同時多層塗布	どうじたそうとふ	simultaneous multilayers coating	塗布液の粘度と界面活性剤を選択することで、多重スリットから同時に多くの写真乳剤層を押し出し重ねて塗布する塗布方式。ホッパースライド塗布法などがある。この塗布方式により、多層で構成された写真感光材料が得られる。
687	同時転写法	どうじてんしゃほう	synchronous transfer process	静電像転写法の一つ。感光体と用紙を重ねた状態で画像露光を行い、静電潜像形成とその転写を同時に行う方法。
688	透磁率検知方式	とうじりつけんちほうしき	permeability detecting method	トナー濃度制御方式の一つ。現像機内で一定量の現像剤を共振回路のコイルが設けられた流路を通過させることで、キャリアへのトナー付着量の多少をインダクタンスの変化として検知する方式。
689	同時露光現像法	どうじろこうげんぞうほう	same time exposure and development method	透明な感光体ドラムの現像部で、感光体ドラムの背面（内面）から露光し、トナーを感光体に付着させる方法。感光体ドラムへの帯電は現像剤を通して行なわれ、露光した部分は電位が低くなるため、現像バイアスによりトナーが感光体に付着する。
690	動的消去特性	どうてきしょうきょとくせい	dynamic erasing characteristic	消去動作を極めて短時間、例えばミリ秒オーダで行った時の消去特性。代表例としてサーマルヘッド加熱による消去特性がある。サーマルリライタブルマーキング材料では、消去加熱時間が短くなると消去特性が悪くなる傾向にある。
691	動的粘弾性	どうてきねんだんせい	dynamic viscoelasticity	粘弾性体に振動を与え応力または歪みを周期的に変化させた場合に見られる粘弾性挙動。周期的応力に対しては動的コンプライアンスが、周期的歪みに対しては動的粘弾性率が測定される。
692	導電性トナー	どうでんせいとなー	conductive toner	比較的導電性の高い粉体トナー。導電率の値について明確な規定はないが、1000 V/cmの電場で 10 - 4 ~ 10 - 8 mhos/cm程度のトナーをいう。マグネダイナミック法に用いる一成分磁性トナーは導電性トナーである。
693	導電性ブラシ帯電	どうでんせいぶらしたいでん	conductive brush charging	導電性繊維をブラシ状に束ね、その先端を感光体表面に接触させ500 ~ 2000 Vの直流電圧を印加し帯電させる方法。ブラシ先端部は電界強度が高く、微小空隙での放電や接触帯電により帯電がなされる。
694	導電層	どうでんそう	conductive layer	通電転写記録インクリボンに設けた一つの塗布層。インクリボンの基本構成は記録電極側から、抵抗層、導電層、インク層の順になる。導電層は記録電極から供給され抵抗層を発熱させた電流を集めて電源に戻す働きをする。通常、アルミニウム薄膜などで構成される。
695	導波路	どうはろ	waveguide	波動を一定領域に閉じ込めて伝送する回路または線路。物理的な境界によって決められる方向に電磁波を閉じ込め、指向するために設計されたシステムや材料。
696	透明 / 白濁変化	どうめい / はくたくへんか	transparency / opacity change	熱による相分離又は相変化に伴う光散乱性変化等を利用した透明状態と白濁状態の可逆的な変化。この変化は、温度の違い、また加熱後の冷却速度の違いによって起こる。
697	透明化温度	どうめいかおんど	transparency temperature	熱による相分離又は相変化に伴う光散乱性変化等を利用した物理変化型のサーマルリライタブルマーキングにおいて、白濁状態から透明化する温度をいう。

698	透明化温度範囲	とうめいかおん どはんい	transparency temperature range	熱による相分離又は相変化に伴う光散乱性変化等を利用した物理変化型のサーマルリ ライタブルマーキングにおいて、白濁状態から透明化する温度の範囲をいう。
699	透明性	とうめいせい	transparency	トナー(バインダ)の可視域での不要分光吸収が少ないこと。OHP用またはフルカラー 画像を作製する場合、その色再現性を広くとるために求められる特性。
700	独立ディザ法	どくりつでいざ ほう	independemt dither method	ランダムディザ法の一つで、対象とする画素の2値化を乱数によって決定した閾値に より行う。そのため他の画素の状態によらず、独立型と呼ばれる。また、組織的ディ ザ法も他の画素の状態によらず画素位置だけによって処理を行うことからこの様に呼 ばれることがある。
701	吐出ヒータ	としゅつひーた	ink ejecting heater	パブルジェット(サーマル)方式のプリントヘッドのノズル内に設けられ、急速に加 熱発熱する事により表面で膜沸騰を起させるための微小なヒータ。TaAl, TaN等の 材料が使われる。
702	ドット	どっと	dot	画像形成の最小単位。例えばインクジェット記録では、インク液滴が記録紙上で広 がって出来る。その形状は記録紙の物理的表面形状、インク物性との親和性によつて きまり、ノンコート紙系は不定形なジグザグな形状をとることが多く。コート紙系は 円形になることが多い。
703	ドットエッチング	どっとえっちな ぐ	dot etching	フィルム上に形成された網点画像の濃淡を部分的あるいは全体的に調節するために該 当部分の網点の大きさを変えること。通常は赤血塩ハイが減力液で網点を小さくす る。
704	ドット分散法	どっとけいどっ とぶんさん	dot dispersed dither method	組織的ディザ法や濃度パターン法で用いられるドットパターンの配置方法の一つで、 中間階調でドットが分散し、細かいテクスチャを示す様に、隣合う順序番号の閾値が なるべく離れた位置にくる様に配置する方法で、ベイヤー型ディザ法等がある。
705	ドットゲイン	どっとげいん	dot gain	製版フィルム・ペーパー上の網点画像を別のフィルムや刷版に露光したとき、あるい は印刷機で印刷したときに、得られる網点が元の網点に比べ大きくなる(太る)現象 のこと。前者は光の散乱や画像のぼけにより、後者はインクのにじみ・広がりによ る。
706	ドットジェネレータ	どっとじえね れーた	dot generator	網点を電子的に発生させる電子回路もしくはソフトウェアのこと。アナログ方式で はコンタクトスクリーンを用いて網点画像を形成するが、ダイレクトスキャナでは電 子的もしくはソフトウェアでコンタクトスクリーンを模擬した信号を発生させ、こ れと画像信号を強度比較して、設定した閾値により記録用の光をオン・オフさせて網 点を形成する。
707	ドットパターン法	どっとばたーん ほう	dot pattern method	(参照：濃度パターン法)
708	トナー	となー	toner	電子写真感光体等に形成された静電潜像を顕像化させる帯電着色微粒子。カーボンブ ラックのような着色顔料、極性制御材、その他添加剤を樹脂に分散させた5~20μ m程度の粉体トナー、絶縁性液体中に樹脂や極性制御材を着色顔料に吸着・分散させ た液体トナー等がある。
709	トナークラウド	となーくらうど	toner cloud	トナーが空気中に浮遊している状態、またはトナーが現像機外へ飛散する現象。後者 はトナーとキャリアまたは現像ロール間の付着力が弱い場合に発生しやすい。
710	トナージェット	となーじえっと	toner jet	帯電させたトナーを開口電極からの電気力で飛翔させ、その開口電極を通過したト ナーを用紙に付着させトナー像を形成する方式。用紙上のトナー像は、熱により定着 される。CMYKの4色の記録ユニットをタンデム型に構成し、小型なカラー記録装 置が可能である。トナー飛翔記録と呼ばれることもある。
711	トナー層電位	となーそうでん い	toner layer potential	現像が行なわれる際、帯電したトナーが付着するため、トナー層に現われる電位差。 この現象を利用してトナーの帯電量を測定する方法もある。
712	トナーフィルミング	となーふいるみ んぐ	toner filming	感光体表面などにトナー成分が広域に薄く付着した状態。多くはクリーニングブレ ードなど感光体表面に接触する部材と感光体表面との間に捕捉されたトナーが感光体 との摩擦により溶融して感光体に付着することに因る。2成分現象において、キャリ ア表面にトナー成分が付着することも同様に表現される。
713	トナーリサイクル	となーりさいく る	toner recycle	感光体からクリーニングされた回収トナーを、現像機のホッパーに戻して再利用す ること。トナーリクレームともいう。
714	トライレベル法	とらいれべるほ う	trilevel xerography	露光強度を2段階とし、中間電位(白電位)を0とみなすことで、実質的に正負の潜 像を形成し、帯電極性の異なる二色のトナーにて現像する方法。転写前帯電を施すこ とにより帯電極性を揃えたうえで転写を行う。

715	トラッキング機構	とらっきんぐきこう	tracking mechanism	感光体や転写ベルトなどの片寄り防止機構をいう。弾性ベルトの場合は張架ロールの形状を太鼓状にして、力学的にベルトを中央に寄せる方法が採られる。非弾性部材の場合は機械的または光学的に片寄り量を検出し、張架ロールを傾けて片寄りを防止する。
716	トラップ	とらっぷ	trap	電子や正孔の電荷を捕獲する能力を持つ準位で禁制帯中に存在する。熱的に励起される浅いトラップと長時間捕獲する深いトラップがある。結晶中での欠陥や不純物などが原因となる。
717	ドラムスキャナ	どらむすきゃな	drum scanner	原稿を円筒ドラムに巻き付けて、このドラムを高速で回転させながら画像を機械光学的に走査して読み取り、記録する円筒走査方式のスキャナ。CCDを用いたフラットベッドスキャナに比較して高解像で画像が読みとれる。
718	トランジットタイム	とらんじつとたいむ	transit time	帯電された感光体中を光励起キャリアがその電界によって移動するとき、感光体膜厚の端から端までキャリアが移動するのに必要とする時間。タイムオブフライト法により測定される。
719	トランスフィックス	とらんすふいっくす	transfix	転写定着を同時に行う方法。硬質(耐熱性)の画像形成ドラム上のトナー像を紙裏面からローラで圧力を加えトナーを粘着転写する。ローラに熱をかけることもある。中間転写体から転写定着を行う場合にも用いられる。
720	トーリックレンズ	とりっくれんず	toric lens	レンズの一面が円環(トーリック)面で構成されたレンズ。レーザ走査光学系で、面倒れ補正のために、f レンズの構成要素として用いる。
721	ドリフト移動度	どりふといどうど	drift mobility	(参照：移動度)
通し番号	用語	読み	英語	説明文
722	内部分極	ないぶんきょく	internal polarization	光導電性絶縁膜、誘電体層等の内部で正負の電荷が分離した状態。分離した電荷がトラップされ、外部の電界の助けがなくとも分極状態が保たれれば、持続性内部分極と呼ばれる。
723	長手記録	ながてきろく	longitudinal recording	磁気記録における面内記録方式の代表的なもので、磁気記録ヘッドと磁気記録媒体との相対的移動方向に沿って磁化する。潜像記録時に磁化の向きを反転させることにより、磁化転移領域を形成する。
724	捺染(なっせん)	なっせん	textile printing	布地に模様を染める手法の一つ。陶器などの染色にも利用される。工業的には型紙を用いる方法が一般的である。デジタルシステムの進歩によりコンピュータで模様をデザインし、インクジェット方式などで直接媒体に記録することも出来るようになってきた。
725	軟磁性材料	なんじせいざいりょう	soft magnetic material	強磁性体の中で、外部磁界をかけると磁化されるが、外部磁界を除くと、磁化が消えてしまう物質をいう。磁気ヘッドやトランスのコアなどに使われる。
726	にじみ率	にじみりつ	spread rate	インク液滴径とドット径の比率で定義され、画像設計の基礎数値。水性インクの場合、普通紙上で3、コート紙上で2前後の値を示す事が多い。
727	二成分現像法	にせいぶんげんぞう(ほう)	two component development	キャリアとトナーの二成分からなる現像剤を用いる電子写真現像法。カスケード現像法、磁気ブラシ現像法など。
728	2値化処理	にちかしより	binarize process, binarization	連続階調で表された画像信号を白、黒等の2値で表す様に変換する処理。
729	ネゴシエーション	ねごしえーしょん	negotiation	ファクシミリ等の通信機器において、機器同士で使用可能な機能や利用したい機能の情報を交換し、最適な機能を選択する仕組み。モデムでの速度選択や、ファクシミリでの解像度、紙サイズ、符号化方法等の選択に利用されている。
730	熱応答性	ねつおうとうせい	thermal responsiveness	一般には、熱伝導方程式が支配する場における時間を変数とした連続な解を指し、特に定常状態へ至るまでの速さを指すことが多い。

731	熱可逆性	ねつかぎやくせい	thermal reversibility	(参照：サーマルリライタブルマーキング)
732	熱可塑記録材料	ねつかそきろくざいりょう	thermoplastic material	加熱により柔軟になる記録用着色材料。ポリマーと顔料を主成分とする熱転写記録用のインクが代表例。ワックスを主成分とするインクと比較して機械的強度に優れておりバーコードプリンタに有用である。
733	熱可塑性樹脂	ねつかそせいじゅし	thermoplastic resin	加熱により化学反応を起こさず軟化し冷却することにより再び固化することを、加熱と冷却を繰り返したとき可逆的に起こす樹脂。付加重合系ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル、ポリスチレン等が代表的。
734	熱境界条件	ねつきょうかいじょうけん	thermal boundary condition	熱伝導方程式が支配する場を決定するための温度または熱流束で定めた境界の条件
735	熱現像処理	ねつげんぞうしやり	thermal development process	画像露光を与えた後、加熱操作によって現像及び定着安定化する銀塩写真の処理法。乾式で簡易処理が可能。熱現像処理の商品例として、黑白感光材料にはドライシルバー(3M)が、カラー感光材料には熱現像色素転写方式のビクトログラフィー(富士フィルム)がある。
736	熱磁気記録	ねつじききろく	thermo-magnetic printing	強磁性体は温度が高くなるにつれて保磁力、磁化とも小さくなってゆき、キュリー温度に達すると、非磁性体となる。この現象を利用して、磁気記録媒体にレーザー光やサーマルヘッドで局所的に熱を加えることにより、磁気潜像を形成する記録方式。
737	熱時剥離	ねつじはくり	peeling-off during hot state	溶融熱転写記録で、加熱により軟化あるいは溶融したインク層が固化しないうちにインクリボン記録媒体から引きはがすことをいう。対立するものは冷時剥離。
738	熱定着	ねつていちゃく	heat fusing (fixing)	熱を利用して支持体上のトナーを定着させることの総称。定着熱効率とはトナー粒子の温度をいかに早くその樹脂の軟化点まで上昇させるかで決まる。(参照：オープン定着、熱ローラ定着、フラッシュ定着)
739	熱転写シート	ねつてんしゃしーと	thermal transfer sheet	支持体上に熱転写インク層が形成されたシート。加熱ヘッドにより加熱された部分のインク層全体が(溶融熱転写)またはインク層中の染料(染料熱転写)が受像シート側に転写され画像が形成される。
740	熱転写マルチリボン	ねつてんしゃまるちりぼん	thermal transfer multiple ribbon	同じ場所を複数回繰り返して印字に使用することができる熱転写インクリボン。石垣構造のインク層から低融点インク成分が滲みだす機構や海島構造のインク層を表面から少しずつ剥がして転写する機構で多数回の使用を可能にしている。
741	熱伝導	ねつてんどう	heat conduction	電磁波の放射も物質の流れも伴わない熱の伝達をいう。固体中でエキシトンやフォノンなどの準粒子がエネルギーを伝達する場合も、熱伝導に含まれる。
742	熱伝導性粒子	ねつてんどうせいりゅうし	heat conductive particle	金属や無機化合物からなる粒子で、感度向上等を目的として溶融インク層中に入れることがある。
743	熱伝導方程式	ねつてんどうほうていしき	heat conduction equation	温度の2次の勾配と温度時間変化が比例定数(熱伝導度)で結ばれている偏微分方程式。拡散方程式の特殊な形。
744	熱板定着	ねつばんていちゃく	heat plate fusing	加熱された金属板などに、未定着トナー画像が乗った用紙を接触搬送しトナーを溶融固着させる定着方法。
745	熱ベルト定着	ねつべるとていちゃく	thermal belt fusing (fixing)	トナー像を耐熱性薄層ベルトを介して加熱し溶融定着する方式。熱容量を小さくしウォームアップ時間を短縮する効果がある。ベルトの剥離をトナーの温度が冷えてから行えば、離型性に関する要求が緩和される。(参照：SURF方式)
746	熱融着性	ねつゆうちゃくせい	thermal adhesiveness	樹脂またはワックスが加熱により軟化して他の物質に付着する性質。染料熱転写の場合にインクシートと受像紙が加熱により貼付いてしまうことがある。
747	熱溶融インク	ねつようゆういんく	thermofusible ink	溶融型熱転写に用いられる、加熱により溶融または軟化するインク。

748	熱流	ねつりゅう(ねつりゅうそく)	heat flux	熱伝導方程式が支配する場を移動する熱の流れ。熱流束は単位時間に単位面積を通過する流れ。
749	熱履歴制御	ねつりれきせいぎょ	heat history control	サーマルヘッドの蓄熱現象に対し、通電補正を行い発熱温度を一定にする制御。サーミスタで温度検出しフィードバックする方法と通電履歴から温度を推定して通電補正する方法がある。
750	熱ローラ定着	ねつろーらていちゃく	heat roller fusing (fixing)	トナーと剥離性を持つ加熱されたローラを接触させてトナーと用紙に熱供給する定着方式。接触式であるため熱効率が良く、高速定着が可能である。但し、ローラ寿命が短い、ウォーミングアップ時間を要する等の短所がある。
751	粘弾性	ねんだんせい	viscoelasticity	高分子の溶液や融体の緩和現象の結果として、弾性変形と粘性流動が同時に現れる現象。固体においても現れる場合がある。固体の粘弾性は非弾性とも呼ばれる。
752	粘着	ねんちゃく	adhesion	溶融熱転写記録においては、インクが溶融または軟化して他の物質に付着すること。
753	粘着転写	ねんちゃくてんしゃ	adhesive transfer	粘着性を持つ面を感光体などに押し付けて、トナー像を転写すること。電荷の不十分なトナー、小粒径のトナーでも均一に解像の低下が少なく転写ができる。中間転写体として予備加熱されたラバー塗布ドラムに粘着転写する例や、湿らせたゼラチンコート紙、感圧粘着剤コート紙に直接粘着転写する例がある。(参照: 中間体転写方式)
754	粘度調整剤	ねんどちようせいざい	viscosity improver	インク粘度は使用する記録ヘッド系に個別に最適な範囲が存在するため、増粘・減粘剤を使用して調整する事がある。
755	濃度コントラスト	のうどこんとらすと	optical density contrast	一般には画像濃度と地肌濃度の差をいう。リライタブルマーキングでは記録した画像と消去した画像の濃度差を示す場合もある。
756	濃度パターン法	のうどぱたーんぽう	density pattern method	2値の画素を用いて階調を表す疑似中間調の方法の一つで、1画素の階調値をn×n画素等の複数画素からなる2値画像パターンに対応させて階調を表現する方法。網点の様にドットが集中するドット集中型とドットが分散するドット分散型がある。
757	濃度変調	のうどへんちよう	density modulation	画素の濃淡を変化させて階調を表現する方法。レーザ強度変調法(電子写真)などがある。(参照: 強度変調)
758	Neugebauerの方程式	のうばーがーのほうていしき	Neugebauer's equation	Neugebauerによる、再現色の3刺激値と網点面積率の関係を表した線形方程式。カラー写真画像を原稿とし、インクジェットのようなドットにより絵を表現する場合の、色再現の基礎理論である。
759	鋸歯帯電器	のこぎりばいたいでんき	pin array charger	ピン(針)状電極を一列に並べ、ピン先端でコロナ放電を行う帯電器。強度の高い構造とオゾン発生量が少ない特徴があるが、放電が局在化することから2列に並べたり、スコロトロンとして用いられる。
760	ノズル	のずる	nozzle	個々のインクの液滴を生成するために共通のインク室から分岐したインクの流路部分。一方の端は吐出口(オリフィス)として開口している。ノズル内部には圧力を発生するための吐出ヒータや振動板などのアクチュエータが設けられている。
761	ノンインパクトプリンティング	のんいんぱくとぷりんていんぐ	non impact printing (NIP)	インパクトドットマトリクスプリンタに代表される、機械的衝撃力により色剤を用紙上に転移させる方式以外の画像形成方法の総称。特に画像形成時の騒音レベルの低い方式を指す。
通し番号	用語	読み	英語	説明文
762	ハーフトンスケール	はーふとーんすけーる	halftone scale	(参照: 網点階調再現)
763	パーマネントヘッド	ぱーまねんとへっど	permanent head	プリンタ本体の寿命まで交換されることのないように設計されたヘッド。通常プリンタの一部として組み込まれて出荷され、ユーザーはプリンタから取り外せない。

764	バイアスローラ転写	ばいあすろーらてんしゃ	bias roller transfer	電圧を印加したローラを用いて感光体上の像を用紙に転写すること。通常導電性ゴムローラが用いられ、表面を高抵抗にしたり、絶縁層を設ける場合がある。(参照：ローラ転写)
765	ハイドロトロピー剤	はいどろとろびーざい	hydrotropic agent	水素結合液体の水素結合を切る物質。代表的には尿素。少量(1%以下)の添加で共存する染料の溶解度をあげる事が知られている。
766	背面露光電子写真記録	はいめんろこうでんししゃしんきろく	photo-image back irradiation electrophotography	透明基板、透明電極上に形成した感光層に基板側から光像を照射して記録する記録方式。導電性トナーを用いる方法、帯電電極を設けて絶縁性トナーを可能とした方法などがある。感光体の帯電プロセスが不要、光像照射ユニットを感光ドラム内部に配置による小型化などの特徴がある。
767	ハイライトポイント	はいらいとぼいんと、-さいげん	highlight point	原稿において階調を必要とする最も明るい部分のこと。これより明るい部分として光が強くとって光っているキャッチライトの部分があるので、印刷では、ハイライトの部分が5%程度の網となる様に設定して再現を行っている。
768	バインダー	ばいんだー	binder	(参照：結着剤)
769	パウダークラウド現象	ばうだーくらうどげんぞう(ほう)	powder cloud development	静電潜像が形成された電子写真感光体とそれに近接した現象電極間に直径の小さい金属ノズルから霧状(クラウド)に吹き出したトナーを導入して静電潜像を可視化する。連続階調の再現性に優れている。
770	掃き目	はきめ	brush mark	ベタ画像内におけるブラシでこすったような抜けをいう。磁気ブラシ現象においてはスキヤベンジングや導電性磁気ブラシによる静電潜像への電荷注入によって発生するといわれている。(参照：スキヤベンジング効果)
771	白濁化温度	はくたくかおんど	temperature for opacity	熱による相分離又は相変化に伴う光散乱性変化等を利用した透明/白濁変化型のサーマルリライタブルマーキングにおいて、透明状態から白濁化する温度をいう。
772	白濁濃度	はくたくのうど	opaque optical density	透明/白濁変化型のリライタブルマーキングにおける白濁部分の光学反射濃度。
773	薄膜型センサ	はくまくがたせんさ	thin film image sensor	密着型イメージセンサの一種。画素状に分割された電極と、一括形成される感光性薄膜とからなる。主としてアモルファスシリコンを感光素材として利用してサンドイッチ型、あるいはブレイナ型でフォトダイオード構造、MIS構造などを形成して光電変換を行う。
774	薄膜ヘッド	はくまくへつど	thin film thermal head	薄膜プロセスにより形成されたサーマルヘッド。薄膜プロセスとしては蒸着、スパッタリング等がある。対する用語は厚膜ヘッド。
775	剥離距離	はくりきより	peeling distance	熱転写記録で、サーマルヘッドの発熱体等の記録用熱源と、熱を加えた後、被記録媒体からインクリボンを剥離する位置までの距離。
776	剥離時間	はくりじかん	peeling time	熱転写記録で、インクリボンに熱を加えてから被記録媒体からインクリボンを剥離するまでの時間。
777	剥離層	はくりそう	release layer	熱転写インクリボンの支持体と熱溶融性インク層の間に形成されたインク層の剥離を助ける層。
778	バックアップユニット	ばくあつぷゆにっと	backup unit	(参照：回復系)
779	バックライトフィルム	ばくらいとふいるむ	backlight film	基材面側から光を照射し、画像を観察する記録媒体。フィルム基材上半透明なインク受容層を設けた記録媒体に、鏡像画像を印字。印字部側に光源を置いて、通常とは逆に、機材側から画像を鑑賞するタイプの記録媒体。非印字部は白色または背景色なので印字部とのコントラストが強くなり、屋外の広告用媒体、屋内のデコレーションに用いられる。
780	発消色現象	はっしょうしょくげんしょう	color developing and reducing phenomena	発色型リライタブルマーキングにおける、発色と消色の現象。

781	発色温度	はっしょくおんど	color developing temperature	発色型サーマルリライタブルマーキングにおいて発色する温度。ロイコ染料型サーマルリライタブルマーキングにおいては染料と可逆顕色剤とが反応して発色する温度。
782	発色型可逆感熱記録	はっしょくがたかぎやくかんねつきろく	color developing type reversible thermal printing	(参照：発色型サーマルリライタブルマーキング)
783	発色型サーマルリライタブルマーキング	はっしょくがたさーまるりらいたぶるまーきんぐ	color developing type thermal rewritable marking	熱により発色と消色を繰り返すことが出来るサーマルリライタブルマーキングで、発色型可逆感熱記録ともいう。具体例としては、ロイコ染料と可逆顕色剤の化学反応を利用したロイコ染料型リライタブルマーキングがある。
784	発色現象	はっしょくげんしょう	chromogenic development	露光した銀塩カラー感光材料を現像して色画像を形成する工程。発色現象主薬(p-フェニレンジアミン系化合物)により、露光されたハロゲン化銀が現像銀に還元され、酸化された現象主薬が、色素プレカーサであるカプラーと反応して色素画像を作る。
785	発色濃度	はっしょくのうど	color optical density	発色型サーマルリライタブルマーキングにおいて発色した部分の光学反射濃度
786	パッシェン則	ぱっしょんそく	Paschen's law	気圧pと空隙dの関数で表わされた空隙破壊電圧をいう。通常は大気中で考えることから空隙dのみの関数として空隙破壊電圧Vbは $Vb=312+6.2d$ で近似される(但し $8\mu m < d < 100\mu m$ )。
787	発熱抵抗体	はつねつていこうたい	heat element	サーマルヘッドにおいて選択的に通電して発熱する抵抗体で発熱体ともいう。一般的には矩形形状であるが発熱温度分布を均一にする目的で屈曲発熱体あるいはスリット型発熱体等がある。
788	ハフマン符号化	はふまんぷごうか	Huffman coding	ハフマンが考案した手法により構成されたエントロピ符号を用いる符号化方法。符号を割り当てるデータパターンの出現頻度分布を元に、符号を構成する手法で、平均符号長が最小となる。特に符号化するデータに適応させた場合をカスタムハフマン、1種類の符号の場合を固定ハフマンと呼んで区別する。(参照 MH)。
789	バブルジェット	ばぶるじゅっとしき	bubble jet	ノズル内に設けた発熱ヒータにより、ヒータ表面のインクが膜沸騰をおこし、気泡(バブル)を発生、排斥されたインク相当分がインク滴として記録に用いられるシステム。ノズルの高密度化が可能で高速印字が可能。サーマルジェット方式と同一原理。
790	波面	はめん	wavefront	進行波においてある時刻に同じ状態にある点をむすぶ面。同一位相にある面。
791	針電極デバイス	はりでんきよくてばいす	multi-stylus electrode	(参照：多針電極)
792	パルス数制御方式	ばるすすうせいぎよほうしき	multipulse driving method	消去バーやサーマルヘッドに加えるエネルギーの印加を複数のパルス列で構成する方式。(参照：マルチパルス駆動方式)
793	パルス数変調	ばるすすうへんちょう	pulse number modulation	プリンターやデジタル複写機などで階調性を有する画像を表現する方法。階調に応じて1ドットの光源の発光時間を変化させる方式で、面積階調に相当する。
794	パルス幅変調	ばるすはばへんちょう	pulse width modulation	LBPやデジタル複写機などの階調性を有する画像を表現するために、階調に応じて1ドットの光源の発光時間を変化させる変調方式をいう。面積階調に相当する。
795	ハレーション防止層	はれーしょんぼうしそう	antihalation coating	写真乳剤層で吸収されなかった光が、乳剤層と支持体、支持体と空気または圧板との間で反射して、周辺のハロゲン化銀を感光させる現象をハレーションという。ハレーション防止層を支持体内、支持体と感光層の間又は裏面に設けて反射光を吸収し、画質低下を防ぐ。
796	ハロー効果	はろーこうか	halo effect	同一感光体面上に形成された異極性の静電潜像を、帯電極性の異なる2種類のトナーで順次現像する際、一方の潜像周辺に発生する逆電界に他のトナーが附着する現象。誘導現象で画像周囲の非画像部にエッジ効果によって誘導されたトナーが現像される現象もハローといわれる。
797	ハロゲンランプ照明	はるげんらんぷしょうめい	tungsten halogen lamp illumination	ハロゲンガスを封入したタングステンフィラメントの白熱電球。高輝度で長寿命、発光波長域が広いのが特徴である。カラー複写機やアナログ複写機などのスリット露光用には長尺のハロゲンランプを用いた照明系が多く、OHPなどレンズの瞳照明用には豆球型のハロゲンランプを用いた照明系が多い。



798	半減露光量	はんげんろこうりょう	half decay exposure	帯電した光導電層の表面電位を半減させるのに必要な露光量。
799	版下	はんした	artwork	製版用を使用する原稿のこと。写真原稿（網点画像）、文字原稿、イラストなどを台紙に貼り込んでレイアウトとしたものを完全版下と呼ぶ。最近では、電算写植・電子組版・DTPなどのシステムでレイアウトしてプリンタで出力したものを版下ともいう。
800	反射濃度	はんしゃのうど	reflection density	印画紙や、紙上の記録画像を対象とした光学濃度で、入射光に対する反射光の比率として計測される。ISO-5シリーズ等で規格化されている。（参照 光学濃度）
801	バンディング	ばんでいんぐ	banding	画像のハーフトーン部に出現する帯状の濃度ムラをいう。ハーフトンドットの間隔が機械系の速度変動により変わる場合等に発生し、スポット露光走査方式の場合に発生することが多い。
802	反転現象 [電子写真]	はんでんげんぞう	reversal development, discharged area development	光照射で表面電位が低下した部分にトナーを付着、現像する方法。現像電極に表面電位とほぼ同じ電位を印加して暗部と明部の電位差を逆転させ、かつ形成した表面電位の極性と同一極性に帯電させたトナーを用いる。ネガポジ型の現像法。
803	反転現象 [写真]	はんでんげんぞう	reversal development	露光した感光材料をポジ画像に反転させる現像法。一般には最初の現像によってできたネガ画像銀を漂白液で除去し、感光材料に残っている未感光のハロゲン化銀を光又は化学的に感光させ、再び現像をすることによってポジ画像を得る処理方法。
804	半導体レーザー	はんどうたいれーざ	semi conductor laser	レーザー作動に必要な反転分布を起こすためpn接合に順方向電流を流し、少数キャリア注入により励起させる半導体光源デバイス。
805	PAPE	ぴーえいぴーいー	photo active particle electrophotography (PAPE)	光により電気的に活性化される粒子を利用する写真法の総称。別項のPEPはその代表的なものだが、この外に、熱又は溶剤で可塑化する樹脂層中に帯電露光された光導電性粒子が移動し光学コントラストを生ずる方法もある。
806	PLZTシャッターアレイ	ぴーえるぜつとていしゃつたあれい	PLZT shutter array	複数個のPLZTアレイを一次元配列した長尺の高速シャッターデバイス。記録媒体に合わせた光源と光量を自由に選択できる特徴がある。シャッターとしての動作原理は、カー効果を利用するものである。PLZTは、ジルコンチタン酸鉛にストロンチウムをドープした透明なセラミック。
807	ビーディング	びーでいんぐ	beading	記録紙上で隣接ドットがつながるために不規則な隙間、濃度の増大等が発生し、画質を損なう現象。インク物性と受容層とのミスマッチングが原因で、インク吸収遅れで発生する。
808	ヒートモード記録	ひーともーどきろく	heat mode recording	半導体レーザーやNd:YAGレーザー等の高エネルギー密度のレーザービームの照射により記録材料の微小部分の温度が瞬間的に上昇して非可逆変化が生じる現象を利用した記録。原理的にはサーマルヘッドで記録可能な材料が使用できる。用途ではデジタルカラーブルーフへの応用が代表的。
809	PPC複写機	ぴーぴーしーふくしゃき	plane paper copying machine(PPC)	普通紙へ画像形成を可能とする複写機を指すが、狭義には転写(間接)型電子写真法を採用した複写機を意味する。
810	ビームウエスト	びーむうえすと	beam waist	基本モードのガウスビームでスポットの大きさが最小になる位置。
811	ビームエキスパンダー	びーむえくすばんだー	beam expander	レーザー光などを細いビームから太いビームに変換するように構成された2組の焦点位置を合致させたレンズ系。
812	ピエゾインクジェット	びえぞしき	piezo ink jet system	電歪効果を利用しインクを飛翔させるインクジェット方式。印加電圧によって吐出量を変化させる事が出来るため、ドット径変調による階調表現が可能。
813	光エレクトレット	ひかりえれくとりっく	photoelectret	光と電場を利用して絶縁性光導電体内に持続性内部分極 (persistent internal polarization:PIP)を形成した状態。PIPは、光生成キャリアが、電場で分離されてトラップされ、有限の時間、凍結される結果生じる。
814	光感度	ひかりかんど	photosensitivity	(参照: 感度)

815	光起電力効果	ひかりきでんりょくこうか	photovoltaic effect	光の照射により起電力が発生する現象。p-n 接合部、あるいはショットキー接合部に励起光を照射すると発生した電子と正孔が界面の電場により引き分けられ電位差が生ずる。
816	光キャリア生成	ひかりきやりあせいせい	photo carrier generation	光による電子や正孔（キャリア）の生成。物質の吸収する光のエネルギーにより、電子 - 正孔対が生成し、自由キャリアとなり光電現象に寄与する。
817	光強度	ひかりきょうど	light intensity	感光面に入射する光の照度すなわち単位面積当たりの入射光束で表わされる。しかし、分光感度が視感度と著しく異なる場合はこの方法は不都合なこともあるので、単位面積当たりの放射束または分光放射束を用いることもある。
818	光減衰	ひかりげんすい	photo-induced discharge	帯電された感光体において、光照射により発生したキャリアの移動により表面電荷が消失し、表面電位が減衰する現象。light decay, light discharge ともいう。光を照射しない場合は暗減衰と呼ばれる。
819	光サーモプラスチック記録	ひかりさーもぶらすチックきろく	thermoplastic recording	有機系の光導電体層に熱可塑性の樹脂層を重ねた感光体を帯電・露光した後加熱して樹脂を軟化させ、露光部を挟んで存在する静電荷のクーロン力でしわを作る。樹脂層は加熱により平滑化することで、再使用が可能となる。
820	光散乱性変化	ひかりさんらんへんか	light scattering change	透明 / 白濁変化型のリライタブルマーキングにおいて、相分離や相変化などによって光の散乱性が変化すること。
821	光定着型感熱紙	ひかりていちゃくがたかんねつし	UV-fixable thermal recording paper	ジアゾニウム塩、カプラー、必要に応じて塩基性化合物を結着剤とともに支持体上に設けた構成の発色型の記録用紙。加熱によりアゾ染料像が形成され、次いで紫外光露光により未反応のジアゾニウム塩を不活性化して再発色を防止する。
822	光電気泳動法	ひかりでんきえいどうほう	photoelectrophoretic imaging ( PEP )	液中に懸濁し、帯電した光導電性粒子を電極間に置き、電場をかけることにより粒子は逆極性電極上に付着する。これを光像を投影すると粒子は導電化して電荷が逆転、対極に泳動して対極上の画像支持体に付着し、画像を形成する。
823	光導電性	ひかりどうでんせい	photoconductivity	絶縁物や半導体に光を照射したとき導電率が増加する性質で内部光電効果とも呼ばれる。光吸収によって電子が励起され、自由電子あるいは正孔などのキャリアが発生するために起る現象。
824	光導電性粒子	ひかりどうでんせいりゅうし	photoconductive particle	光導電性を有する粒子。光により生成したキャリアにより、粒子の帯電が変化することを利用して画像形成のトナーの役目をさせる。
825	光背面記録法	ひかりはいめんきろくほう	back-exposure type electrophotography	(参照：背面露光電子写真記録)
826	光反射層	ひかりはんしゃそう	light reflection layer	光を反射させる層。光散乱性が変化するリライタブルマーキングでは、記録層の背面に光を正反射する層を形成し、光散乱状態を増幅させて画像コントラストを向上させる。通常、アルミニウムなどの金属を蒸着し設けられる。
827	光疲労	ひかりひろう	light induced fatigue	感光体に一定光量以上の光を暴露すると、その影響で帯電電位の低下や暗減衰の増加等が発生することがあり光疲労と呼ばれている。帯電と露光を繰り返す実使用時の感光体の電位安定性を劣化させる要因の一つである。
828	光分極	ひかりぶんきょく	photopolarization	光導電性絶縁体材料に光照射と同時に電場を作用させることによって、材料中に形成する電荷の分極状態。
829	光偏向器	ひかりへんこうき	light deflector	光ビームを一定の順序で走査させたり、任意の位置にランダムアクセス偏向させる装置。回転多面（ポリゴン）鏡によるもの、ガルバノメータなどで駆動する機械的な偏向器や音響光学偏向器や電気光学偏向器など非機械的なものもある。
830	光放電曲線	ひかりほうでんきょくせん	photo-induced discharge curve ( P I D C )	帯電された感光体において、光照射により発生したキャリアの移動により表面電荷が消失し、表面電位が減少する様子をあらわす曲線。light decay, light discharge ともいう。曲線から半減露光量を求め、感光体の感度を測定することが出来る。
831	引き裂き特性	ひきさきとくせい	tearing properties	熔融熱転写記録のインクが引きちぎられるときの性質。JIS K7128のトラウザー引裂法によれば切れ目を入れた試験片の切れ目を挟んだ両側を持ち試験片を引き裂くときの荷重を測定する。

832	非球面ガラスモールドレンズ	ひきゅうめんがらすもーるどれんず	aspherical glass mold lens	ガラス成形で製造した非球面レンズ。単体レンズで高性能が得られる。ガラスはプラスチックと比較して屈折率や分散の選択の幅が広く、温湿度の影響を受けにくい利点がある。
833	非晶質シリコン	ひしょうしつしりこん	a morphous silicon	a-Si:H・SiH <sub>4</sub> （シラン）ガスのグロー放電により作製する。多量のHを含み局在準位密度が10 <sup>17</sup> cm <sup>-3</sup> 以下に減少し、BやO添加によるPN制御が可能である。感光体用には高抵抗化のため微量の酸素、炭素等を添加することもある。
834	非晶質セレン	ひしょうしつせれん	a morphous selenium	a-Se。基板温度50～60程度で真空蒸着して製造する。P型半導体。ガラス転移点（45）以上で六方晶形に結晶化する。As、Teとの合金化により分光感度を調整して用いることが多い。
835	非晶質光導電体	ひしょうしつひかりどうでんたい	a morphous photoconductor	無機非晶質の光導電体の総称。非晶質シリコンのような正四面体構造を有するテトラヘドラル系と6族元素であるSe、Teを主成分とするカルコゲナイド系に分類される。
836	微小濃度計	びしょうのうどけい	micro densitometer	微小面積の光学濃度を計測する装置で、通常10～100μmの開口部を通して濃度を検出する。画像の1次元濃度分布を計測するのに用いる。マイクロデンシトメータともいう。
837	ヒストグラムイコライゼーション	ひすとぐらむいこらいぜーしょん	histgram equalization	画像の濃淡のヒストグラムをとり、頻度の高い濃淡領域は拡大し、頻度の低い濃淡領域は縮小する様な階調変換を行って、変換後のヒストグラムが一樣になるようにする画像処理。微妙な濃淡が広い領域にあるような画像は、その部分のコントラストが高くなる反面、頻度の低い濃淡の領域のコントラストが低下するという特徴を持つ。
838	非接触現像	ひせつしよくげんぞう	non-contact development	トナー層を保持する現像ローラと感光体を非接触に保ち現像する方式。交流バイアス電圧を印加する方式が一般的だが、階調再現を面積階調で行い感光体上で色重ね現像を行うデジタル方式では直流バイアスを印加する方式も用いられる。
839	非接触熱定着	ひせつしよくねつていちゃく	non contact fusing	熱源をトナーに直接触れさせずに加熱する定着方式。熱エネルギーは輻射または対流により伝達される。赤外線ランプ、キセノンフラッシュおよび面状ヒータ方式などがこれにあたる。
840	ビットマップ	びつとまっぷ	bitmap	文字や画像をビット（点）の集まりで表すこと、または表したものを。デジタルシステムでは文字・線画は符号やベクトルで扱われる事が多くこれを画像表示装置（CRTなど）で表示したり出力装置で出力するには画像信号の位置をビットの座標で表現する必要があるため、RIPを使って画像信号をビットマップに展開する。
841	引張強さ	ひっぱりつよさ	tensile strength	一樣断面の真直棒に引張荷重を加えて破断させたとき、破断に至るまでに到達した公称応力の最大値、すなわち最大荷重を負荷前の断面積で除した値をいう。抗張力あるいは引っ張り破壊強さともいう。
842	引張伸び	ひっぱりのび	tensile elongation	引張試験において材料の延性を示すもので、引張試験後の破断した試験片の永久伸びを元の長さで除した値を百分率で示す。引っ張り破壊伸びともいう。
843	比電荷	ひでんか	toner charge to mass ratio	トナーの単位質量あたりの帯電量、一般にトナーの粒度が小さいほどこの値は大きくなる。トナーの比電荷は現像効果に大きな影響がある。
844	漂白	ひょうはく	bleaching	脱銀や再現像のために、画像銀などの銀をハロゲン化銀などの銀塩に変えること。主に赤血塩や鉄キレート塩などの化合物の酸化作用により銀を漂白（酸化）する。漂白剤は、またチオ硫酸塩などの銀溶解剤と組み合わせ使用され、写真減液や漂白定着液を作る。
845	表面張力	ひょうめんちょうりょく	surface tension (energy)	インクを吐出し、液滴を形成する上で重要なインクパラメーターの一つ。記録紙上での毛細管現象によるインク吸収のメカニズムを支配する物性値。
846	表面電位	ひょうめんでんい	surface potential	帯電された感光体表面の電位を指すことが多い。透明プローブ、振動電極等を用いて直接測定される。電子写真プロセスに応じて、初期電位（V <sub>0</sub> ）、露光電位（V <sub>i</sub> ）、残留電位（V <sub>r</sub> ）等呼び分けられる。
847	表面電荷密度	ひょうめんでんかみつど	surface charge density	シートの表面に存在する単位面積当たりの電荷量。σ = K・Q/V/Lで表される。 σ = 表面電荷密度、K = 比誘電率、Q = 真空の誘電率、V = シートの電位差、L = シート厚さ
848	疲労 [電子写真]	ひろう	fatigue	電子写真で度々見られる疲労は、感光体に長時間の露光や帯電操作を継続することによって、感光体の電荷の保持性を減少させる結果として現われる現象である。この種の疲労は感光層内にトラップされた電荷に起因するとみられる。

849	広がり関数	ひろがりかんすう	spread function	単位パルス信号 (t) を入力したとき、伝送系を通った後、出力波形はある広がりを持った波形h(t) になまってしまう。このh(t) を広がり関数という。h(t) には線広がり関数(line spread function)と点広がり関数(point spread function)がある。光学系では各々線像分布関数、点像分布関数と呼ぶ。
850	ビン	びん	bin	ソータにおいて、排出された用紙を受ける柵または容器。
851	ファーストコピータイム	ふぁーすとこぴーたいむ	first copy output time	複写開始ボタンが押されてから、1枚目の用紙の後端がトレイに排出される迄の時間。
852	ファーストプリントタイム	ふぁーすとぷりんとたいむ	first print output time	プリント開始指示がなされてから、1枚目の用紙の後端がトレイに排出される迄の時間。プリンタ能力だけでなく画像処理速度も含まれる。
853	ファーブラシクリーニング	ふぁーぶらしくりーにんぐ	fur brush cleaning	毛皮や化学繊維のブラシを感光体に摺擦させて残存トナーを除去すること。通常回転ブラシの形で用いられ、トナーの飛散を防止する空気流と組み合わせられる。
854	ファーブラシ現像法	ふぁーぶらしげんぞうほう	fur brush development	トナーを付着させた柔らかい毛状ブラシで感光体表面に形成した静電潜像を摺擦して可視化する方法。動物の毛皮あるいは合成繊維を円筒状のブラシにして用いる。
855	ファラデーケージ	ふぁらでーけーじ	Faraday cage	静電界を遮蔽するような金属メッシュ又は金属板等からなる容器。この中に試料を入れて帯電量の測定に用いることができる。
856	ファンデルワールスカ	ふぁんでるわーるすりょく	Van der Waals force	分子間にはたらく引力で極近距離において作用する。粒子と平面間では表面の最近接距離の二乗に反比例し粒子径に比例する近似が一般的に用いられる。
857	FEED現像法	ふいどげんぞうほう	FEED toning system	一成分絶縁性トナーを用いた接触現像法。Floating Electrode Effect Developing の略。島状に分離して配置された微細電極（フロート電極）を表面に持つ現像剤担持体にトナー層を形成し、それを静電潜像に摺擦して現像する。フロート電極によりエッジ強調効果が得られる。
858	フィードローラ	ふいどろーら	feed roller	(参照：給紙ローラ)
859	フィニシャ	ふいにっしゃ	finisher	複写またはプリント後の用紙を丁合い、とじ、折り、穴開けおよび製本などの一連の後処理作業を自動的に処理する装置をいう。
860	フィルタ効果	ふいたこうか	filter effect	感光体に直接CMYの3色のトナー像を形成するカラー画像形成方式において、先に現像されたトナー画像が色フィルタとして作用して、後から形成されるトナー画像の色分解に影響を及ぼすこと。トナー像の作成順序をY-M-Cとすることで影響は軽減される。
861	フィルタ粒子法	ふいたりゅうしほう	color filtering powder process	ワンショットカラー法の1種。フィルタ粒子は色分解機能と加熱により昇華染色する機能を併せもつ。1層のフィルタ粒子を感光体上に形成し、像露光後に不要粒子を静電的に除去し、顕色剤が塗布された受像紙に静電転写し、加熱発色される。
862	フィルム定着	ふいるむていちゃく	thin film belt fusing	数十μm厚のシームレスベルト内部に板状セラミックヒータを配置して、加圧ローラとで形成するニップ部分のみを加熱し、用紙上のトナーを定着する方式。ベルトの熱容量が小さくクイックスタートが可能となり、待機時の不要な電力消費を削減できる。(参照：SURF方式)
863	プールフレンケル効果	ぷーるふれんけこうか	Poole Frenkel effect	電界強度の増加とともに液体中のイオンの解離速度ないしイオン密度が増える現象をいう。電子写真感光体(アモルファス型)の導電度が電界強度に依存するのはこの効果として説明されていたことがある。
864	フェイス面濡れ	ふえいすめんぬれ	orifice plate wetting	オリフィス面がインクで濡れること。吐出を続けているとオリフィス面はインクのミストなどにより徐々に濡れてくる。オリフィスの近傍にインクが在ると吐出の方向や吐出液滴サイズに影響を及ぼすため、プリンタにはワイパーなどの除去手段が設けられる。
865	フェザリング	ふえざりんぐ	feathering	ノンコートタイプの普通紙で発生する画質劣化現象の一つで、印字部の周りから鬚状にインクが滲むもので鳥の羽のように見えるためこのような名称が付けられた。これは紙のパルプ繊維が親水性でかつ多孔質であるため、その中を水性のインクが移動するために起こると考えられる。

866	フェライトキャリア	ふえらいときゃりあ	ferrite carrier	磁気ブラシ現象法で用いるキャリア。フェライトはMO-Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> で表わされる鉄酸化物、ここでMはMn <sup>2+</sup> 、Co <sup>2+</sup> 、Ni <sup>2+</sup> 、Cu <sup>2+</sup> 、Zn <sup>2+</sup> など。
867	フォトマスク	ふおとますく	photomask	半導体ICを製作するための回路パターンの原版のこと。これを通してフォトレジストに露光する。ガラス基板上に金属膜を蒸着し、フォトレジストを用いてエッチングによりパターンを形成したものが高精度の原版となるが、銀塩写真法によるマスクも多く使用される。
868	フォトリフレクティブ効果	ふおとりふらくていぶこうか	photorefractive effect	強誘電性酸化物、シレナイト化合物、化合物半導体または有機材料などに光を照射すると、電気光学効果により屈折率が変化する現象。これらの物質は、光を吸収すると自由電荷が生じ、イオンと再結合する。光の強度分布に対応した空間電荷分布が形成され、屈折率が変化する。
869	負極性放電	ふきょくせいほうでん	negative discharge	マイナス電荷を発生させる放電。一般には、電源の負極側に正極側よりも曲率半径の小さい先端部、あるいは曲率半径の小さいワイヤ状電極等を備えることにより実現する。
870	負コロナ	ふころな	negative corona	(参照：コロナ帯電)
871	フタロシアニン顔料	ふたろしあにんがんりょう	phthalocyanine pigment	無水フタル酸、尿素、金属を加熱して合成する青ないし緑色の耐熱性、耐光性に優れた有機顔料。分子の中心に金属を有する金属フタロシアニンと無金属フタロシアニンがある。各種結晶形が存在する。高い光導電性を示すので電子写真感光体の電荷発生材料として使用されている。
872	付着力	ふちやくりょく	adhesive force	主としてトナーとキャリア、あるいはトナーと感光体間で問題とされる力で、クーロン力、分極力、ファンデルワールス力等に起因するものである。付着力は現象効果と密接な関係を有する。
873	物理変化型サーマルリライタブルマーキング	ぶつりへんかがたさーまるりらいたぶるまーきんぐ	physical change type thermal rewritable marking	空隙変化、マイクロ相分離変化、結晶性変化などの物理的な変化によって、印字/消去を行うサーマルリライタブルマーキング。光散乱性が変化するものが多い。
874	不吐出(ふとしゅつ)	ふとしゅつ	misfiring	ノズルからインクが吐出しなくなる。不吐出の原因としては、ノズルの構造的破壊、目詰まり、アクチュエータの異常などがある。
875	ブラー	ぶらー	blur	画像のエッジ部のボケをいう。原因はトナーの飛散やしみによる。カラー画像のように着色材の量が増大すると発生しやすい。
876	ブラシ帯電	ぶらしたいでん	brush charging	バイアス電圧を印加した導電性ブラシを感光体に接触し帯電する方法。電荷の移動はトンネル電流によるものと放電によるものがあり、どちらを主に利用するか方式により異なる。
877	プラズマ発光アレイ	ぶらずまはっこうあれい	plasma array	プラズマディスプレイに用いられている気体放電をプリントヘッドに適用したもの。カソード電極と開口部を有するアノード電極に電圧を印加し、ヘリウム・アルゴン混合ガスを放電発光する。発光波長は、600~800nmと広い。
878	ブラッグ角	ぶらっかく	Bragg's law	W.L.Braggにより導き出された結晶格子によるX線または粒子線の回折角をあたえる条件。
879	フラッシュ定着	ふらっしゅていちゃく	flash fusing(fixing)	キセノンランプなどの閃光によって用紙上のトナーを定着させること。トナーへの熱エネルギーの供給はトナー中のカーボンブラック等による放射エネルギー吸収を利用する。
880	フラッシュ露光	ふらっしゅろくこう	flash exposure	キセノンランプに代表される閃光ランプを用いて原稿を照射し、平面保持された受像シートを一括露光する方法をいう。高速の複写機に良く用いられる。
881	フラットベッドスキャナ	ふらっとべっどすきゃな	flatbed scanner	モノクロもしくはカラーの原稿を平面基板上に置き、基板または光源と受光部が一体になった光学ユニットを移動させて走査する方式のスキャナ。受光素子として一般的にはラインCCDが使われる。出力画像の拡大率により、ドラムスキャナの方が適す事がある。
882	ブリード	ぶりーど	bleeding	異色間の境界部で起こる画質劣化現象。記録部の染料が他方にしみ出し境界が不鮮明になる。

883	プリオブジェクティブ構成	ぶりおぶじえく ていぶこうせい	pre-objective scanning system	光源側から、コリメータレンズ、光偏向器、f レンズの順に構成されている走査系。スポットを直線上に等速走査する走査系では、通常、各面が平面のポリゴンミラーを等角速度回転させて光を偏向させ、その後f レンズを配置する。
884	フリクションリタード方式	ぶりくしょんり たーどほうしき	friction retard paper feeder	給紙ローラまたは給紙ベルトと用紙の前進を阻止する部材（リタード材）の間に用紙を挟み、用紙間の摩擦係数とリタード材の摩擦係数の差によって1枚のみを取り出す給紙方式。紙の厚さや湿度の影響を受け難い。
885	ブルーノイズマスク	ぶるーのいずま すく	blue-noise mask	人間の視覚は、ある空間周波数以上ではほとんど感度がないので、疑似的なランダムパターンの分布を操作して、空間周波数分布がこの周波数以上となるようにして、画質の改良を図った濃度パターン法あるいは組織的ディザ法。通常256×256画素の大きな閾値マトリックスが利用される。
886	ブルキンエ現象	ぶるきんえげん しょう	Purkinje phenomena	各種の色刺激を含む視野の各部分の相対分光分布を一定に保って、視野全体の輝度を一定の比率で低下させたときに、長波長光の色刺激の明るさが短波長光の色刺激の明るさに比べて相対的に低く知覚される現象。言い換えれば、明順応から暗順応へ輝度レベルが低下するのに伴って、最大視感度に対応する光の波長が短波長側にシフトする現象をいう。
887	ブレードクリーニング	ぶれーどくりー にんぐ	blade cleaning	トナー像の転写后感光体上に残存するトナーを、ブレードにより掻き取るクリーニング方法。板状ゴム部材を用いた単純な構造で、駆動部分もないことから、多くの電子写真機器に用いられている。
888	フロート電極	ぶろーとでん きょく	float electrode	一成分磁性トナー現象の現象特性を、二成分磁気ブラシ法と同様にラインとベタ画像が両立できる様に、現象スリーブ表面に埋め込まれた電極をいう。フロート電極がキャリアの役割を担う。
889	プロジェクション現象	ぶろじえくしょ んげんざう	projection development	一成分非磁性トナー現象法の1種。金属ブレードと現象スリーブ間でトナーを摩擦帯電した後、潜像電界により数百μmの現象間隙を飛翔させ現像する。交流バイアスを適宜選択することにより一方向のみに均一な飛翔を形成できる。
890	フロスト法	ふるすとほう	Frost process	変形像記録の一種。カールソン感光体上に熱可塑性誘電体層を設け、帯電、露光し、加熱する。露光部・非露光部で電荷分布が異なり、表面層に働く静電力が変わるため、光像が誘電体層の静電変形の浅深として記録される。
891	プロセス制御	ぶろせすせい ぎょ	process control	種々の工程における状態量を制御することを意味することばであるが、電子写真においては出力画質の安定化(特に画像濃度と色再現)のために、電子写真プロセスの状態(電位、温度、湿度など)を検出し制御すること。
892	ブロッキング層	ぶろっきんぐ そう	b locking layer	感光体表面あるいは基板からの電荷の注入を阻止する目的で設けられる絶縁薄膜を指すことが多い。(参照: 電位障壁)
893	ブロンズ	ぶろんず	bronzing	インクジェット方式による普通紙記録時に起こる画質劣化現象で、黒色印字部が印字直後から茶色に変色してみえる現象。染料インクに特徴的なもので、紙の表面PHと関連して、染料の結晶化が起こり微結晶による散乱のため変色してみえるといわれている。
894	フロントエンド	ぶろんとえんど	front-end	ある工程・作業の手前の工程・作業やそこで使われるシステム(ハード/ソフト)のこと。電子製版工程では、DTP、CEPSの入力システムとしてのカラーキャナや画像処理装置がこれに相当し、出力装置にとってはDTP、CEPSやRIP・Severなどが相当する。
895	分光増感 [写真]	ぶんこうぞうか ん	spectral sensitization	ハロゲン化銀に色素を添加して感光波長領域を可視域や赤外線領域に広げる増感方法。添加される色素はシアニン色素やメロシアニン色素などで、感光色素と呼ばれてきたが、分光増感剤に統一される方向である。
896	分光増感 [電子写真]	ぶんこうぞうか ん(でんししゃ しん)	spectral sensitization	光電導体の光感度スペクトルの波長領域を広げる。電子写真感光体に使用される非晶質セレンはバンドギャップ幅が大きいので短波長領域に光感度を示すが、これにテルルやヒ素などを添加すると可視光領域全体に感度が広がる。また、白色粒子の光電導体でエレクトロファックスに用いられる酸化亜鉛は、色素を吸着させることにより光感度を可視光領域に広げることが行なわれている。
897	分光分布	ぶんこうぶんぷ	spectral distribution	光源や受光器の波長に対する特性を分光分布という。光源の波長特性を表す際には分光放射束や分光強度がよく用いられる。受光器の波長特性をあらわす際には分光感度と呼ばれる。
898	粉碎トナー	ぶんさいとなー	g rinded toner	カーボン、樹脂バインダー、その他添加剤を熱混練し、冷却した後、粗砕、微粉砕、分級して得られるトナーのこと。重合トナーの様な化学合成的な製造法に対比して使われる。
899	分散染料	ぶんさんせん りょう	disperse dyes	非イオン系の染料で、水に難溶である。水溶性染料にない耐光・耐水堅牢度に注目され、インクジェット捺染でも使用されている。

900	分離帯電器	ぶんりたいでんき	detach charger	転写の直後に、用紙の静電吸着力を低下させ、用紙の剛性と重力を利用して感光体から分離するためのACコロナ帯電器をいう。ワイヤー形状またはのこぎり刃状の電極を用いる。
901	平滑度	へいかつど	smoothness	紙の平らさの程度を表わす尺度。空気漏洩式、光学式などの測定法があるが、記録用紙の場合にはJIS P 8119にて規定されるベック平滑度が一般的。ガラス面と紙表面を一定圧力で押し当て、その間を規定圧力差で10mlの空気が通過するに要する時間を計測する。他にシェフィールド法もある。(参照:ベック平滑度、シェフィールド平滑度)
902	ヘイズ	へいず	haze	透明フィルム物性の一つで、不透明になる曇りの現象をいう。インクジェットでは専用OHPフィルムの性能に関わる重要な指標で、曇り度として%で表示される。数値が低いほど投影時の明度が高い。
903	平版印刷	へいはんいんさつ	lithography	水と油が反発する性質を利用して、インクがつく画像部(親油性)とインクがつかない非画像部(親水性)を形成できるようにした版材に画像を形成し、版面にインクと水を交互に与えて印刷する。(参照:オフセット印刷)
904	平板粒子 [写真]	へいばんりゅうし(はるげんかぎん)	tabular grain	外觀が平板状をした粒子。ハロゲン化銀感光材料では、粒子が平板状であると、体積の割りに受光面積が広くなり、分光増感剤や化学増感剤を受容する粒子表面も増大するので高感度化できる。平板状粒子形成技術は現代写真乳剤製造における重要技術の一つ。
905	ページ記述言語	ページきじゅつげんご	page description language (PDL)	電子的なシステムで作成された文字と画像のデジタルデータをプリンタなどの出力装置で出力するときの文書の体裁(記録を開始する位置、出力装置の解像力に応じたラスターイメージ変換など)を整えるためのプログラム言語のこと。
906	ページネーション	ページねーしょん	pagination	1ページを構成する要素(本文、見出し、表、写真、図版など)をコンピュータを使って処理した後、合成処理して1ページにまとめ上げ、出力する一連の処理のことをいう。
907	ページプリンタ	ページぷりんた	page printer	デジタル画像情報を逐次印字するシリアルプリンタに対して、1ページ分の画像情報を一旦バッファメモリに蓄えた後、ページ単位で画像出力するプリンタ。
908	ページメイクアップ	ページめーくあっぷ	page makeup	本文、見出し、表、写真、図版などを1ページの形にまとめあげることをいう。
909	ベシキュラー画像	べしきゅらーがぞう	vesicular image	ジアゾニウム塩を熱可塑性樹脂中に分散させた記録材料に紫外線を照射し光分解により発生した窒素ガスを加熱膨張させて得られた気泡(ベシキュラー)により形成された画像。気泡が光を散乱する。
910	ベタ画像	べたがぞう	solid image	線画像に対して、比較的大面積の画像部をいう。トナーで密に被覆される領域であるがエッジ効果や現像不足によって完全に被覆されない場合もある。
911	ベック平滑度	べっくへいかつど	Bekk smoothness	光学的平面仕上げられ中央に空気の漏入する円形の穴のある有効面積10cm <sup>2</sup> のガラス製標準面を試料表面に1kg/cm <sup>2</sup> の圧力で押し当て、その間を所定の圧力差で10mlの空気が通過するのに要する時間を測定する。(参照:平滑度)
912	ベルト分離	べるとぶんり	belt separation	感光体と用紙の間(通常は画像の端部)にベルトを設け、用紙を感光体より剥離する方法。ベルトは固定のタイプとエンドレスとし回転させるタイプがある。
913	変換符号化	へんかんばんごうか	transform coding	デジタルカメラ等で利用されているJPEG符号化等に用いられる画像圧縮処理の一つで、空間的に隣接する画像を複数まとめ、空間周波数領域のデータに変換する手法を言う。一般に変換によりエントロピが減少し、符号長の減少につながるほか、人間の視覚特性を利用することで、周波数に応じた各種の処理が可能である。
914	偏向電極	へんこうでんきょく	deflection electrode	帯電した着色粒子を、電気力で偏向させるもので、インクジェット記録ではインク粒子を1次元的/2次元的に偏向制御して記録像を形成している。また、トナージェット記録では、開口電極を通過したトナーの飛翔方向を制御して、精密なトナー付着位置決めを行い、高解像度を実現している。
915	放電記録	ほうでんきょく	electric discharge printing	放電を利用した記録技術。放電で生じたイオンを利用するものは、静電記録、イオンフロー記録を参照。他に放電による破壊現象を利用するもの(放電破壊記録)がある。ベースとなる紙の上に、黒色等の着色層、さらにその上に白色の表面層が形成された記録用紙に、記録針で、放電させて白色表面層を破壊し、着色層を露出させて記録する方式。(参照:静電記録、イオンフロー記録)
916	放電生成物	ほうでんせいせいぶつ	corona products, corona effluence	コロナ放電時に発生するオゾンや窒素酸化物などの活性物質およびそれ等の反応生成物の総称。感光体表面の電気抵抗を低下させたり帯電器自体を汚染して絶縁不良や帯電不良の原因となる。

917	飽和記録濃度	ほうわきろくのうど	saturated printing optical density	記録手段で得られる最大/最小濃度。一般に透明/白濁変化型では最小濃度を指し、発消色タイプでは最大濃度を指す。
918	飽和消去濃度	ほうわしよきよおんど	saturated erasing optical density	消去手段で得られる最大/最小濃度。一般に透明/白濁変化型では最大濃度を指し、発消色型では最小濃度を指す。
919	ホール移動度	ほーるいどうど	hole drift mobility	正孔（ホール）が感光体中を移動するとき、単位電界強度（V/cm）の下で単位時間（1/sec）当たりに移動する平均距離（cm）。単位はcm <sup>2</sup> /Vsecである。パルス法（飛程時間法）におけるトランジットタイム測定により求められる。
920	保護層 [リライタブルマーキング]	ほごそう(りらいたぶるまーきんぐ)	protective layer	耐性を向上させるために、リライタブル記録層の上に設けられる層。主に耐熱性、耐擦傷性、密着性、強度等が要求されるため、熱硬化性樹脂、紫外線硬化型樹脂、電子線硬化型樹脂等の強度の高い樹脂を主体とし、消材成分が併用されることが多い。
921	保磁力	ほじりょく	coercive force	硬磁性材料は外部磁界を加えていったん磁化すると、外部磁界を除いた後も磁化が残る。磁化をゼロにするには、逆向きの磁界を加えなければならない。磁化がゼロになるときの逆向きの磁界を保磁力という。
922	ポストオブジェクトティブ走査系	ぼすとおぶじょくていぶそうさけい	post-objective scanning system	光源側から、コリメータレンズ、ビーム集光作用を持つレンズ、光偏向器の順に構成されている走査光学系。光偏向器の各面に曲率を持たせることで、像面の湾曲を補正する場合もある。
923	ポストスクリプト	ぼすとすくりぷと	PostScript (PS)	米国アドビ社が開発したページ記述用のプログラミング言語で、テキストや図形の記述に人間が読むことの可能なASCIIコードを使用することを基本としている。主にプリンタや印刷用のイメージセッタでの出力に使用されている。
924	ホットオフセット	ほっとおふせつと	hot offset	熱ローラ定着方式において、トナーが過加熱されトナーの凝集力が定着ローラおよび用紙との接着力を下回った場合に、トナー層が分断して起こるオフセット現象をいう。高温オフセット。
925	ホットスタンプ	ほっとすたんぷ	hot stamp erasing method	サーマルリライタブルマーキングにおいて、温度制御され、必要な面積を持った熱板で、媒体へスタンプし画像を消去する方式。消去動作の前に事前に熱板を加熱しておくことが必要ではあるが、正確な温度制御が出来、媒体にダメージを与えることなく消去が可能。
926	ホットメルトコーティング	ほっとめるとこーていんぐ	hot-melt coating	熱溶解性インクを加熱溶解した状態で支持体上に塗布する方法。無溶剤の状態で塗布できる。対立する方法は、水系塗布、溶剤系コーティング（溶剤系塗布）など。
927	POP	ぼっぷ、びーおーびー	particle oriented paper (POP)	磁気カプセル型リライタブルの一形態で、外部磁場を印可して、フレーク状の磁性体粒子を回転させることによって印字/消去を行う記録層を設けた用紙。フレークが寝ている状態では銀色（フレークの色）、立っている場合には下層の色を呈する。
928	ホトクロミズム	ほとくろみずむ	photochromism	光によって色調が変化し、かつ光あるいは熱によって逆反応を起こし、元の色に戻る現象。具体的な材料としては、スピロベンソピラン、フルギド、メロシアンニンなどが挙げられる。
929	ポリゴンミラー	ぼりごんみらー	polygon mirror	回転軸に平行または傾いて設けられた多数のミラー面をもつもので、ビームの走査に用いる。回転多面鏡ともいう。
930	ホログラム走査光学系	ほろぐらむそうさこうがけい	hologram scanning optics	ホログラムの回折作用を活用して、ホログラムを回転させ偏向する走査光学系。
通し番号	用語	読み	英語	説明文
931	マイクロイメージング	まいくろいめーじんぐ	microimaging	オリジナル情報を1/100～1/10000程度に縮小して記録する技術。
932	マイクロトニング現象	まいくろとーにんぐげんぞう	micro-toning system	キャリアを小粒径の樹脂バインダー型粒子としスリーブとマグネットの両方を回転させた磁気ブラシ現象方式。磁気ブラシがソフトになり画像を乱すことが少ない、トナー含有量が増え現象安定性が増す、キャリア付着が発生しても悪影響がない等の効果がある。



933	マイクロフィッシュ	まいくろふいつしゅ	microfiche	フィッシュサイズ(105mm×148mm)のマイクロフィルム上に多数のコマの情報を縮小して記録したシート。マイクロフィルムリーダーで所望のコマを拡大して読む。
934	マイクロフィルム	まいくろふいるむ	microfilm	文書や印刷物などを縮小して記録、保存するために使用される写真用フィルム。または文書や印刷物などを縮小して記録してあるフィルム。縮小率は普通1/8～1/40。
935	マグネダイナミック現像法	まぐねだいなみっく(げんぞう)ほう	magnedynamic development	導電磁性トナーを用いる現像方法。導電性の現像ローラ表面に磁力でトナーを保持し、静電潜像と接触させる。導電性トナーに静電潜像と逆の電荷が誘起され現像が行われる。
936	マグネットローラ	まぐねつとろーら	magnet roller	磁石で形成されたローラまたはスリーブ内に磁石を内包するローラ。現像装置、クリーナ等に用いられる。フェライト磁石、ゴム磁石等を貼り合わせたり、磁性体含有樹脂を用いて成型後着磁するなどの方法により作製される。
937	マグネトグラフィー	まぐねとぐらふいー	magnetography	磁気記録媒体に磁気潜像を形成し、磁性トナーで現像して可視像となし、紙に転写してハードコピーを得るハードコピー技術。一度作られた磁気潜像は容易に減衰しないので、1度の潜像記録から多くのコピーを得ることができる。温湿度の変動にも強い。
938	膜沸騰	まくふつとう	film boiling	液体に接した物体の表面が急速に高温になったときに、界面付近の液体が瞬間的に気化する現象。発泡の瞬間の気泡内の圧力は水の場合30気圧以上に達するが、気泡が成長するのに伴い内圧は大気圧以下となり消泡する。バブルジェットはこの現象を利用している。
939	摩擦帯電	まさつたいでん	t riboelectric charging	絶縁性材料の表面を摩擦すると静電荷が現われる現象。電子写真ではこの現象を乾式トナー粒子に電荷を与える有効な手段として利用している。
940	マスクング	ますきんぐしより	masking	ある色空間から別の色空間に変換する際に使われる色処理手法の1つで、入力色空間にマトリックス演算を施して出力色空間を求める手法。通常、色空間は3次元であるので、線形ならば3×3マトリックスとなるが、入力の2乗、クロスターム等を加えて、次数を高めていくことが可能。次数が高ければ変換精度が上がるが、画像処理の規模が増大する。
941	マットコート紙	まっとこーとし	matt coated paper	インクジェット記録適性を持った無光沢(マット)コート紙。シリカなどの無機顔料を主成分としたインク受容層を有し、インク吸収の速度と染料の発色性に優れる。インクは顔料粒子が作る隙間から毛管力で吸収される。
942	マルチスタイラスヘッド	まるちすたいらすへつど	multi-stylus head	(参照：多針電極)
943	マルチタイム熱転写リボン	まるちたいむねつてんしゃりぼん	multiple-use thermal transfer ribbon	同じ場所を複数回繰り返して印字に使用できる熱転写インクリボン。石垣構造のインク層から低融点インク成分が滲みだす機構や海島構造のインク層を表面から少しずつ剥がして転写する機構で多数回の使用を可能にしている。熱転写マルチリボンと同じ。
944	マルチチップ型センサ	まるちちつぷがたせんさ	multiple chip image sensor	密着型イメージセンサの1種。原稿の巾を複数のIC型センサを組み合わせるカバーする。感光部を千鳥型に配置する場合と、一直線上に配置する場合(インラインセンサ)があり、千鳥型の方が駆動はやや複雑になるものの解像力、S/N等の性能で優れる。
945	マルチチャンネルレーザーヘッド	まるちちゃんねるれーざへつど	multi-channel laser head	プリント速度を速くするために、複数のレーザービームを照射する光源ユニット。レーザーダイオードと光学系との組み合わせにより複数のレーザーダイオードを配置するものと、一つのパーティップのレーザーダイオードからのビームを分割するものとする。
946	マルチパルス駆動方式	まるちばるすくどうほうしき	multipulse driving method	消去バーやサーマルヘッドに加えるエネルギーの印加を複数のパルス列で構成する方式。(参照：パルス数制御方式)
947	マルチビーム発生方式	まるちびーむはつせいほうしき	multibeam generation method	複数ビームを発生させるため、複数の半導体レーザーを用いたり、複数ビームを発光する半導体レーザーを用いたり、音響光学変調器により一本のビームを複数のビームに分離させている。LBPやデジタル複写機の高速度や高密度化のために、複数の光ビームを同時偏向させる光書き込み方式に用いる。
948	マルチメディア	まるちめでいあ	multi media	文字、音声、画像など複数タイプの情報(コンテンツ)をデジタル信号化し、縫ぎ目なく(シームレス)、かつ双方向(インタラクティブ)に時間的・空間的に同期をとって取り扱うメディアをいう。
949	万線(まんせん)スクリーン	まんせんすくりーん	line screen	規則的に密に並んだ平行線で構成されたスクリーンのこと。線の太さを画像の濃淡に応じて変化させることで階調表現する。特殊効果をねらった印刷などに使われる。レーザービームプリンタやインクジェットプリンタなどでも使われる階調表現方式のひとつ。

950	ミクロ相分離変化	みくろそうぶんりへんか	micro phase separation	二種以上の材料の相溶と分離による光散乱性変化によって、印字/消去を行うリライタブルマーキングの変化原理。例としては、高分子/液晶分散型やポリマーブレンド型などがある。
951	ミスト	みすと	mist	インクジェットにおいては、ノズルからインク滴が吐出するときに、伴って発生する微小なインク滴。紙に着弾せずヘッド周りやプリンタ機内に浮遊し付着して汚染する原因となるため抑制が必須である。
952	水無し平版	みずなしへいはん	dry offset printing	従来の平版印刷では版材に、インクがつく(親油性)画線部とインクがつかない(親水性)非画線部を作成し、版面に水とインクを交互に与えて印刷する。水なし平版印刷では非画線部を撥油・撥水性にした版材を使用して、水を与えずに油性インクのみで印刷する。
953	ミスフィード	みすふいーど	miss feed (feeding)	用紙送り出し部から用紙が送り出されず機械が停止する事。原因として、給紙ロールの劣化や紙特性の不良による滑りがある。
954	密着型センサ	みっちゃくがたせんさ	contact image sensor	リニアイメージセンサの一種で、感光素子を原稿の中と同じ長さに配置した固体撮像素子のこと。ロッドアレイレンズを利用して原稿を1対1の大きさで読みとる。低価格化のため、薄膜型感光素子、レンズ不要の完全密着型の感光素子の利用が進んでいる。
955	ミニラボ	みにらぼ	minilab	小さな処理ラボの意味で、カラーフィルムの現像とそのプリントを店頭で行う店又は装置。主にカラー感光材料の処理で、フィルムの現像から、プリント仕上げまでを、非熟練作業でも簡易迅速に処理作業ができる様に設計された現像プリントシステム。
956	ミラー移動式光学系	みらーいどうしきこうがくけい	full-rate half-rate mirror scan optics	原稿台固定結像系の一つ。感光体表面の速度vに対して第一のミラーを速度v、第二のミラーをv/2の速度で移動させ、光路長を一定に保つ。光学系に必要な空間が比較的小さいことが特徴。
957	ミラー回転式光学系	みらーかいてんしきこうがくけい	mirror scan optics	原稿台固定結像系の一つ。回転ミラー軸を中心軸とした円筒面をプラテンとしてもち、回転ミラーを感光体の回転と連動して回転往復動をさせることで走査結像する。比較的高速動作が可能で高速複写機に用いられる。
958	無機系感光体	むきけいかんこうたい	inorganic photoreceptor	無機光導電性材料を用いた電子写真感光体。酸化亜鉛、硫化カドミウムの微粒子を樹脂中に分散した感光体と真空蒸着による非晶質セレン感光体やガスの高周波放電分解により作成する非晶質シリコン感光体がある。
959	明順応	めいじゅんのう、あんじゅんのう	light adaptation	明順応は3cd・m <sup>-2</sup> 程度以上で、まぶしさを感じない程度の輝度刺激に対する輝度順応。明順応ではほとんど、錐状体だけが働くと考えられる。暗順応は約0.03cd・m <sup>-2</sup> 程度以下の輝度刺激に対する輝度順応。暗順応状態ではほとんど、桿状体だけがはたらくと考えられる。
960	明度	めいど	lightness	物体表面の相対的な明暗に関する色の属性。明度は視感反射率(三刺激値の一つ"Y")の関数として記述される。色立体では縦軸方向を明度軸とし、北極を最も明度が高い(明るい)白、南極を最も明度が低い(暗い)黒としてその間を等歩度に分割している。
961	メジアンフィルタ	めじあんぷいゐるたー	median filter	画像処理において使用されるフィルタの一種で、ある画素を中心とする5×5等の小領域や、十字状の領域で画面を走査し、この小領域内の画素の中央値(メジアン)を用いるフィルタ処理。エッジの再現性劣化を防ぎながら孤立点等を除去する。
962	メタメリズム	めためりずむ	metamerism	分光スペクトル分布の異なる2つの色刺激が、特定の条件で同じ色に見えること。条件等色ともいう。
963	目詰まり	めづまり	clogging	インク吐出孔(オリフィス)が、増粘・固化したインクにより塞がれる現象。初期のインクジェットプリンタでは多発し、信頼性の問題として解決が急がれていた。現在では、インク組成の改良、プリンター本体の回復系の進化等により、解決されている。
964	メニスカス制御	めにすかさせいぎょ	meniscus control	吐出の瞬間のメニスカス(ノズル内の液面)の形状を制御すること。メニスカスの形状により吐出する液滴の大きさを変化させることができる。
965	面順次塗布	めんじゅんじとふ	panel sequential coating	インクリボンの3原色が順番に塗布されている状態をいう。例えば面状にシアン、マゼンタ、イエローの順に繰り返し塗布されている状態を示す。
966	面順次方式	めんじゅんじほうしき	frame sequential method	スキャナでカラー画像を読み込むとき、または、熱転写記録法等でカラー画像をプリントするときの方式の一つ。一つのカラー画像について、一般にイエロー、マゼンタ、シアンの3色に分けて画像の読み取りあるいはプリントの操作を3回繰り返し行う。

967	面状ヒーター定着	めんじょうひー たーていちゃく	plane heater fuser	面状の加熱源をトナーおよび用紙と対向させ、発熱面積を大きくすることで熱源温度を下げ、遠赤外線放射および対流により熱エネルギーを供給する非接触定着方式。大版用紙の定着装置として主に用いられるが、紙詰り時の発煙発火対策が必要。
968	面積階調	めんせきかい ちょう	area coverage modulation	網点の大きさと階調を再現する方法。デジタル方式の場合画素は二値ドットで形成されることが多く、面積階調が主となる。中間調の再現には濃度パターン法やディザ法などが用いられる。
969	面走査方式	めんそうさほう しき	area image sensing	原稿像を撮像管、二次元CCDなどのエリアセンサーによって画像全面を一括して走査する方式。
970	面倒れ補正光学系	めんだおれほせ いこうがくけい	optical face tangle error correction for laser scanning system	ポリゴンミラーの回転によるレーザ走査光学系で、ポリゴンミラー各面の回転軸に対する面の倒れを光学系で補正する方式。副走査方向でポリゴン面と感光体上の結像位置とを共役関係にすることで、面の倒れが副走査方向の走査線のピッチズレにならないよう配慮されている。
971	面内記録	めんないきろく	in-plane recording	磁気記録媒体の膜面に平行に磁化パターンを記録する方式。磁化の向きを反転させることにより、膜面内に磁化転移領域が形成される。
972	モアレ	もあれ	moire	周期性のあるパターンが重なり合うこと（光学的干渉）によって発生する2次的なパターン。カラー印刷では、C、M、Y、K各版の網点の重なり、あるいは周期性のある画像と網点との干渉で発生する。互いの重なり合う角度、周期によって視覚的に見え易さが異なる。
973	モーションクオリティ	もーしょんくお りてい	motion quality (MQ)	複写機、プリンタの可動部要素がもつ速度、回転ムラなどの機械的な変動の質を意味する。特にスポット露光により画像が形成されるデジタル機では画像品質を定める重要な要因となる。
974	MOS型センサ	もすがたせんさ	MOS image sensor	フォトダイオードで光電変換して得られた信号電荷を周期的にMOS-FETのゲートを開いて読み取る方式のイメージセンサ。CCDに比べ信号電荷の蓄積機能がないのでS/Nで劣るが読み出し回路に蓄積・増幅機能を持たせるなどの工夫によりS/Nを改善している。
通し番号	用語	読み	英語	説明文
975	融解熱	ゆうかいねつ	heat of fusion	定温での融解にともない吸収される熱量。潜熱の一種で、その大きさは同じ条件での凝固にともない放出される凝固熱に等しい。
976	有機感光体	ゆうきかんこう たい	o rganic photoreceptor	有機光電導体を用いた電子写真感光体。フタロシアン系、ピアソ系顔料等を分散させた光キャリア発生層、ヒドラゾン系、アリールアミン系等の化合物を樹脂に相溶させたキャリア輸送層とを積層させた機能分離型感光体が多く用いられている。
977	有機記憶層	ゆうききおく そう	organic memory coating (OMC)	ある種の樹脂に光分解性の低分子化合物を含有させ、光照射を行うと導電性になり、それが長時間のコロナ帯電でも回復しない現象を示す。
978	有機光電導体	ゆうきひかりで んどうたい	o rganic photoconductor (OPC)	光照射による電子遷移の結果、物質内部で移動可能な自由キャリア（電子あるいは正孔）が生成し、輸送されて光電流を生じる光導電現象を示す有機化合物の総称。アントラセン、フタロシアンなどの化合物やポリビニルカルバゾールなどの高分子化合物がある。電子写真感光体ではアゾ顔料やフタロシアン顔料などの有機光電導体が電荷発生材料として用いられている。
979	有効走査時間	ゆうこうそうさ じかん	effective scanning rate	ポリゴンミラーの回転によるレーザ走査光学系で、ポリゴンミラーの回転数により決まる走査時間と実際に画像領域の走査時間の比率をいう。走査効率ともいう。
980	UCR	ゆーしーあー る	under color removal (UCR)	(参照：下色除去)
981	誘電性液体	ゆうでんせいえ きたい	d ielectric liquid	液体现像剤に用いるトナーの分散媒体で、トナーを所定の極性に帯電させる高電気抵抗、低誘電率、低粘度液体。キャリアでもあり。一般に脂肪族炭化水素を用いる。
982	油性インク	ゆせいいんく	solvent ink	非水系の溶剤（アルコール等）からのみ組成されたインク。臭気を帯びる為、一般に工業用途に用いられる事が多い。

983	溶剤定着	ようざいてい ちゃく	solvent fixing	用紙上のトナーに、気体状溶剤を吸収させ、膨張、溶解してトナー相互および用紙面をぬらし固着させる方法。トナーの粘度が下がりとすぎると横方向へ急激に広がり画像が太るために解像力が低下する。
984	溶融型熱転写法	ようゆうがたね つてんしゃほう	thermofusible transfer	常温では固体のインクを、熱を加えて溶融または軟化させて被記録紙に転写する記録方法。
985	溶融定着	ようゆうてい ちゃく	fusing	用紙上のトナーを加熱することにより溶融し、トナー相互、トナー用紙間との接着により溶融固着させること。単に定着ともいう。
986	溶融粘度	ようゆうねんど	melt viscosity	溶融熱転写インク等の物質の溶融状態における粘度。
987	横目	よこめ	short grain	(参照：縦目)
988	横モード	よこモード	transverse mode, lateral mode	レーザ共振器もしくは光導波路の光軸に垂直な方向の電磁界のモード。最低次のモード(TEM00モード)は特に基本モード(fundamental mode)と呼ばれ、その光の場の分布はガウス分布の形で与えられる。
989	読み取り光学系	よみとりこうが くけい	image scanning optical system, image reading optical system	CCDなどのイメージセンサーに原稿を読み込むための光学系で、等倍(密着)型と縮小型とある。等倍型はSLAなどの結像素子を用い、縮小型はレンズを用いる。照明系はハロゲンランプや蛍光灯が用いられている。イメージセンサは1次元状なので、原稿または光学系のスキャンを必要とする。
990	ヨレ[インクジェット]	よれ	misdirection	インク滴が記録紙上の所定の位置からずれて着弾する事。ヘッドのフェイス面濡れにより発生する事が多く、結果として、印字部の白スジ・黒スジとして画質を損なう。
通し番号	用語	読み	英語	説明文
991	ラインイメージセンサ	らいんいめーじ せんさ	line image sensor	通常、数千から1万画素を直線状または千鳥状に配列したイメージセンサ。カラーセンサでは一般に3ラインセンサが用いられる。(参照：リニアイメージセンサ)
992	ライン画像	らいんがぞう	line images	文字や図形など線で構成されている画像。一般の写真のような連続階調をもつ画像の場合と異なり、再現には鮮鋭さが重視される。(参照：線画像)
993	ラインヘッド	らいんへつど	line scan head	固定されたヘッドの下を記録媒体を送ることによって記録を行う方式のヘッド。高速なプリントが可能であるが、記録巾をカバーする長尺ヘッドが必要であり、ヘッドのコストは一般的に高い。
994	ラジアント定着	らじあんてい ちゃく	radiant fusing	輻射熱を主体とした定着方法。熱源には2500°K程度のフィラメント温度をもつ石英ランプが多く用いられる。輻射率の高いトナーにエネルギーが集中し、効率は比較的高いが、用紙が停止した際の発火の防止策が必要。赤外線ランプ定着方式ともいう。
995	ラジエッドネス	らじえつどねず	raggedness	画像のエッジのシャープネスを劣化させる要因のことである。トナー画像のエッジ部がギザギザ(凹凸の)形状をしている程度をいう。
996	ラスタ走査	らすたそうさ	raster scanning	平行な水平方向の走査でできている走査線の群で構成された画面をラスタといい、テレビジョンの1フレームの絵がこれに相当する。
997	LUT(ラット)変換	らつとへんかん	Look Up Table conversion	データ変換テーブルを利用したデータ変換方法のこと。たとえば、メモリのアドレスバスに入力値を、メモリのデータバスに変換後の出力値に対応させるように、変換用のデータをメモリに格納しておく。アドレスにデータ入力すれば、所望のデータ変換結果がデータバスに
998	ラブラシアンフィルタ	らぶらしあん ふいるたー	Laplacian filter	着目画素の近傍3×3あるいはそれ以上の領域における空間2次微分値を係数倍して着目画素から引くことにより、画像をシャープにするフィルタ。原理的にはアンシャープマスクと同じ。出力される。

999	ランダムドットスクリーン	らんだむどつとすくりん	random dot screen	(参照: 網点階調再現, FMスクリーニング)
1000	ランドルト環指標	らんどるとかんしひょう	Landolt ring	視力測定で, 指標として用いる切れ目の入った黒いC型の環。黒い環の幅と切れ目の幅は, 何れも外径の1/5と規定されている。切れ目の幅を分単位の視覚で換算し, その逆数を視力とする。
1001	ランレングス符号化	らんれんぐすぶごうか	run length coding	ファクシミリ画像などの同じ値(ファクシミリでは黒または白)の画素が連続して出現しやすい画像を符号化する方法で, 画素の値とその連続する長さを用いて符号化する。G3ファクシミリのMH符号化の場合は, 白か黒の画素値が交代に出てくるので, 長さ情報だけを符号化している。
1002	リーダプリンタ	リーだぶりんた	reader printer	マイクロフィッシュやマイクロフィルムに縮小記録された情報を拡大して読むための装置で, ハードコピーが得られる機能を有している。
1003	離型剤	りけいざい	release agent	定着ローラへのトナーのオフセット防止のために定着ローラ表面に塗布する液体。通常シリコンオイルが用いられ, 定着ローラ表面とトナーとの間に低凝集力層を形成する。定着ローラ表面と化学反応させて強固な液膜を形成する場合もある。
1004	リス現象	りすげんぞう	lithographic development	(参照: 製版用フィルム, 硬調現象像)
1005	RIP(リップ)	りっぷ	raster image processor	電子的システムで処理・編集されたデジタル信号をラスタ方式の出力装置で出力するために走査線方式の画像データ(ラスターイメージ)に変換するプロセサのこと。コンピュータ本体のコマンド, ページ記述言語を解釈してラスターイメージに変換する。
1006	リニアイメージセンサ	りにあいめーじせんさ	linear image sensor	感光素子を直線状に配列した固体撮像素子のこと。原稿を, その一端から走査線により一次元的に読みとり, 時系列信号に変換するために使用する。これに対し原稿を, 二次元的に配置した感光素子により読みとる固体撮像素子をエリアイメージセンサという。
1007	硫化カドミウム	りゅうかかどみうむ	cadmium sulfide	CdS感光体材料に使用される光導電性を有する黄色結晶。N型で負帯電で用いられ, 分光感度は視感度に近い。暗抵抗が低い(10 <sup>12</sup> Ω・cm以下)絶縁性樹脂に分散して電子写真用に使用される。
1008	粒子配向	りゅうしはいこう	particle orientation	熱可塑性フィルム内にランダムに分散した薄片状不透明物質(例えばグラファイト片)に静電像を与え, 加熱により軟化させると粒子は電界と同方向に配列する現象。粒子の配列状態により光透過性が異なることを利用し画像を形成する。
1009	粒状性	りゅうじょうせい	graininess, granularity	画像のざらつきをあらわす。画像形成物質(例えばトナー)が粒子性であれば目立つ。濃度のゆらぎを空間周波数の関数で表わすウィナーズスペクトルがその定量化の一例である。
1010	粒度分布	りゅうどぶんぷ	particle size distribution	粉体等における粒子径の分布のこと。不定形粒子における粒子径には三軸径平均, 球体相当径など多数の表現法がありいずれかが用いられる。個数分布, 体積分布などに基づく分布曲線で表わされる。
1011	両極性帯電紙	りょうきょくせいたいでんし	bicharge paper	正帯電, 負帯電のそれぞれで電子写真特性を有する電子写真感光紙, トナーの極性を変えることなくポジ, ネガのマイクロフィルムからポジのハードコピーが得られる。ZnO塗工紙が実用化されている。
1012	量子化誤差	りょうしかごさ	quantized error, quantization error	スキャナ等で読み取ったアナログ画像を量子化してデジタル画像にする際に発生する原画像と量子化された画像の差。
1013	量子効率	りょうしこりつ	quantum efficiency	感光体中に入射する光子数と発生するキャリア数との比。理想的に光子1個に対しキャリア1個又は1対が発生する時, 量子効率は1となる。電子写真的には光減衰曲線の初期の傾きから求める方法がある。量子収率ともいう。
1014	両性顕減色剤	りょうせいけんげんしよくざい	amphoteric developing/reducing reagent	(参照: 顕減色剤)
1015	リライタブルカード	りらいたぶるかーど	rewritable card	リライタブルマーキング媒体を用い, その表面に記録部を設けたカード。繰り返しで印字/消去が可能で, 主にプリペイドカードやポイントカードとして利用されている。

1016	リライタブル感熱記録	りらいたぶるかんねつきろく	rewritable thermal printing	(参照：サーマルリライタブルマーキング)
1017	リライタブル記録	りらいたぶるきろく	rewritable printing	(参照：リライタブルマーキング)
1018	リライタブル特性	りらいたぶるとくせい	rewritable characteristic	リライタブルマーキングにおける繰り返し耐久性および繰り返し履歴、書き換えインターバル履歴、外部エネルギー履歴などの履歴後の印字/消去特性のこと。
1019	リライタブルマーキング	りらいたぶるまーきんぐ	rewritable marking	熱、光、磁気、電界、圧力等のエネルギーを与えて可視画像を形成し、その可視画像はエネルギーを与えることなしに保持し、再びエネルギーを与えると可視画像が消去され、その繰り返し可能なマーキング技術をいう。この方式には、サーマルリライタブル、磁気リライタブル及びホトクロミズム、エレクトロミズム等を利用したのものがある。
1020	臨界融合頻度	りんかいゆうごうひんど	critical fusion frequency	臨界融合周波数ともいう。点滅する光の頻度を次第に高めていくと、約30から40 Hzであったかも連続光のように見える。このようにちらつきを感じずに連続光に見え始める頻度をいう。
1021	ルーフミラーレンズアレイ	るーふみらーれんずあれい	roof mirror lens array	レンズを多数並列に配列し、各光路中に屋根型のミラーを配することで正立等倍像を実現し、各レンズの像を重ね合わせて全体で1個の連続像を形成する光学系。(参照：レンズアレイ)
1022	励起子	れいきし	exciton	半導体や絶縁体を光励起したときに生ずる電子と正孔が対となった中性の粒子。この粒子は移動しても電流にはならないが、エネルギーや熱は伝えることができる。格子や不純物と衝突して電子や正孔が分解して電荷を持った粒子となることがある。
1023	冷時剥離	れいじはくり	peel-off after cooling	溶融型熱転写記録で、加熱により軟化あるいは溶融したインク層が冷却固化した後にインクリボンが被記録媒体から引きはがすこと。対する用語は熱時剥離。
1024	レイリーの解像限界	れいりーのかいぞうげんかい	Rayleigh criterion for resolution	2つの点像が識別できる最小の間隔。2つの点像を近づけたとき一方の回折像の最初の極小と他方の主極大が一致するときまでを2点が分離すると定義した。定義したレイリー卿の名をとり、レイリーの解像限界という。
1025	レイリーリミット	れいりーりみっと	Rayleigh limit (criterion) for aberrations	レンズに残存する波面収差の最大値が1/4波長以下であれば、理想像に近いとみなす。定義したレイリー卿の名をとり、レイリーリミットといい、レンズの評価の基準としている。
1026	レーザ走査光学系	れーざそうさこうがくけい	laser scanning optical system	コリメートされたレーザー光を回転多面鏡で回転走査し結像レンズによりライン走査する光学系をいう。レーザROS (raster optical scanner)ともいう。回転多面鏡が結像レンズの前か後か2方式ある。
1027	レーザ熱転写	れーざねつてんしゃ	laser thermal transfer	レーザを熱源として、転写体のレーザ露光部における昇華、溶融などの相変化、物理的变化により、転写層の構成素材または、層全部を被転写体に移行させること。サーマルヘッドに比べ、レーザを用いることにより、高精細、高解像度の画像が得られる。
1028	レーザプリンタ	れーざぷりんと	laser printer, laser beam printer	光源にレーザを用いたプリンタ。一般には電子写真方式によるものを指す。画像信号により変調されたレーザ光を収束しスポットに結像させる光学系とスポットを感光体上にスキャンさせる回転多面鏡等の走査系を持つ。レーザビームプリンタ(LBP)ともいう。
1029	レーザヘッド	れーざへつど	laser head	サーマルプリントの加熱ヘッド部にレーザを使用する場合のプリントヘッド。
1030	レジストレーション	れじすとれーしょん	registration	画像(潜像)と用紙の先端位置合せをいう。カラー機の場合には三(四)色間の色位置合せを意味する。(参照：色ずれ)
1031	レジ系インク	れじんけいいんく	resin type ink	熱溶融性インクの一つで、インクに含まれる熱可塑性物質の主成分が樹脂であるもの。表面平滑性の低い記録紙への印字や、耐擦過性等の画像耐久性を目的とする用途に使用される。対立するものはワックス系インク。
1032	レスポンス特性	れすぽんすとくせい	response function	(参照：MTF)

1033	レンズアレイ	れんずあれい	lens array	正立像を形成するレンズエレメントを多数並列的に配列し、像を重ね合わせて全体で1個の連続像を形成する光学系。通常のレンズと比較して物像間距離を小さくできる特徴がある。複写機、ファクシミリ、プリンタ等で使用されている。レンズエレメントとして、棒状レンズを用いるものをロッドレンズアレイ、屈折率分布型レンズを用いるものを収束性光ファイバーレンズアレイあるいはSLA(商品名)、屋根型のミラーとレンズを用いたものルーフミラーレンズアレイという。
1034	ロイコ染料	ろいこせんりょう	leuco dye	酸化還元に伴って可逆的に色調が変化する有機色素。一般に還元型は無色で酸化型は濃色である。発色剤と略称されることが多い。染料タイプ感熱紙に用いられる。染料の共鳴構造部位を水添し無色化したものも同一名称で呼ばれる。この化合物も酸化されて濃色の染料となるが反応は不可逆である。区別するために後者は染料ロイコと呼ばれることが多い。
1035	ロイコ染料型サーマルリライタブルマーキング	ろいこせんりょうがたさーまるりらいたぶるまーきんぐ	leuco dye type thermal rewritable marking	(参照：化学変化型サーマルリライタブルマーキング)
1036	ロータリ現像機	ろーたりげんぞうき	rotary developing units	カラー電子写真における現像機配置の一つ。複数の現像機を回転移動させ、必要な現像機だけを感光体に対向させる方式。感光体の小型化が可能。回転現像機ともいう。
1037	ローラ帯電	ろーらたいでん	r oller charging	帯電ローラを接触させて感光体を帯電する方法。交流電圧を印加する方法と直流電圧を印加する方法がある。感光体への電荷移動は主に微小間隔での放電による。コロナ帯電器よりオゾンの発生量が少ない、印加電圧が低い等の利点がある。
1038	ローラ転写	ろーらてんしゃ	r oller transfer	感光体上のトナーを記録紙を重ねて裏面から導電性のローラを接触させ、トナーと逆極性の電圧を加えて静電的にトナーを記録紙に転写する方法。オゾンの発生が極めて少なく、低電圧で高速転写が可能である。圧力が加わるため線画の中央部が転写しにくい欠点もある。
1039	ロール給紙装置	ろーるきゅうし	roll paper feeder	ロール状の用紙を切断して給紙する装置。原稿に対する用紙の切断長さにより、ステップカット(段階的に選択)、ランダムカット(任意)、シンクロカット(原稿サイズと同一)の3種類がある。
1040	ロール自動給紙方式装置	ろーるじどうきゅうしほうしき	automatic roll paper feeder	ロール状の用紙を自動的に切断して給紙する装置。
1041	露光	ろこう	exposure	感光層に光像を照射すること。照度と照射時間の積を露光量という。本来は写真用語であるが、電子写真の場合には、層表面に静電像を形成する工程をさす。
1042	ロジスティック関数	ろじすていっくかんすう(ぶんぶ)	logistic function	医薬品の量と死亡率の関係の様な、ある刺激によって、2値的に変化するシステムの刺激量とその結果の累積分布の関係を比較的良く表すとされている関数で、人間の感覚等を評価するのに利用されている例がある。
1043	ロスレス符号化	ろすれすぶごうか	lossless coding	画像の符号化において復号画像が原画像と完全に一致し、歪(ロス)が生じない符号化。可逆符号化ともいう。2値画像では必須で、MMR、JBIGなどはこの例。多値画像でもCG画像や医療用などで必要で、可逆型DPCM、可逆型変換方式などで実現される。
1044	ロッシェ符号化	ろっしーぶごうか	lossy coding	画像の符号化において復号画像が原画像と必ずしも一致せず、歪(ロス)が生じる符号化。非可逆符号化ともいう。ロスは前処理、情報源変換方式、情報源変換における量子化などの段階で生じるが、ロスの制御により画質に応じ符号長を制御することができる。
1045	ロッドレンズアレイ	ろっどれんずあれい	rod lens array	棒状のレンズを多数並列的に配列し、各レンズによる正立等倍像を重ね合わせて全体で1個の連続像を形成する光学系。(参照：レンズアレイ)
1046	ロドプシン	ろどぷしん	rhodopsin	視細胞特に桿状体中に含まれる感光物質(視物質)。波長500nmあたりに吸収ピークを持ち、光によって分解し、このことが視神経によって脳へ伝えられ、視覚を生じる。
通し番号	用語	読み	英語	説明文
1047	歪曲収差	わいきょくしゅうさ	distortion	レンズの収差の1種で画像の歪みをいう。正方形物体を糸巻状に歪ませるタイプと樽型に歪ませるタイプの2つの典型例がある。

1048	ワックス型熱転写	わっくすがたね つてんしゃ	wax transfer thermal printing	熔融熱転写記録で、ワックス系インクを用いる記録方法。
1049	ワックス系インク	わっくすけい いんく	wax type ink	熱溶解性インクの一種で、インクに含まれる熱可塑性物質の主成分がワックスあるもの。対立するものはレジン系インク。
1050	ワンショットカラープロセス	わんしょつと からぶろせす	one shot color process	一般に電子写真法では3色分解により3ないし4回(墨版を含む場合)のプロセスでカラー画像を得るが、本プロセスでは3原色に対応する分光感度を持つ光導電性トナー、またはフィルタ粒子の混合物を利用し、1回のプロセスでカラー画像を得る。(参照：フィルタ粒子法)